

# G-ARMOR

E.F.S.F. PR  
RX-78 GUY  
TACTICAL SUPPORT FIGHTER  
-FIGHTER REALTYPE COLOR

BANDAI 2008 MADE IN JAPAN | WWW.BANDAI.COM | 05210000000000000000



MG  
MASTER GRADE



BAN  
DAI



# G-ARMOR

E.F.S.F. PROTOTYPE TACTICAL SUPPORT FIGHTER  
RX-78 GUNDAM+G-FIGHTER REALTYPE COLOR



1/100 scale MASTER GRADE G-ARMOR REALTYPE COLOR



地球連邦軍  
試作型戦術支援メカ  
Gアーマー リアルタイプカラー  
1/100スケール マスターグレードモデル



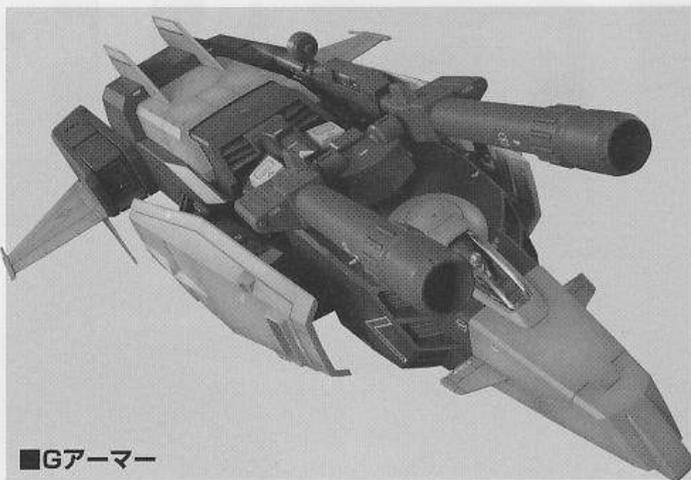
# 地球連邦軍MS開発経緯

## G-P.A.R.T.S.プロジェクト

“G-P.A.R.T.S. (Gパーツ)” プロジェクトとは、G-P.A.R.T.S.= [G-Practical Advanced Research for Tactical System=(ガンダムを中核とする) 戦術システムのための実用的先端研究] を意味しているとされる。

Gパーツは、オデッサ作戦に先立ってWB(ホワイトベース)部隊への追加装備として配備されたガンダム専用のパワーアップパーツであると同時に重戦闘機でもある。WBには2機が制式配備され、様々な戦況に応じて運用された。Gパーツは単独で“Gファイター”と呼ばれる戦闘機を構成し、ガンダムと連携したS.F.S.(Sub Flight System=補助飛行装置)として立体的な戦闘能力をガンダムに付与する。また、ガンダムの各パーツと相互に組み合わせる事で様々なモードに形態を変え、さらに多様な戦術に対応する事が可能である。最も多用されたのは、Gファイターを前後に分割してガンダムをはさみこむようにドッキングした“Gアーマー”と呼ばれる形態で、ガンダムそのものを高速で前線に搬送する機能を持つほか、ガンダム本体のエネルギーゲインを援用することで、メガ粒子砲の連射やMA(モビル・アーマー)なみの高速戦闘が可能となる。

“Gパーツ”とは、本来はパーツそのものを差す名称ではなく、F.S.W.S.(Full-armor System & Weapon System=装甲および武装強化システム)などと同様、MS=ガンダムの兵器としての発展を模索する包括的な研究全般を意味する。ただし、実際に運用していたWB部隊においても本来の意味でそう呼ばれることはほとんど無かったようで、ましてや“部品”と同じ綴りであるため、慣用語としてそれぞれのモジュールを指す意味で使われていた。ガンダム自体、上半身をA(Armament=武装)パーツ、下半身をB(Bottom=下部)



■Gアーマー

■Gファイター



■Gスカイ



■Gスカイ・イージー



■ガンダム高機動型



■Gブル・イージー



■Gブル



パーツ、コア・ファイターをC(Core=核)パーツと呼んでおり、Gメカの前部をA(Armament=武装)パーツ、後部をB(Booster=推進力増強)パーツと呼ぶのはむしろ自然なことであったと言えるだろう。

G-P.A.R.T.S.に携わっていた技術者たちは、“ガンダム”の更なる発展を志向していたが、連邦軍は「標準的なMSの早期適正配備」を最優先課題として要請していた。しかし、公国軍の新型MSの開発サイクルが急激に早まったことと、WB部隊の“四部隊(いわゆるモルモット)”としての運用が決定したことを受けて、MS単機のパワーアップが検討されることとなった。ガンダムは、元々RXモビルスーツの粋を凝らしたハイエンド機だったこともあり、C.F.V.(Core Fighter Variation)開発計画ともリンクする遠大な構想が当初から立案されていた。その一部を実現させたのが、Gメカを含む“ガンダム・システム”なのである。これは、コア・ブロックを最小単位とする機動兵器の総合体系であり、陸、海、空、宇宙の各環境においてMSの適応進化を図ると言うものであった。すでにザクの各種バリエーションが地球環境に適応拡散を果たしていたが、機体全体の改造や調整を必要とするバリエーションをその都度調達する時間的な余裕は連邦軍には無く、また、既存の航空機や戦闘車両との置き換えや代替にMSを運用する際のノウハウの蓄積も必要であったため、MSが持つ能力の各要素そのものを分割して運用するという手法が採用された。強力な火力を持つ大型砲や無限軌道(キャタピラ)など、RXシリーズの他の機体の各要素がGメカに分散して装備されているのもそのためなのである。

## G-P.A.R.T.S.プロジェクトの成果

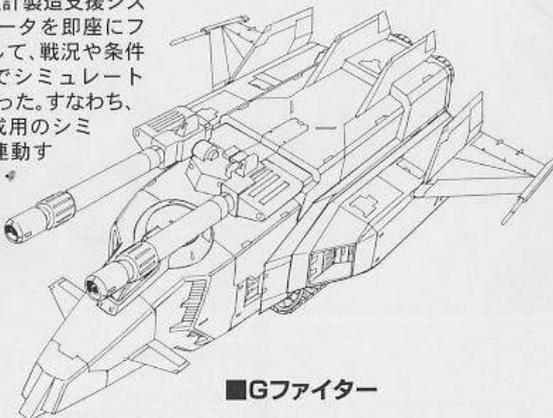
“V作戦”は、“G-P.A.R.T.S.プロジェクト”の他、“F.S.W.S.”や“C.F.V.”などの開発計画を内包しつつ発展した。これらの研究成果としては、“Gメカ”以外にも“コア・ブースター”や“バスト・ライナー”などが知られている。

連邦軍が持つ総合的な工業力は驚異的であった。コア・ファイターを文字通り“核(コア)”とする機体制御システムは、追加装備された躯体や四肢、装甲などを認識して稼働プログラムにフィードバックする。“ガンダム”が搭載するフルスペックの“教育型コンピューター”によって得られたデータは、それらの“稼働状況”に最適なドライブアーキテクチャを自動生成し、更なる機能進化を数値として構築する。それが連邦軍の各担当部署によって共有されるのだ。無論、コンピューターが自ら設計図を引く訳ではないが、実働データのフィードバックは迅速に行われた。

例えば、コア・ブースターを大気圏内専用機として再設計されたと言われるジェット・コア・ブースターの実験投入が確認された時期は、GメカがWBに配備された時期とほぼ同じでチベット上空で目撃されている。

更に最も近い仕様であるGスカイ・イージーが初めて実戦に投入されたのも、同機の配備とほぼ同時期だったようだ。この時点で、山稜の形状を変えるほどの火力を持つジェット・コア・ブースターが東南アジア方面軍には配備されていたのだ。コア・ブースターの原型機開発そのものが“Gメカ”より優先されていたとしても、この開発速度は異常である。すなわち、実際に建造されたGメカは、WBに配備された(予備パーツを含む)2機のみではないと考える事も不可能ではない。実際、リファレンスMSである“ガンダム”自体、サイド7で複数機がトライアルを行っていた。V作戦全体で見れば、先行量産

型などを除く“ガンダム”として一年戦争期に開発された機体の仕様は相当数に上るとする資料も存在するのだ。そもそも、ジャブローの特殊兵器プラントが備える設計製造支援システムは、実戦データを即座にフィードバックして、戦況や条件を変更した上でシミュレートする事が可能だった。すなわち、パイロット養成用のシミュレーターと連動する事で、アムロ・レイが体験した実戦を経験できるのみならず、兵装の強化や機体の改造を施した上でエミュレートできるのだ。



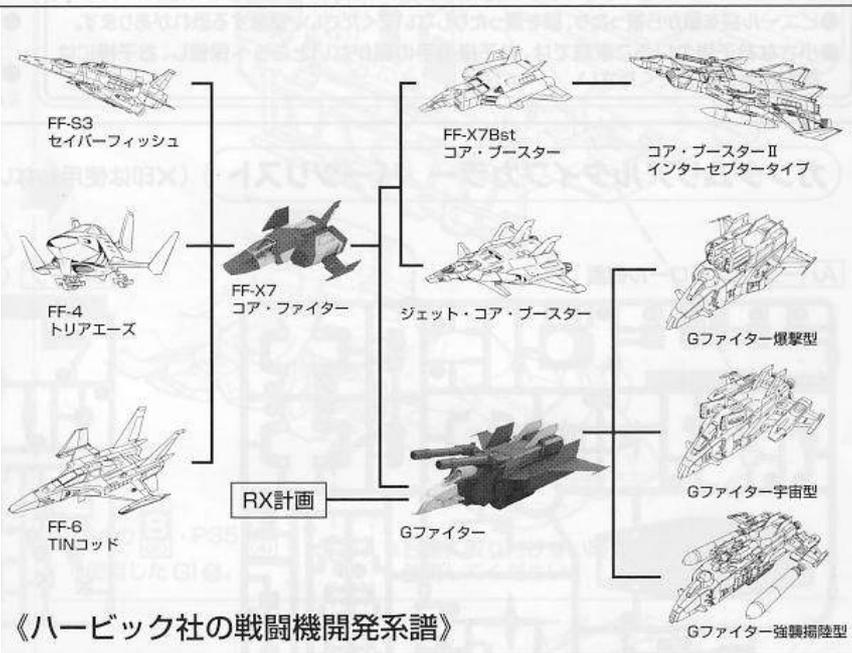
■Gファイター

## G-MECHA 開発経緯

“Gメカ”とは、Gファイターを構成するそれぞれのモジュールを差すのみならず、G-MECHA=[G-Multiple Expansion of Changeable Armaments=(ガンダム用)多目的拡張可変武装(群)]を意味するとされる。

連邦軍におけるMSの基礎研究は、“RX計画”によってある程度進展してはいたものの、戦争勃発以前にその必要性はほとんど顧みられる事はなく、開戦後に急遽立案された“V作戦”にしても、最終的には、試作機を実戦投入しつつ研究を進めると言う泥縄的なものであった。ただし、“V作戦”実施後も、“RX計画”の本質であるMSの開発とその対抗措置を含む基礎研究は放棄された訳ではなく、軍属の一部や研究者個人によってそれぞれ継続されていたのである。連邦軍が開発した試作MS“ガンダム”は、その装甲強度や武装の威力などのスペック面においてジオン公国軍のMSザクを圧倒していたが、地上での運用においては同様の問題も抱えていた。すなわち、移動能力の低さである。それを補うため、ガンダムを支援するサポートメカとして開発されたのが「Gメカ(Gパーツ)」である。MS単独での移動能力の低さそのものは“RX計画”の発動当時から指摘されていたが、移送に関してはガンペリーで対応可能と考えられていた。しかし、ガンペリーの防御力は脆弱で、さらには揚陸機としての火力不足も指摘されていた。また、ガンダムの実戦投入によって、その他の様々な問題も浮き彫りにされていった。発動時点では万全と思われていたV作戦ではあったが、更なる改善の余地があることが判明していたのである。

U.C.0079年9月18日。ガンダムとWBが実戦投入された。当初、連邦軍では、機密事項そのものであるガンダムとWBが敵の手に落ちる前に“処分”すべしとの意見も強かったと言われている。しかしその状況は、敵に鹵獲される危険性がある反面、実戦によるトライアルには願ってもない条件が揃っていた。“正規の職業軍人による運用ではない”という問題点はあったものの、現実的には援軍すら派遣されない孤立無援の状態であるにも関わらず、彼らは嚇たさず戦果を上げ続けている。であるならば、むしろこれを奇貨として活用すべきではないのか。連邦軍を実質的に掌管するレビル将軍の強い意向によって、実験部隊としての性格を付与されたWB部隊は、“V作戦”を更に拡張した開発計画の一環として運用されることとなったのである。“V作戦”は、MSの開発量産と、その運用母艦となる強襲揚陸艦の開発建造を行い、同時にその戦術システムを含む兵器体系の創出をも視野に入れた空前絶後の大プロジェクトである。“G-P.A.R.T.S.プロジェクト”は、V作戦の実効性を検証する手段であり、また目的ともなったのである。つまり、“主に”ガンダムを強化する目的で開発されたGメカ以外にも、G-P.A.R.T.S.に連動するプロジェクトによって、多くの支援航空/宇宙機や輸送舟艇などが開発されていたのである。なかでも主導的な立場にあったのが、

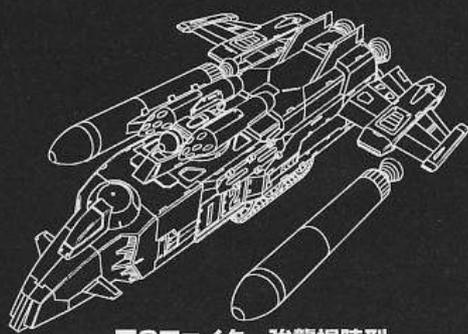


《ハービック社の戦闘機開発系譜》

多数の航空/宇宙機を連邦軍に供給していたハービック社であった。同社は「RX計画」にも当初より参画し、各種の素案に対し実現可能なロードマップを策定。連邦軍の要求を整理集約し、計画の“核”となるコア・ブロックシステムを確立。後に「V作戦」の要諦となる“開発と試作の並立”を可能とした。と同時に、MSの基層技術に得意分野の“航空機のアプローチ”を織り込む事にも成功する。連邦製MSが航空機のアプローチを持つのはこのためで、MSに“飛行/飛翔”能力を付与するという、至極当然の発想に行き着く。“ガンダム”のパワーアップの指標が作戦行動半径の拡張と展開速度の向上にあったことは言うまでもない。また、コア・ファイターそのものの強化プランとして、Gスカイ/イージーを参考にコア・ブースターおよびそのバリエーション機を開発する。ハービック社はこの実績を背景に設備投資を繰り返し、ジャブローに匹敵する設計製造システムを導入。コア・ファイターのみならず、Gパーツのバリエーション化にも着手したのだった。

## MSV-R

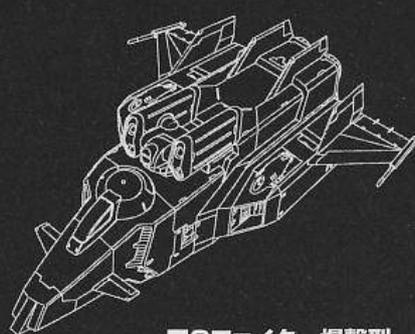
Mobile Suit Variation-R



■Gファイター強襲揚陸型



■Gファイター宇宙型



■Gファイター爆撃型

Gパーツによって構成されるGファイターは、“ガンダム”を積載したまま戦闘速度で飛行することができる。このペイロード(積載能力)に着目した連邦軍は、“Gファイター専用兵装”の開発を命じ、Gメカの構造規格に準じた各種の兵器や制御、管制・制御装備のオプションユニットなどが開発されることとなった。それらは、ミサイルポッドやビーム砲の補助デバイスからタンデム用のコックピットユニットなどに及び、MSのドックルを考慮しない、航空/宇宙兵器としての可能性を模索する大規模なプロジェクトへと発展していった。まさにハービック社の面目躍如といったところだろう。その結果いくつかの制式採用検討のため仕様が策定され、強襲揚陸型、宇宙型、爆撃型の3種類が試作されたといわれている。強襲揚陸型は、ペイロード内に兵員輸送用のコンテナを内装、側面には各種兵装を装着可能で、文字通り、

白兵戦に対応した制圧部隊の武装歩兵上陸用舟艇としての運用が想定されている。宇宙型は、ミサイルランチャーとメガ粒子砲を装備しており、ペイロードはプロペラントタンクおよびウェポンベイを内蔵している。爆撃型は武装変更型とも呼ばれ、原型機との相違点は、ミサイルランチャーとマウント式バルカンポッドの装備などで、Gアーマーとしての運用も可能であったようだ。ちなみに、“Gファイター宇宙型”は、準ホワイトベース級一番艦のサラブレッドに配備予定であったとする資料もあり、実際の生産数は16機で、その内6機が実戦投入されたとする資料もあるコア・ブースターと同様に、いわゆる「Gファイターバリエーション」計画もまた、予想以上に進展していたと考える事もできるだろう。

**△ 注意**

**必ずお読みください**

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

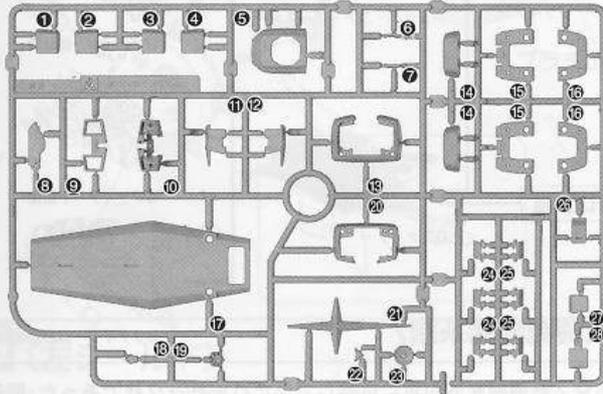
**〈組み立てる時の注意〉**

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
  - 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
  - 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
  - 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
  - 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

**ガンダムリアルタイプカラー パーツリスト**

(X印は使用しないパーツです。)

**Aパーツ** (スチロール樹脂: PS)



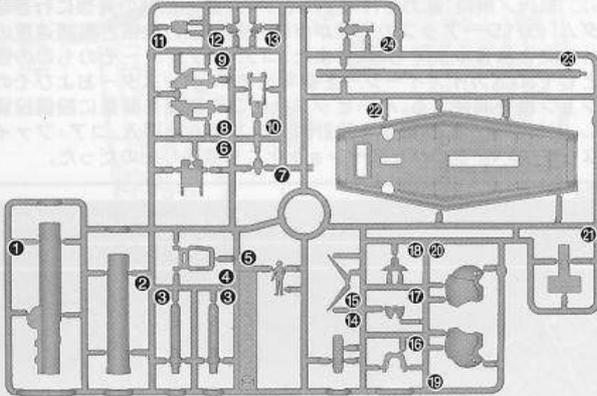
**Bパーツ** (スチロール樹脂: PS)



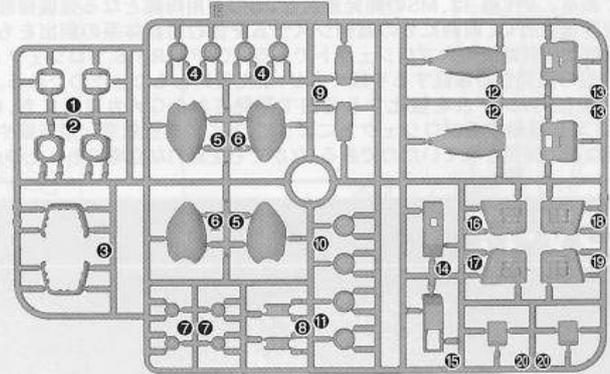
**Cパーツ**  
(スチロール樹脂: PS)  
アンダーゲート有り



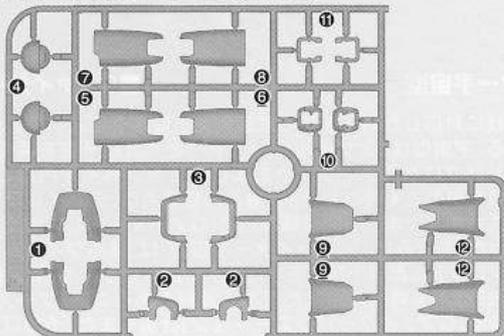
**Dパーツ** (スチロール樹脂: PS)



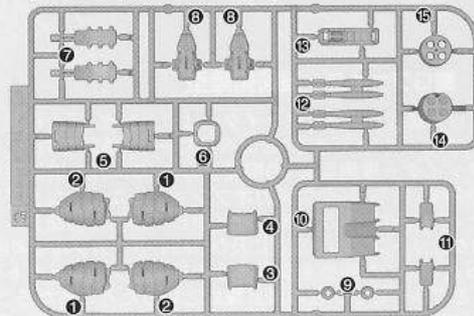
**Eパーツ** (スチロール樹脂: PS)



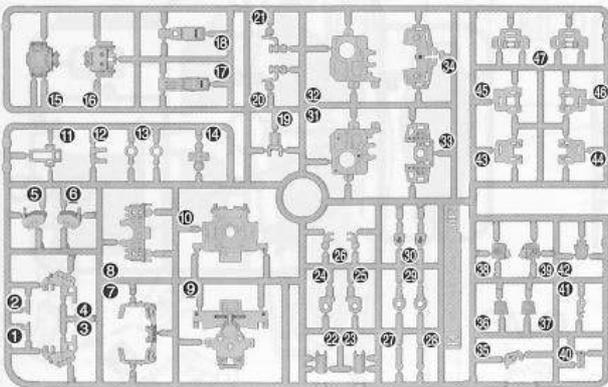
**Fパーツ** (スチロール樹脂: PS)



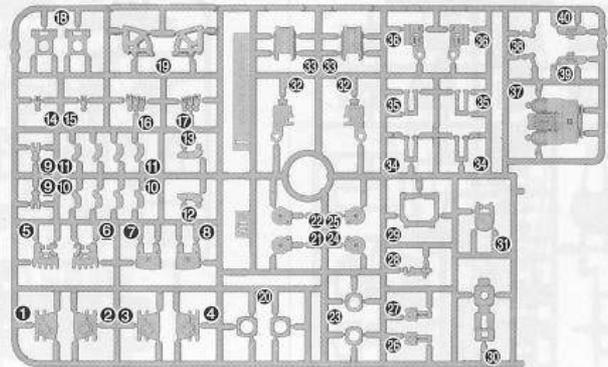
**Gパーツ** (スチロール樹脂: PS)



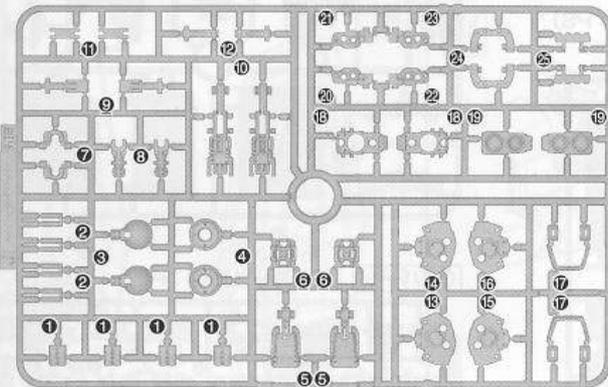
Hパーツ (ABS樹脂 : ABS)



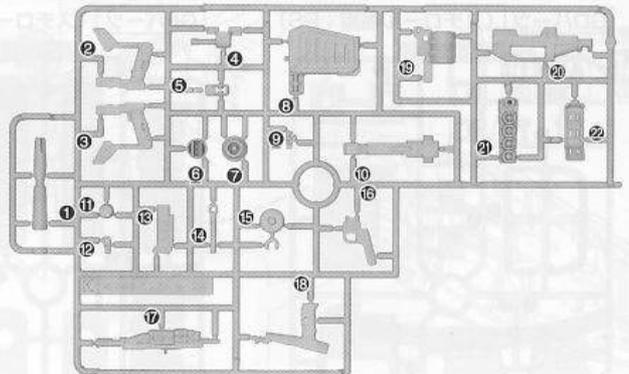
Iパーツ (ABS樹脂 : ABS)



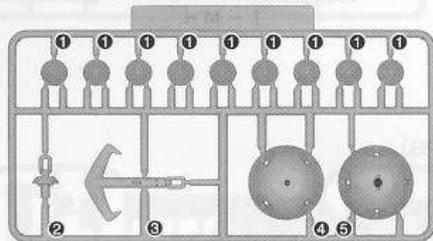
Jパーツ (ABS樹脂 : ABS)



Kパーツ (スチロール樹脂 : PS)



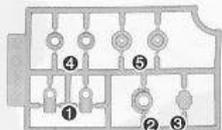
HM-1パーツ (スチロール樹脂 : PS)



SBIパーツ (スチロール樹脂 : PS)



PC-202パーツ (ポリエチレン : PE)



ブラチェーン1セット

- ブラチェーン.....1本  
(ポリアセタール : POM)
- チェーンつなぎ.....2個  
(ポリアセタール : POM)

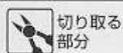
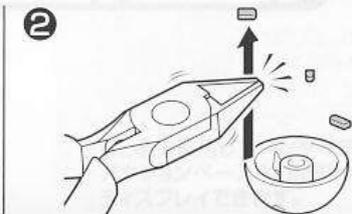
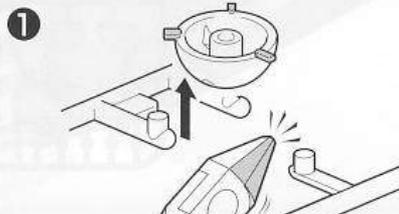
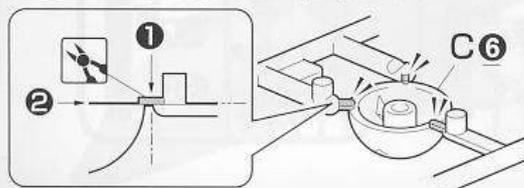
シール・デカールセット

- カラーシール.....1枚
- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカール.....1枚

**アンダーゲートの切り方**

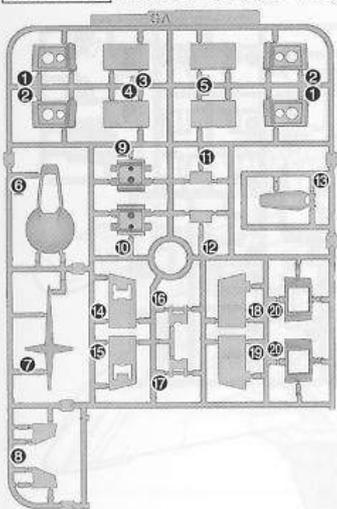
▶ アンダーゲートマークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

※C6・C7は下の図のように切り取ります。

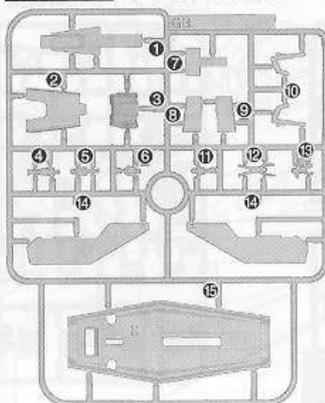


**Gファイターリアルタイプカラー パーツリスト** (X印は使用しないパーツです。)

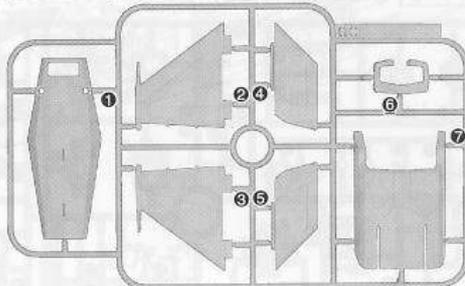
**GAパーツ** (スチロール樹脂: PS)



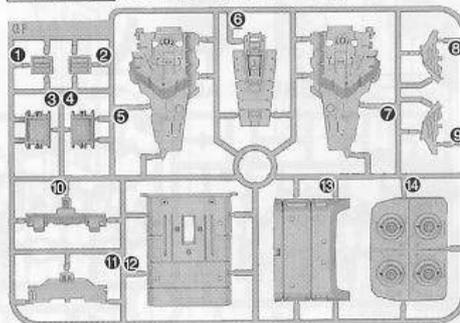
**GBパーツ** (スチロール樹脂: PS)



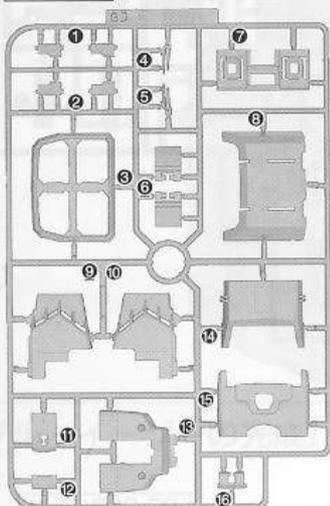
**GCパーツ** (スチロール樹脂: PS)



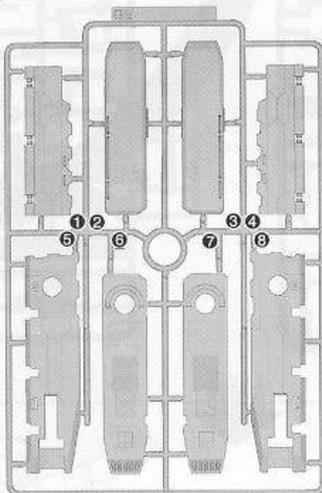
**GFパーツ** (スチロール樹脂: PS)



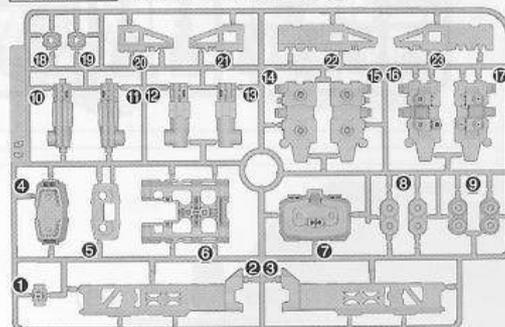
**GDパーツ** (スチロール樹脂: PS)



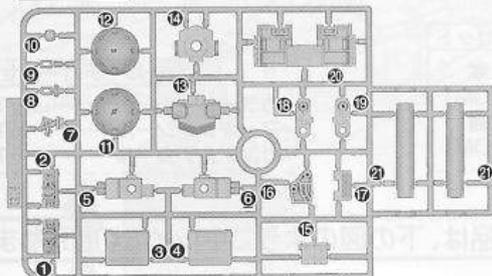
**GEパーツ** (スチロール樹脂: PS)



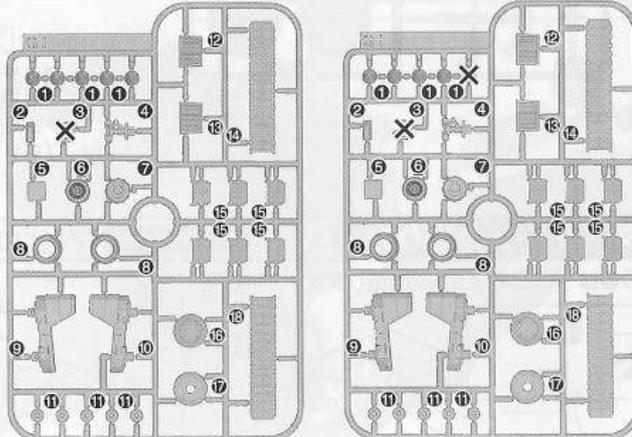
**GGパーツ** (スチロール樹脂: PS)



**GHパーツ** (スチロール樹脂: PS)



**GIパーツ** (×2)  
(スチロール樹脂: PS)



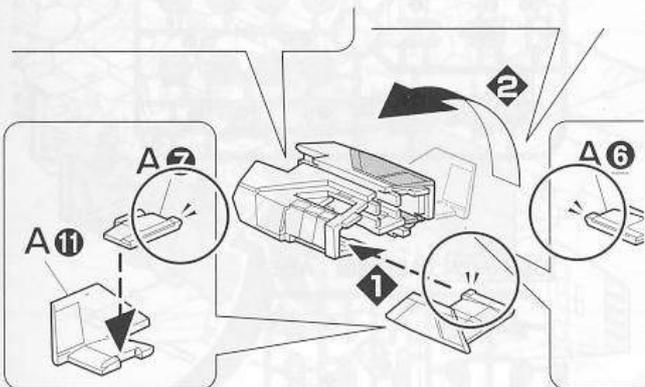


## 組み立て前の基本説明

本商品はスナップフィット仕様の為、接着剤は特に必要としません。

### 部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

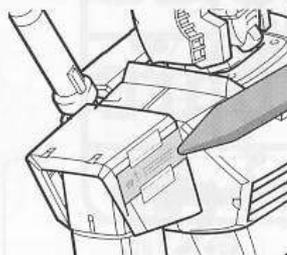


### ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出して

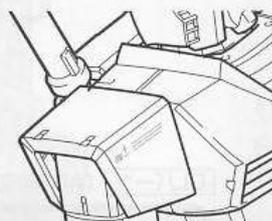


保護シート



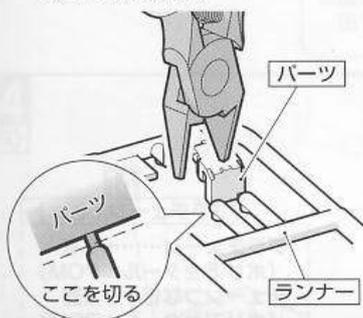
②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

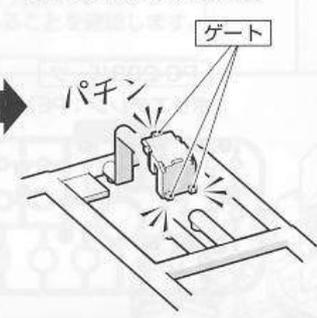


### パーツの切り取りかた

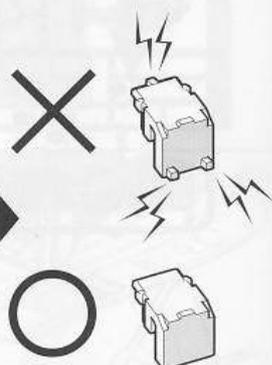
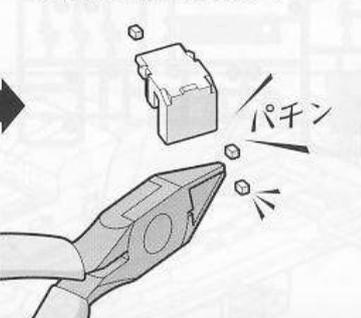
①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。



③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



### 説明書をよく読んで完成させましょう

〔ガンダムリアルタイプカラー〕

胸部  
[BODY UNIT]

2

3 頭部  
[HEAD UNIT]

シールド  
[SHIELD]

16 ビーム・ジャベリン  
[BEAM JAVELIN]

右腕  
[RIGHT ARM]

4・6

18

1 コア・ファイター  
[CORE FIGHTER]

10 腰部  
[WAIST UNIT]

14 スーパー・ナパーム  
[SUPER NAPALM]

13 ビーム・ライフル  
[BEAM RIFLE]

7・8 右脚  
[RIGHT LEG]

5・6 左腕  
[LEFT ARM]

15 ハイパー・バズーカ  
[HYPER BAZOOKA]

7・9 左脚  
[LEFT LEG]

17 ガンダム・ハンマー  
[GUNDAM HAMMER]

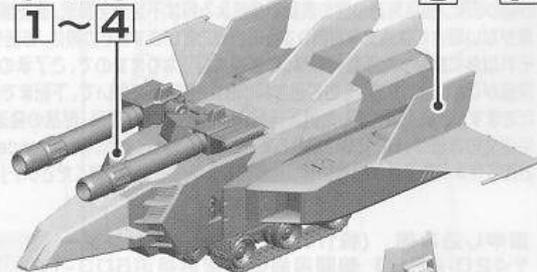
〔Gファイターリアルタイプカラー〕

Bパーツ  
[B PARTS]

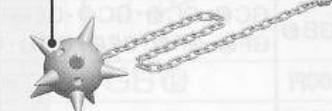
Aパーツ  
[A PARTS]

1~4

5~7



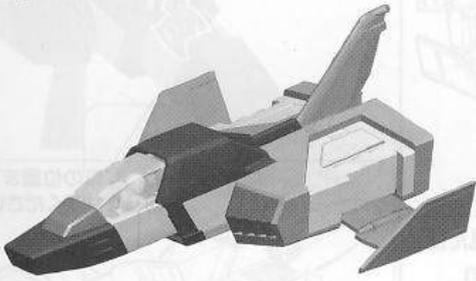
18 ハイパー・ハンマー  
[HYPER HAMMER]



14・14  
(7) (8) 左腕用シールド  
[LEFT SHIELD]

ガンダムリアルタイプカラーの組み立て

1 CORE FIGHTER

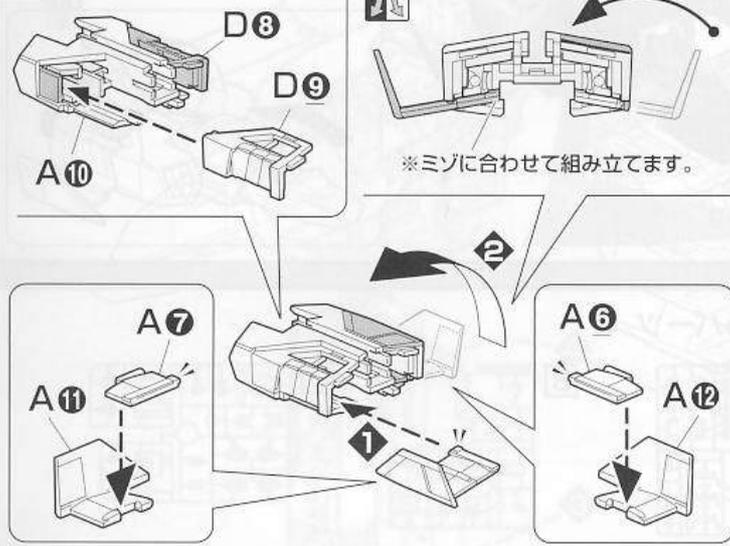


・組立 1 で使用するパーツ

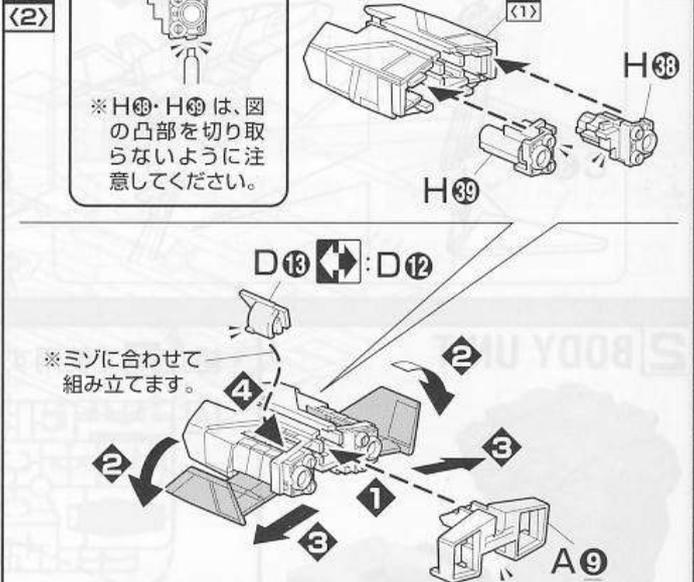


1 (コア・ファイターの組立)

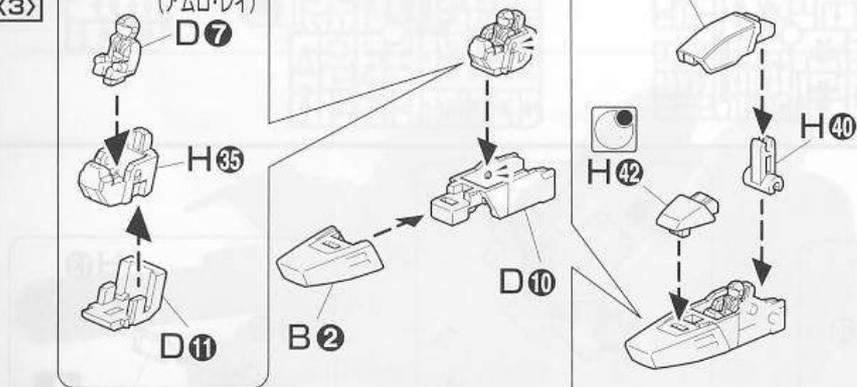
(1) CORE FIGHTER



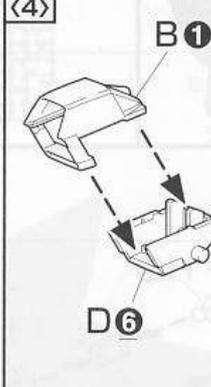
1 (2)



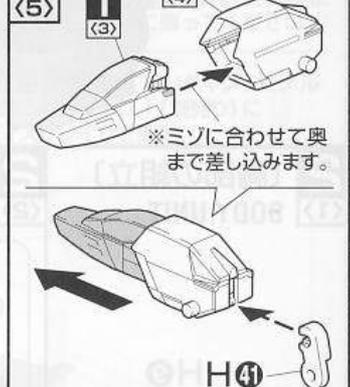
1 (3)



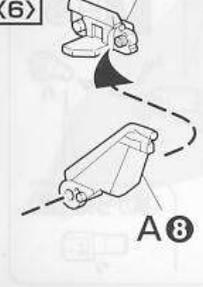
1 (4)



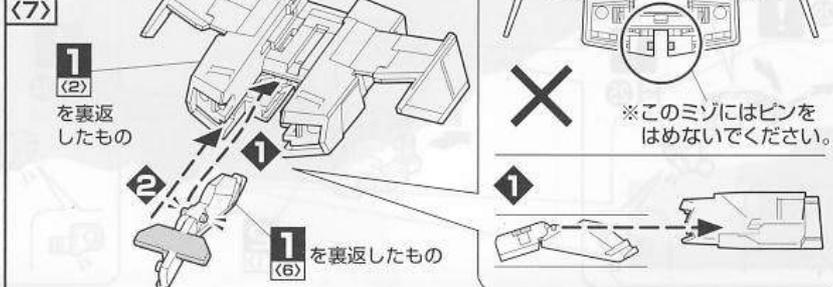
1 (5)



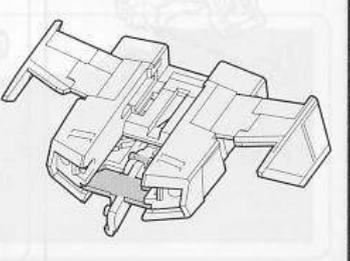
1 (6)



1 (7)



※ 部分の位置に注意して組み立ててください。



**1**  
**(8)**

※指で押さえながら取り付けます。

1 (7) を裏返したものを

1 (5)

2

3

※奥までしっかりと、はめ込みます。

! H37

← H36

〈裏から見た図〉

※コクピットは、写真の位置まで回転させてください。

**1**  
**(9)**

C2

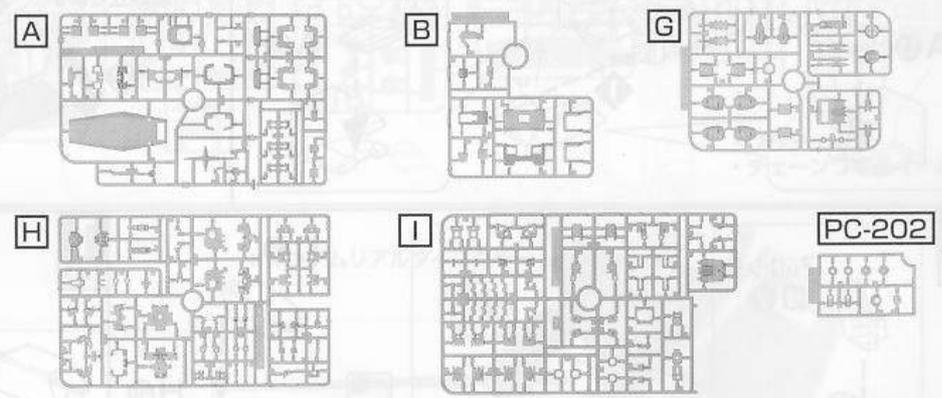
1 (8)

C3

**2 BODY UNIT**



・組立**2**で使用するパーツ



**2** (胸部の組立)  
**(1)** BODY UNIT

H30

H9

H30

前

**2** (2)

H13

H23

! H22

H29

H25

前

〈横から見た図〉

H13

H27

H23

! H29

H24

前

〈横から見た図〉

2 (1)

**2**  
**(3)**

〈横から見た図〉 〈上から見た図〉

H2 ! A25 !

前

H7

※きれいに切り取ります。

〈横から見た図〉 〈上から見た図〉

〈上から見た図〉 〈横から見た図〉

A24 ! H1 !

〈横から見た図〉

H3 ! H6 !

※きれいに切り取ります。

〈上から見た図〉 〈横から見た図〉

**2**  
**(4)**

H10

PC-202 ③

前

A18

バチン

**2**  
**(5)**

A20

H8

※奥までしっかりと、はめ込みます。

B7

B8

※フィンに注意して組み立てます。

※ミノに合わせて組み立てます。

※フィンを上げた状態で組みます。

② (4)

**2**  
**(6)**

A23

H11

B4

90°

②

③

④

※指で軽く押さえながら B6 (ハッチ部分) を下へスライドさせてください。

**2**  
**(7)**

※きれいに切り取ります。

A6

A27

② (6)

② (5)

**2**  
**(8)**

I40

I39

I38

I38

G11

G11

I37

G9

**2**  
**(7)**

※きれいに切り取ります。

G10

※組立図中の記号説明

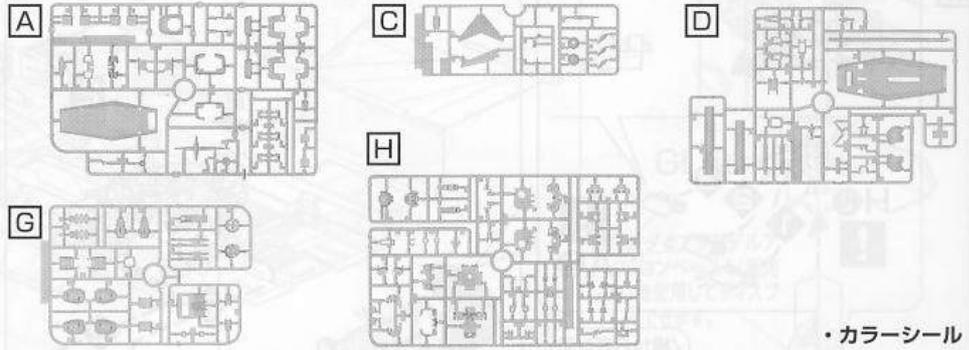
**!** 向きに注意して組み立てる

**90°** 数値に合わせて回転させます。

### 3 HEAD UNIT

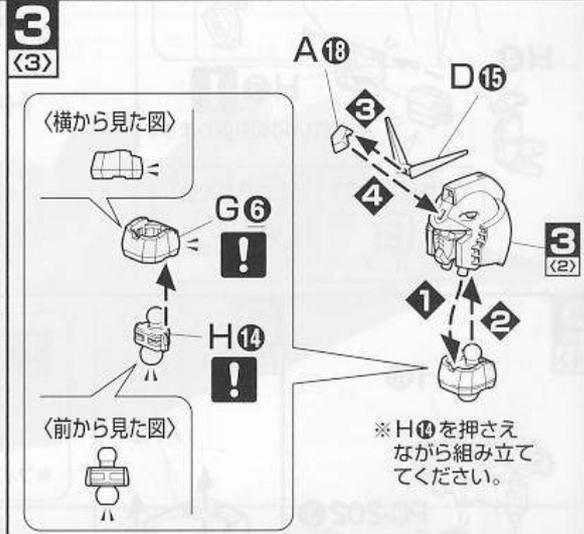
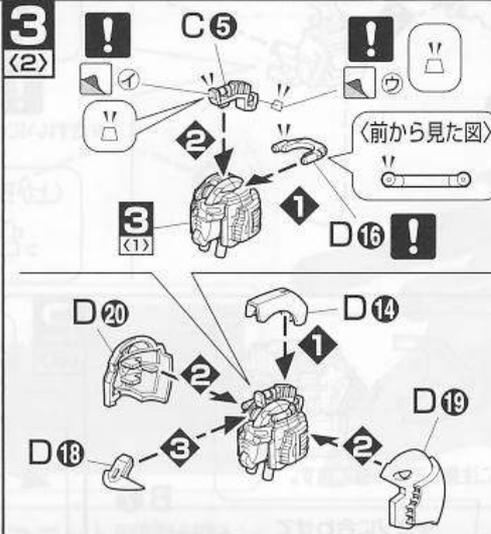
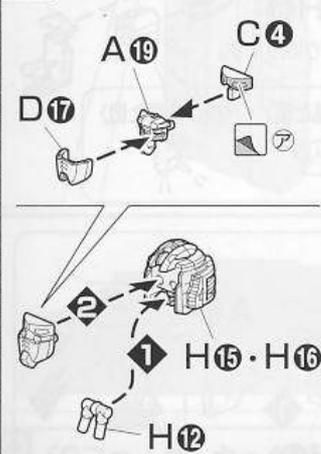


・組立3で使用するパーツ

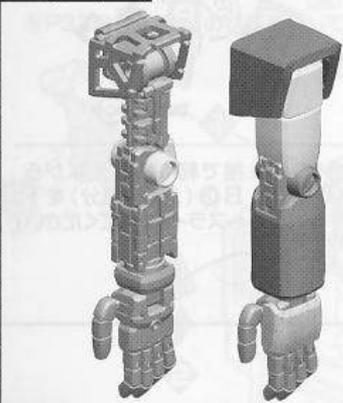


・カラーシール

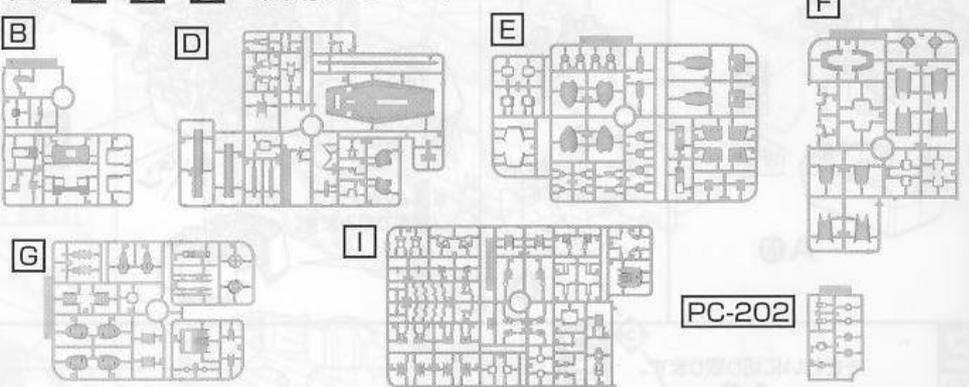
#### 3 (1) 頭部の組立 HEAD UNIT



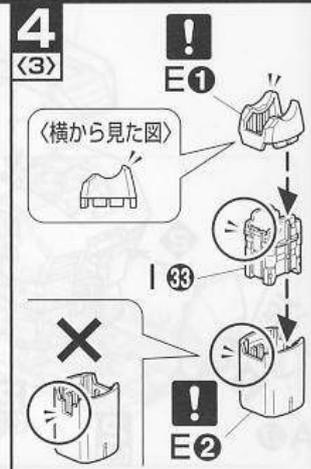
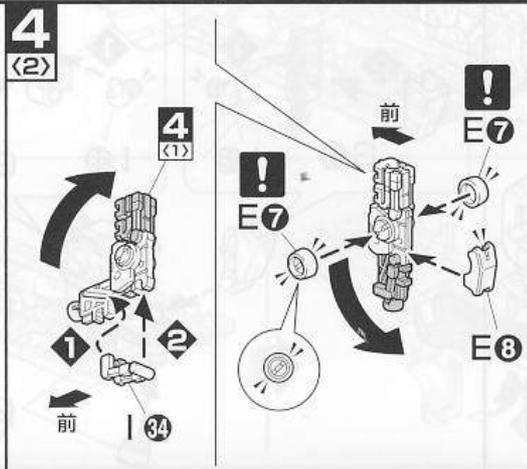
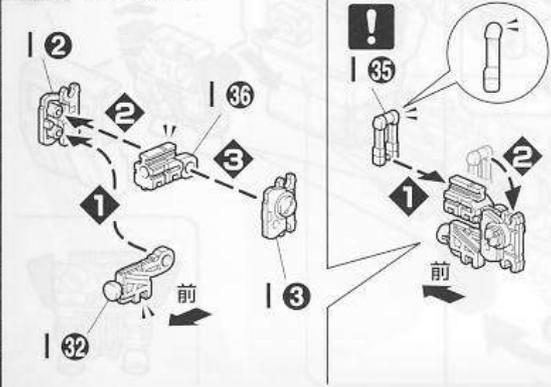
### 4 5 6 ARM UNIT



・組立4・5・6で使用するパーツ

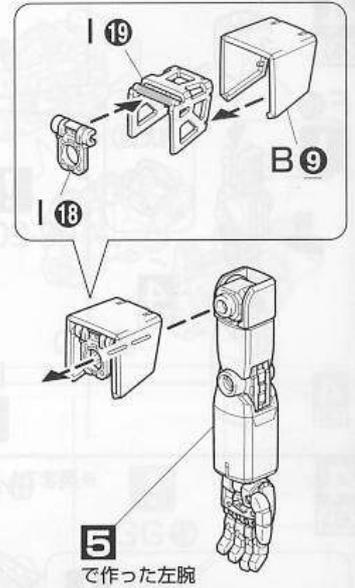
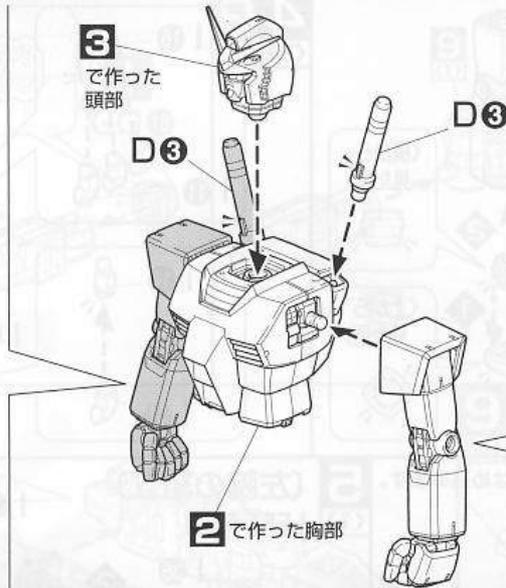
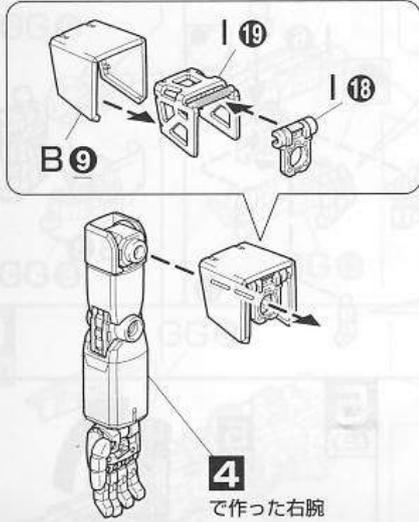


#### 4 (1) 右腕の組立 RIGHT ARM

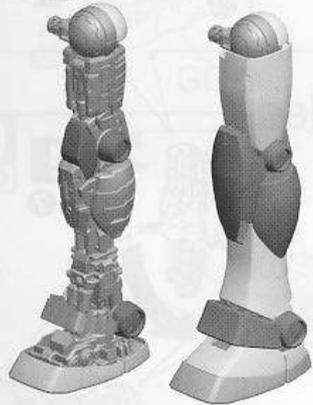




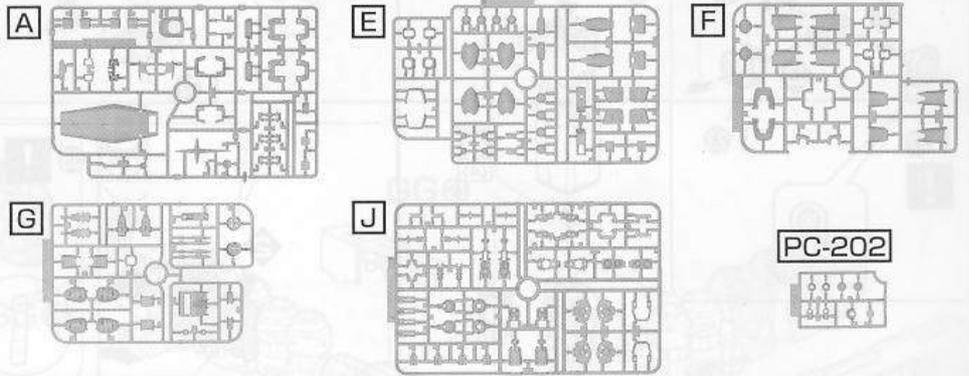
**6** [上半身の完成]  
UPPER BODY



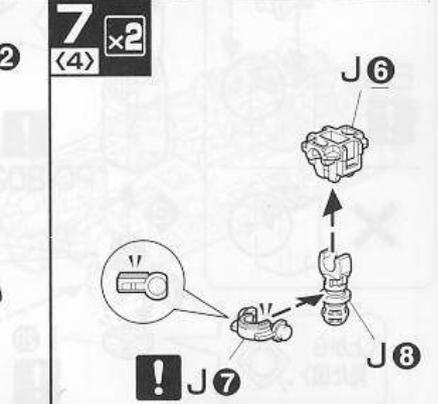
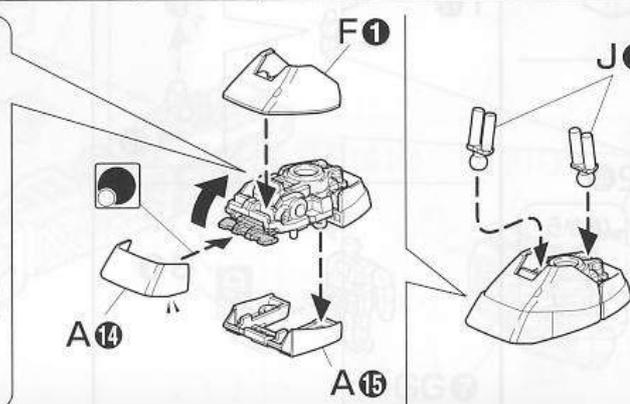
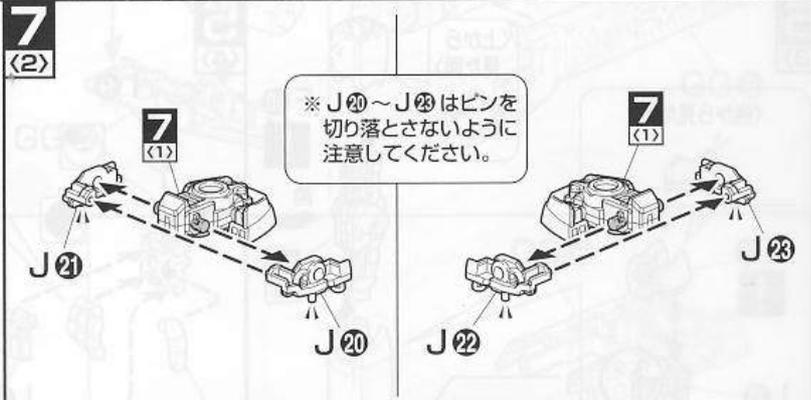
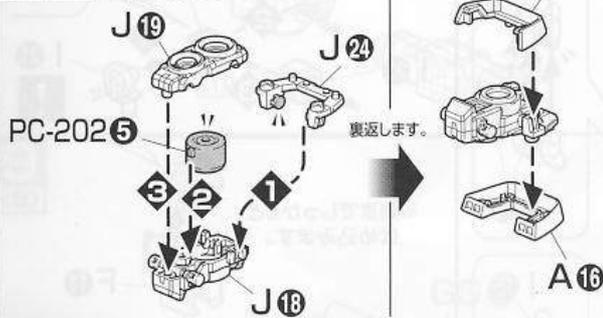
**7 8 9** LEG UNIT

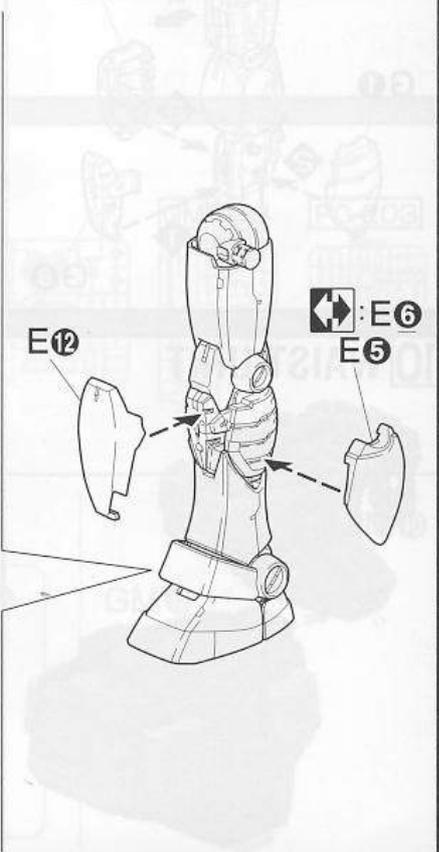
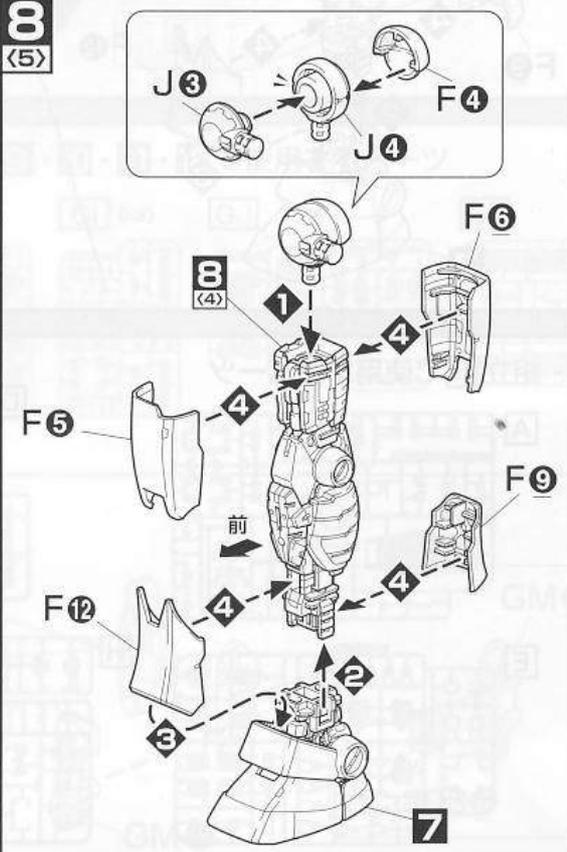
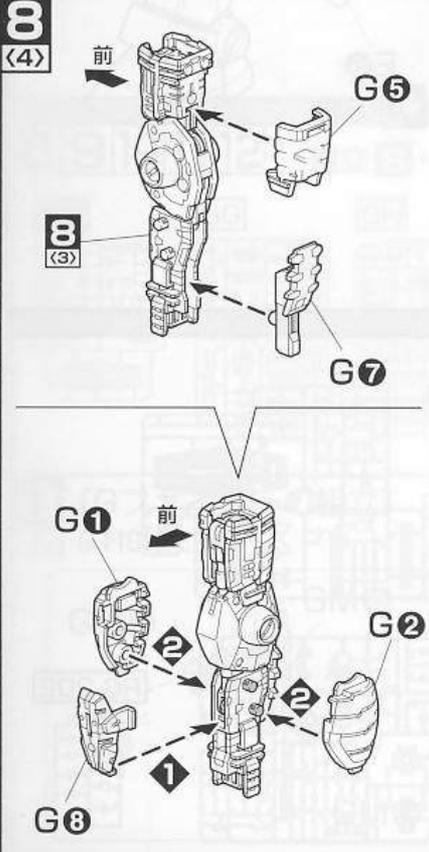
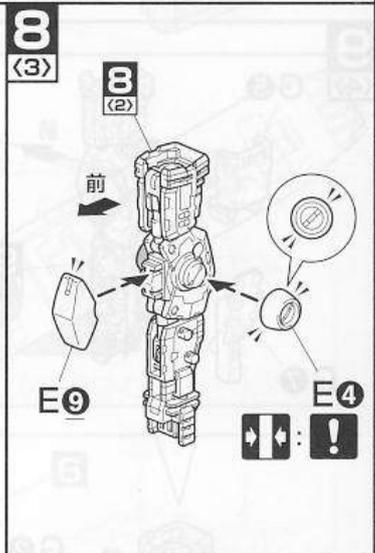
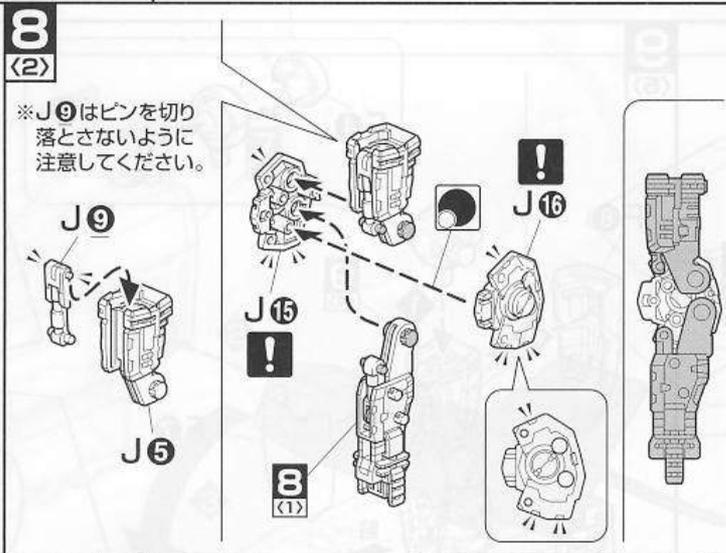
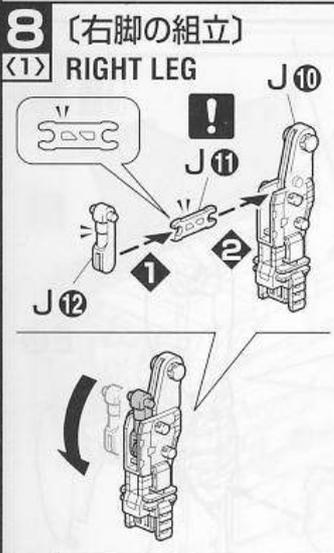
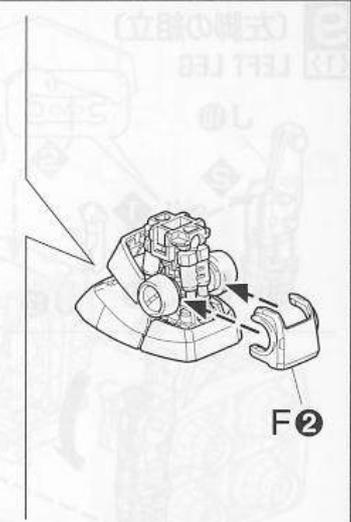
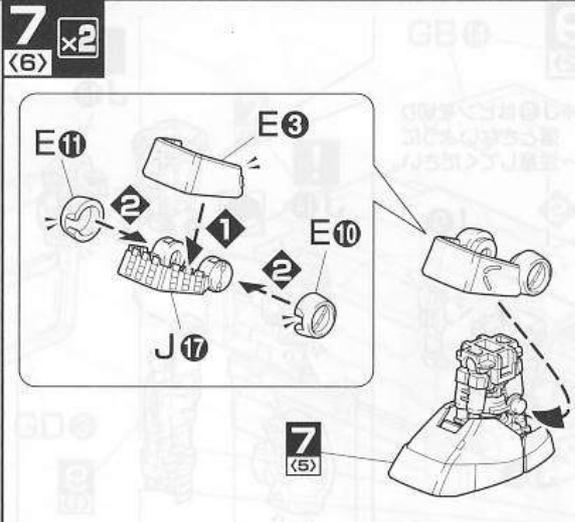
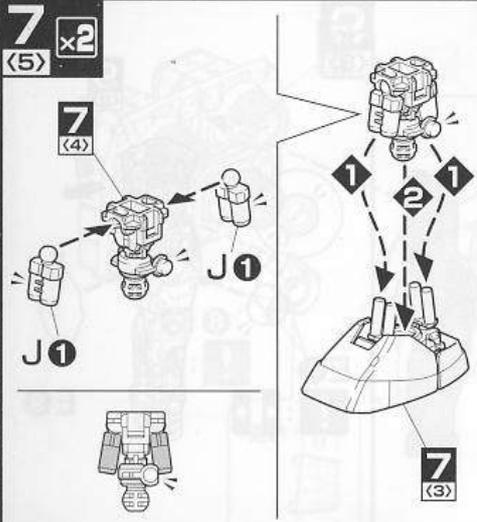


・組立 **7**・**8**・**9** で使用するパーツ



**7** **x2** [脚部の組立]  
LEG UNIT





※組立図中の記号説明

**!** 向きに注意して組み立てる

**x2** 部品を数値の個数作ります

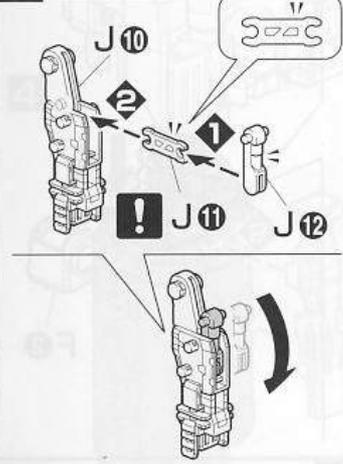
**⇄** 両側に同じパーツを取りつける

**↔** 反対側に取り付けるパーツ

**●** 後から組み立てる

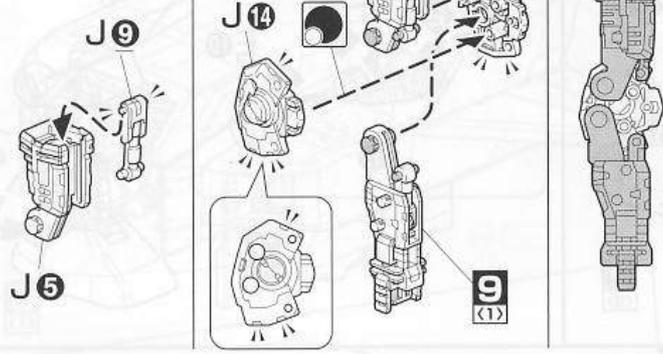
**9** (左脚の組立)

**(1)** LEFT LEG

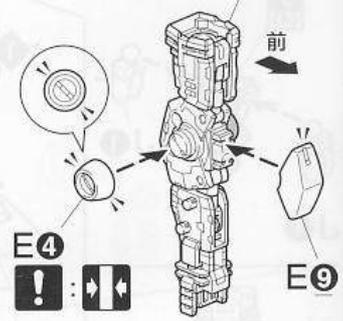


**9** (2)

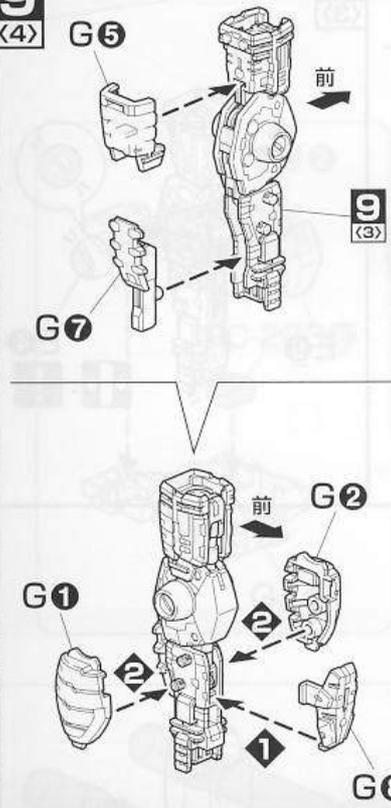
\*J9はピンを切り落とさないように注意してください。



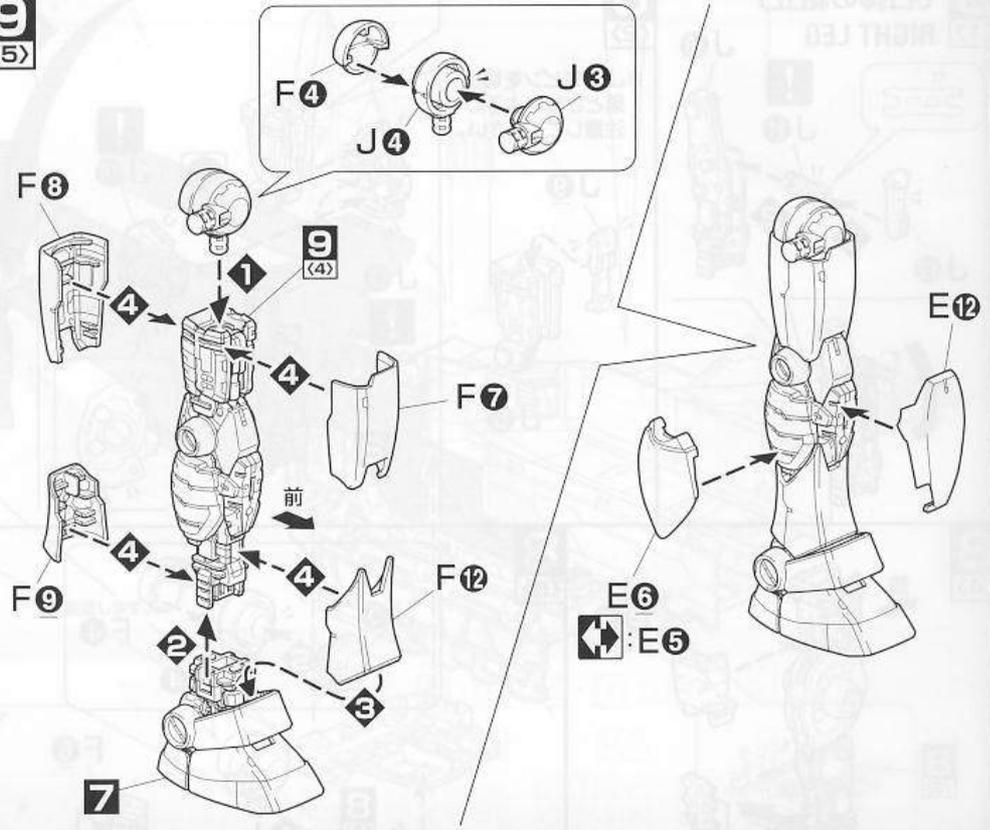
**9** (3)



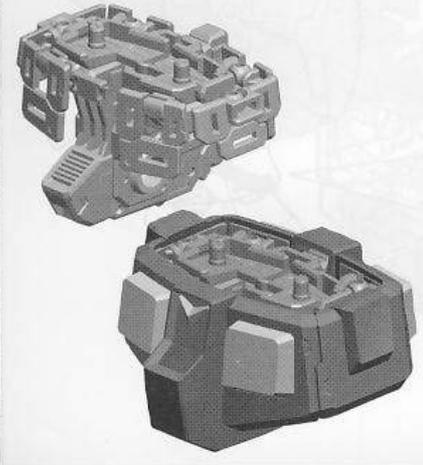
**9** (4)



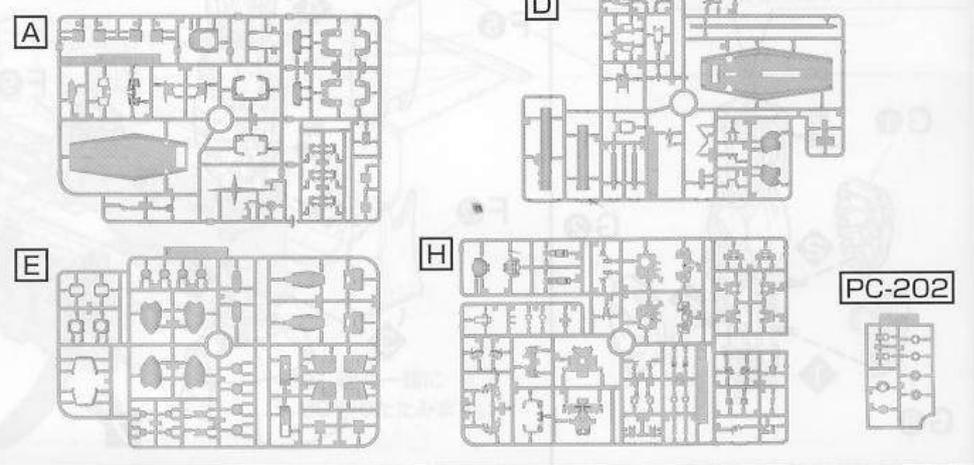
**9** (5)



**10** WAIST UNIT



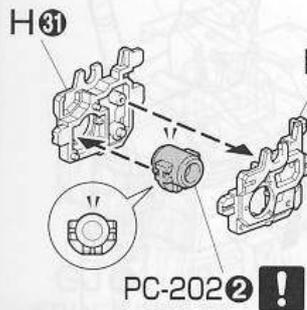
・組立10で使用するパーツ



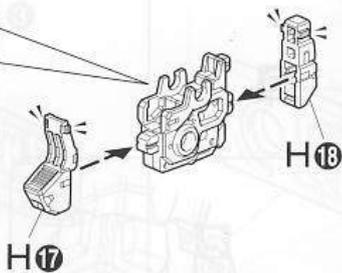
PC-202

10 (腰部の組立)

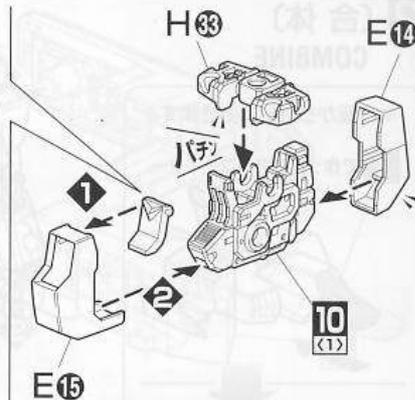
10 (1) WAIST UNIT



※H17・H18は□部分を切り取らないように注意してください。



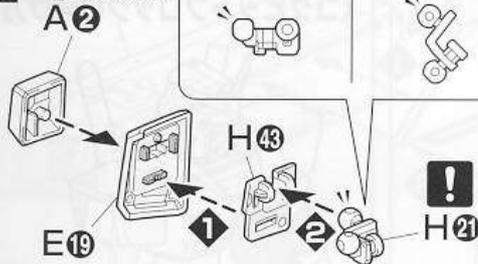
10 (2)



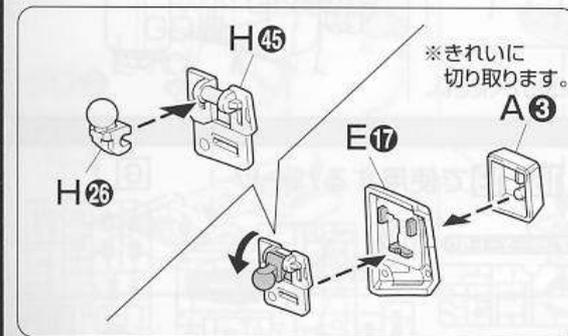
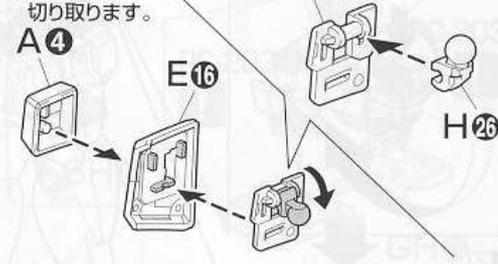
10 (3)

※きれいに切り取ります。

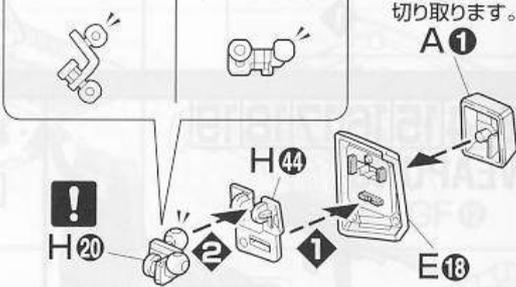
〈横から見た図〉 〈上から見た図〉



※きれいに切り取ります。



〈上から見た図〉 〈横から見た図〉

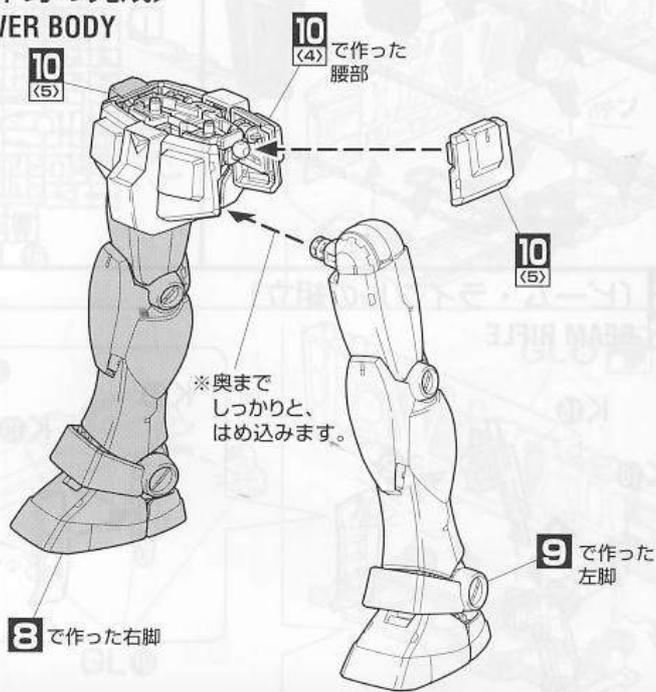


10 (4)

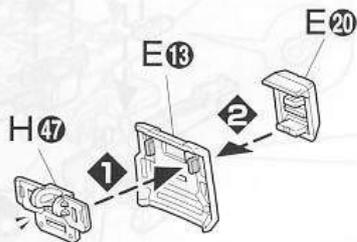


11 (下半身の完成)

LOWER BODY



10 x2 (5)



※組立図中の記号説明

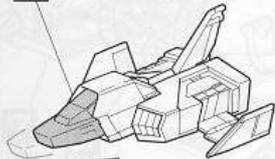
! 向きに注意して組み立てる

x2 部品を数値の個数作ります

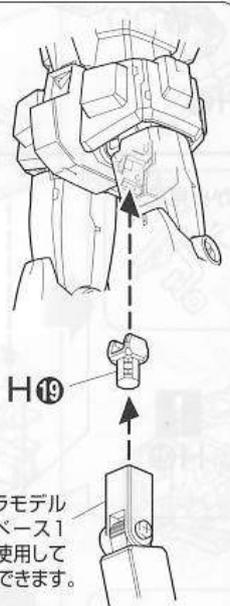
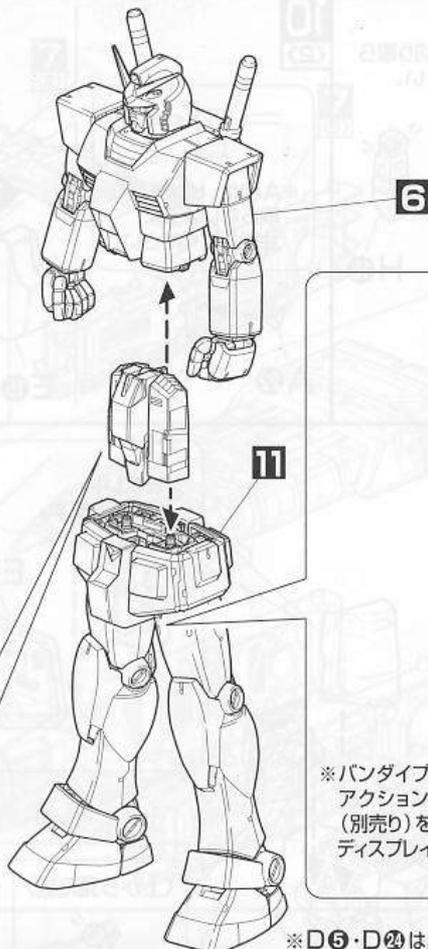
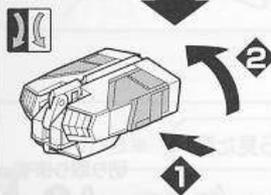
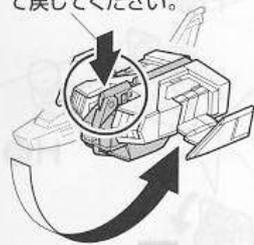
**12** [合体]  
COMBINE

※台座から外しておきます。

**1** で作ったコア・ファイター



※元に戻す場合は、図の部分を指で押さえながら注意して戻してください。



※バンダイプラモデル  
アクションベース1  
(別売り)を使用して  
ディスプレイできます。

※D⑥・D⑭は、好みの場所に飾ってください。

〈コクピットシャッターの開け方〉



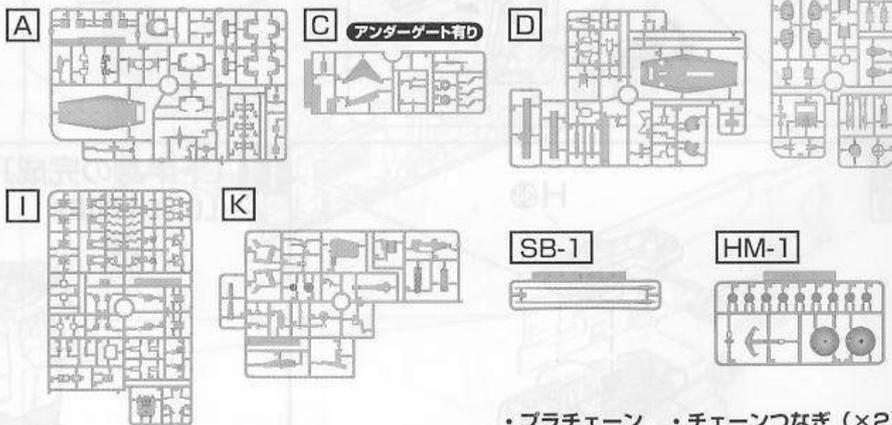
〈コクピットブロックの開け方〉



**13****14****15****16****17****18****19**  
WEAPONS



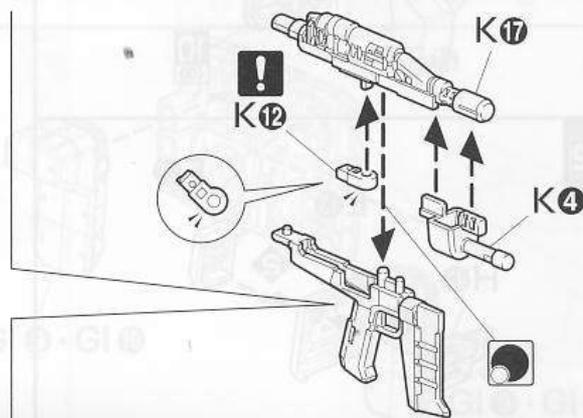
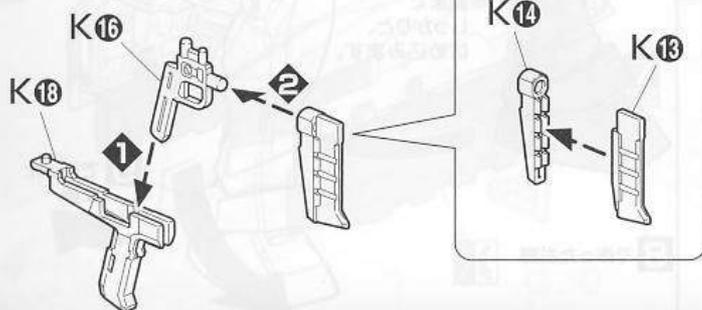
・組立 **13**・**14**・**15**・**16**・**17**・**18**・**19**で使用するパーツ



・プラチェーン ・チェーンつなぎ (×2)

**13** [ビーム・ライフルの組立]

**(1)** BEAM RIFLE



**13**  
**(2)**

K20

! K11

13 (1)

! K1

K15

※きれいに切り取ります。

A23

※形状に合わせてはめ込みます。

上  
下

**14** [スーパー・ナパームの組立]  
**SUPER NAPALM**

G12

G14

G18

G15

※裏から見た図

長い

**15** [ハイパー・バズーカの組立]  
**HYPER BAZOOKA**

D1

K9

K6

K2

K10

K3

D2

※形状に合わせてはめ込みます。

**15**  
**(2)**

K21

K8

K7

K6

K22

15 (1)

**15**  
**(3)**

D4

K10

15 (2)

**16** [ビーム・ジャベリンの組立]  
**BEAM JAVELIN**

D23

D3

アンダーゲート  
C6・C7

C9

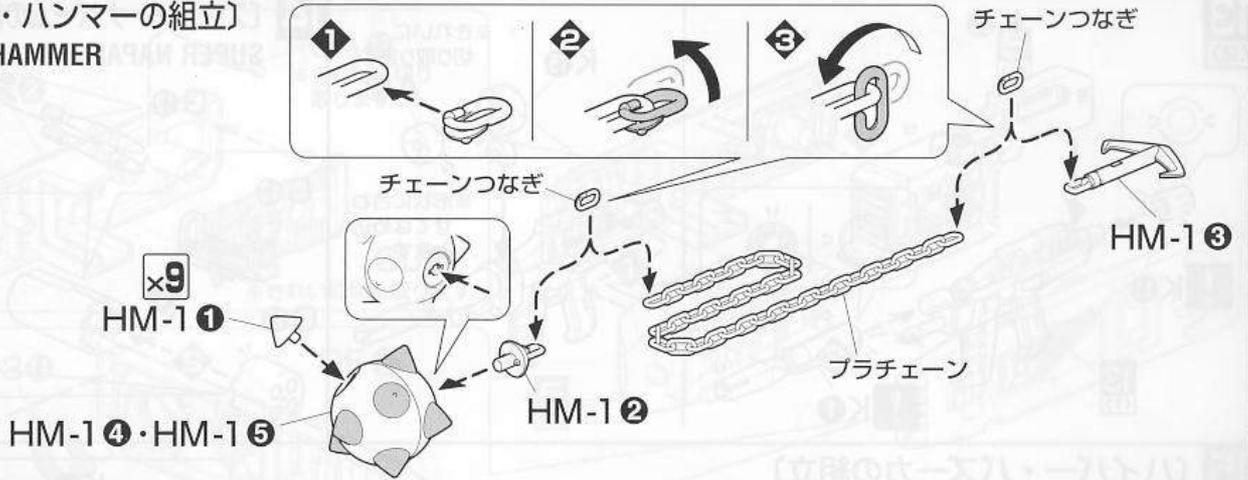
C8

※D3は、背中から外しておきます。

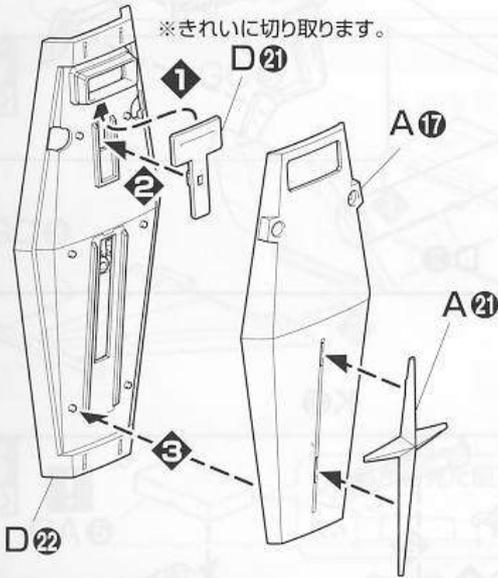
x3 (3本取り付ける)

※C9はピンを切り取らないように注意してください。

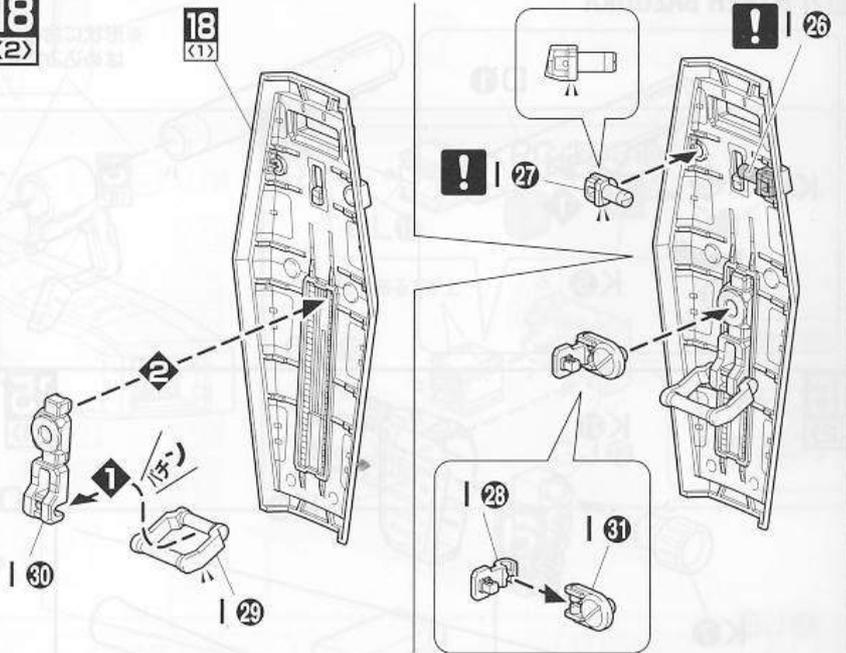
17 [ガンダム・ハンマーの組立]  
GUNDAM HAMMER



18 [シールドの組立]  
<1> SHIELD

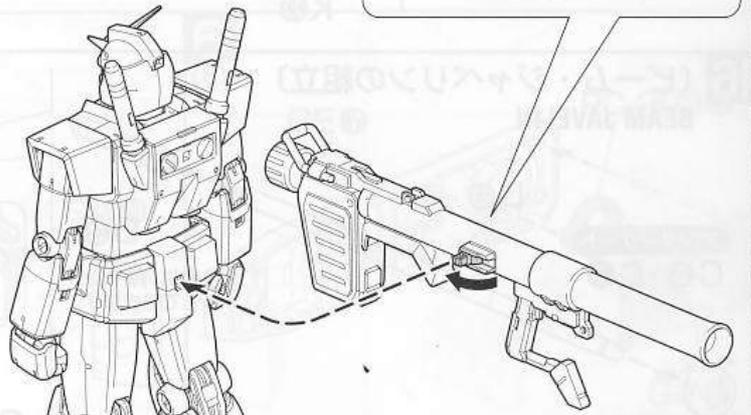
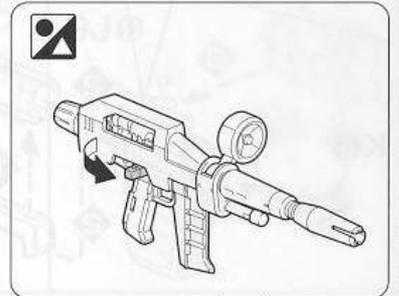
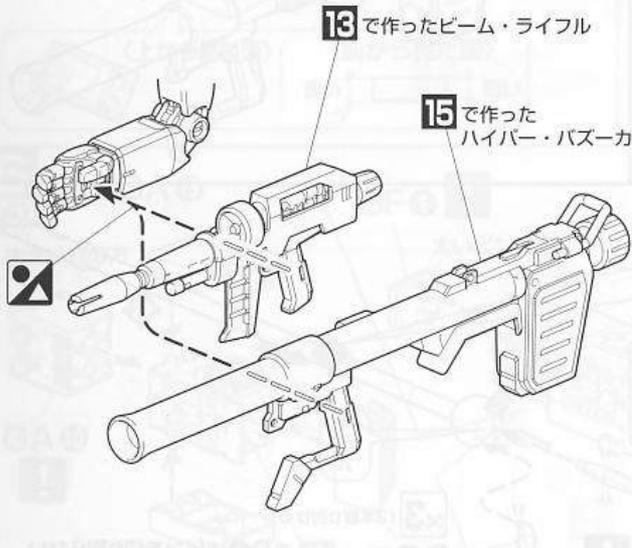


18  
<2>

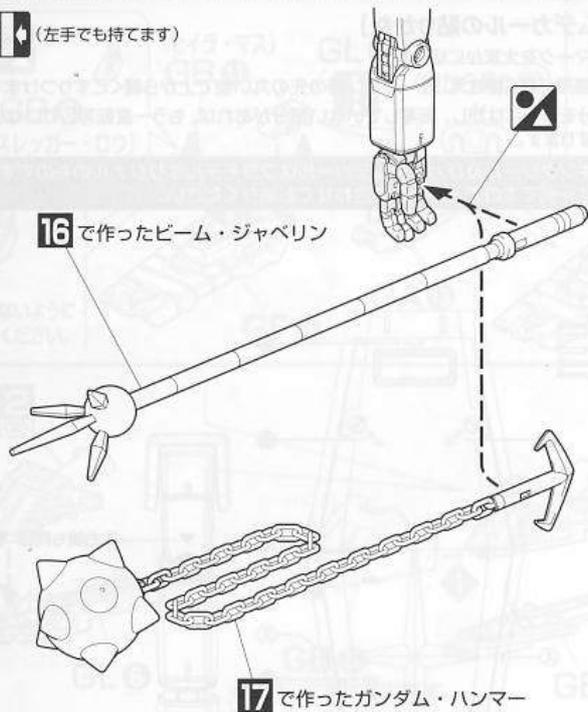


19 [武器の装備]  
<1> WEAPONS EQUIPMENT

◀▶ (左腕でも持てます)



19  
(2) (左手でも持てます)



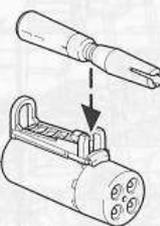
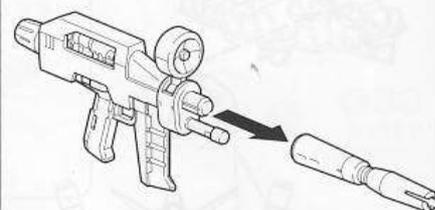
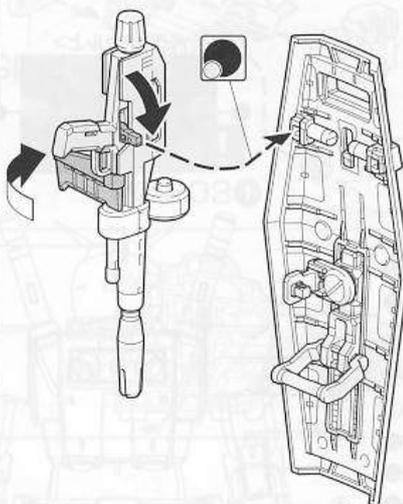
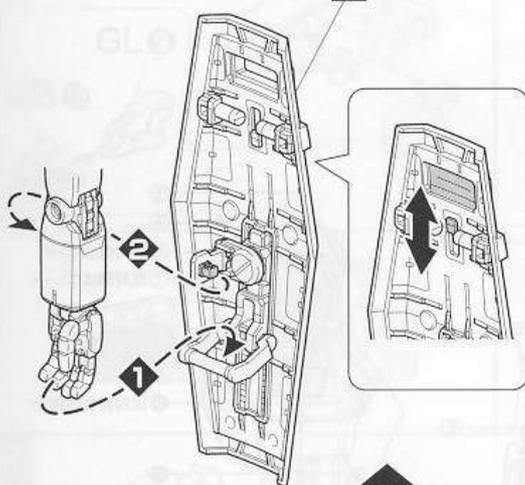
※D③は、ビーム・ジャベリン  
(又は背中)から外しておきます。



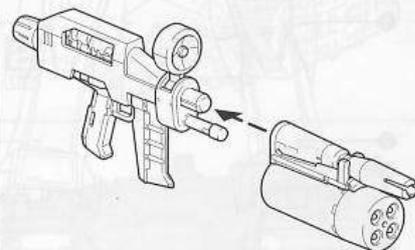
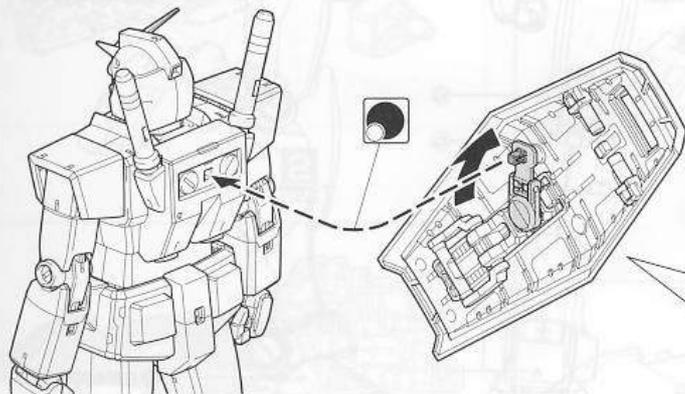
19  
(3) 18で作ったシールド

〈ビーム・ライフルの収納〉

19  
(4)



14  
で作った  
スーパー・ナパーム



※組立図中の  
記号説明

両側に同じパーツ  
を取りつける

どちらかを選ん  
で取りつける

後から  
組み立てる

Seal

<シール>

下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

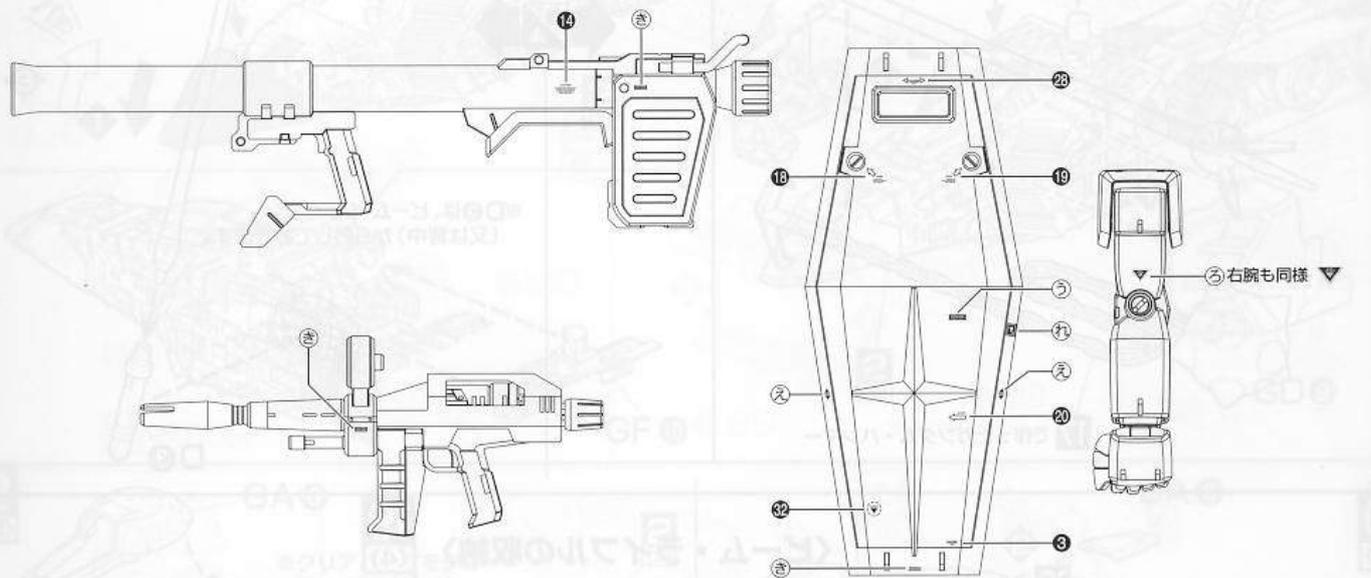
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記してあります。

【例】 あ・・・マーキングシール ①・・・ガンダムデカール

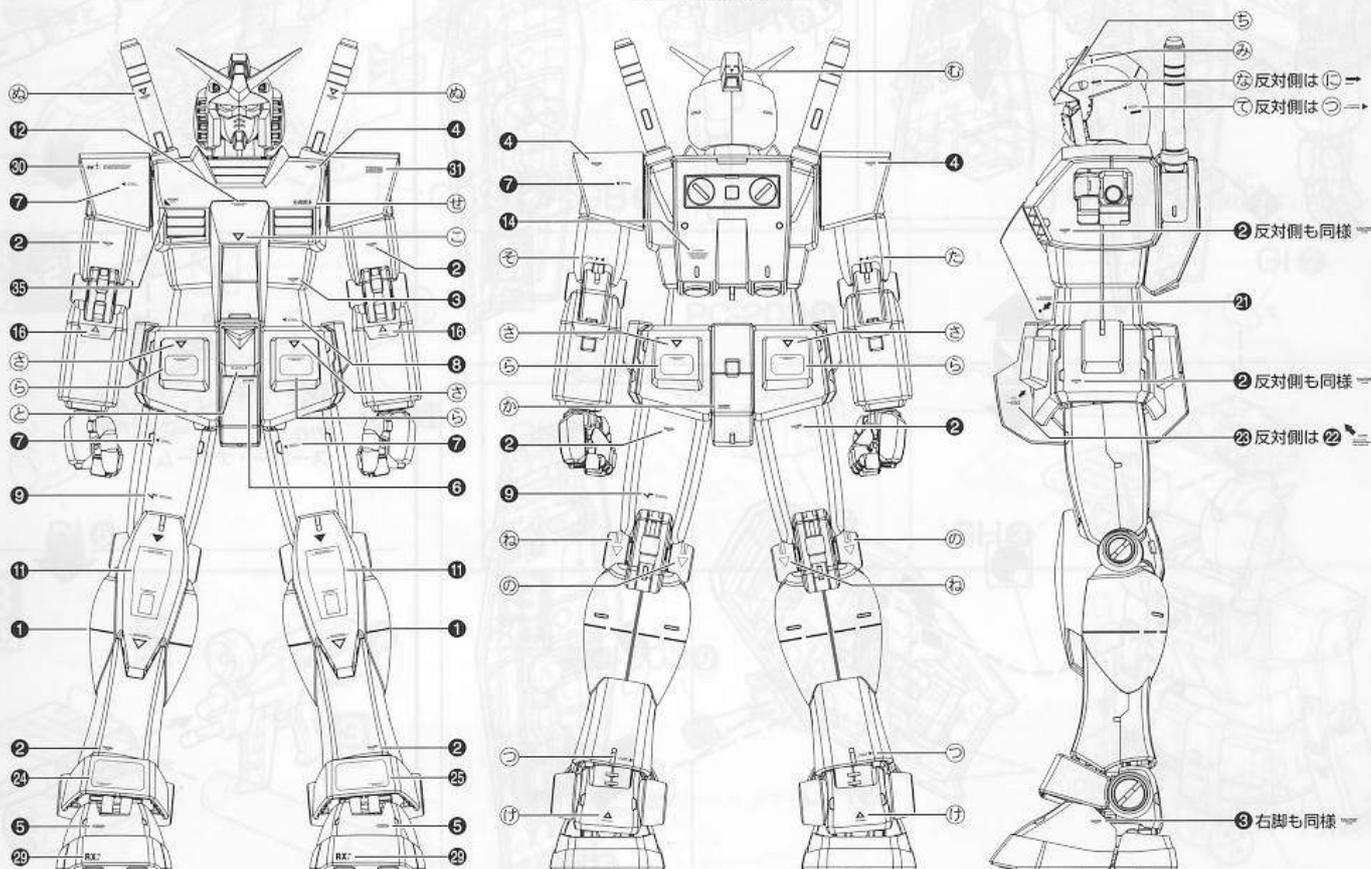
【ガンダムデカールの貼りかた】

1. 転写するマークを大きめに切ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



<ランドセル上>

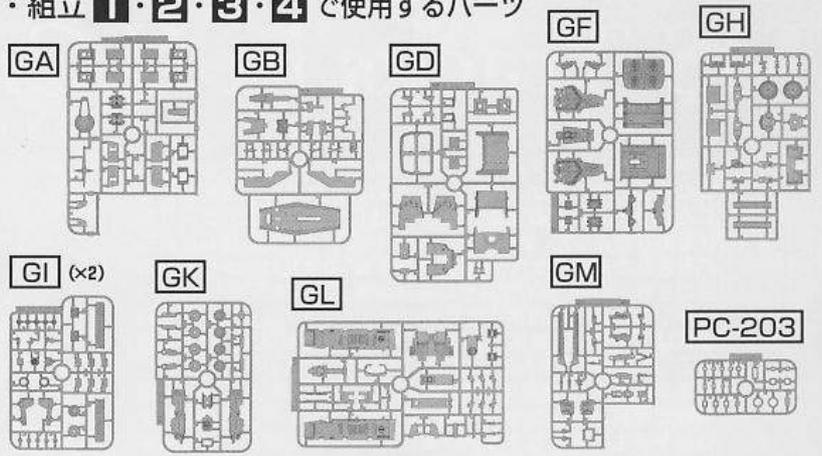


※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼ってください。

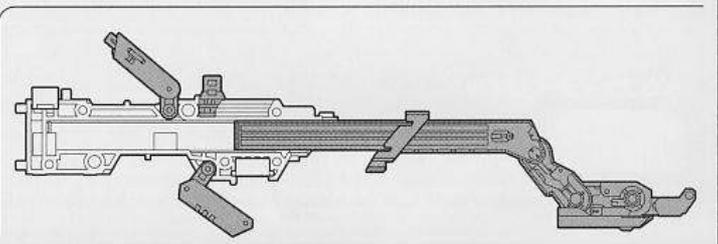
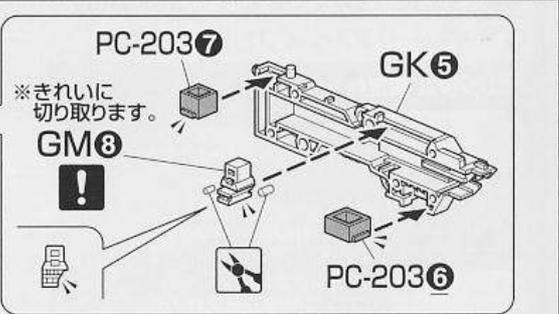
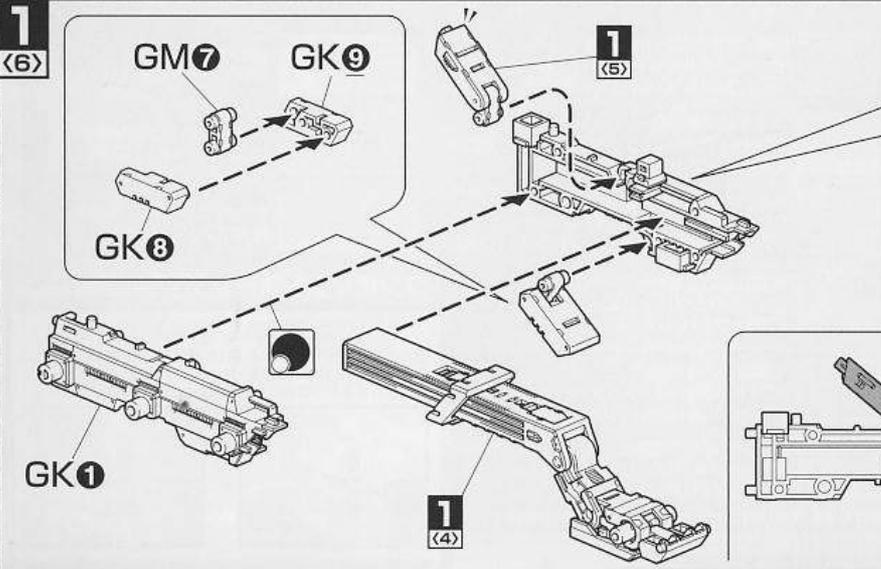
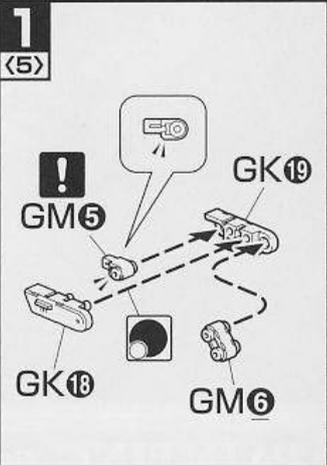
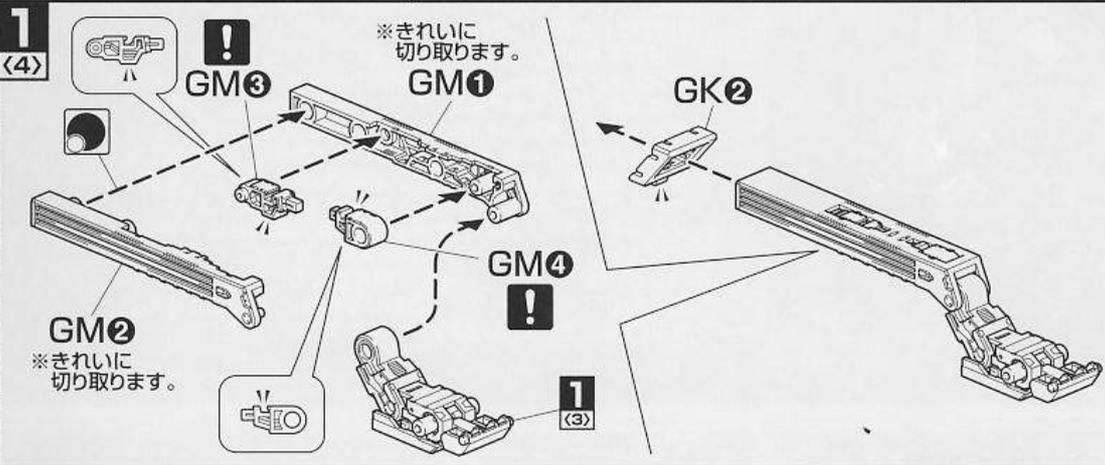
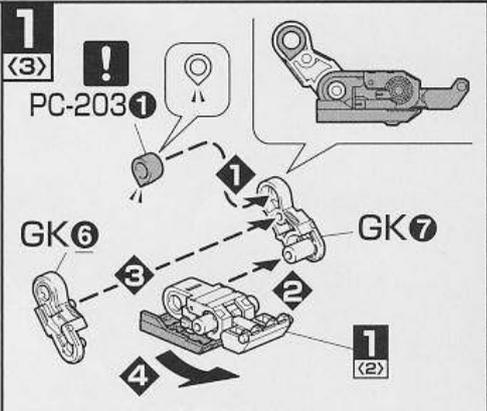
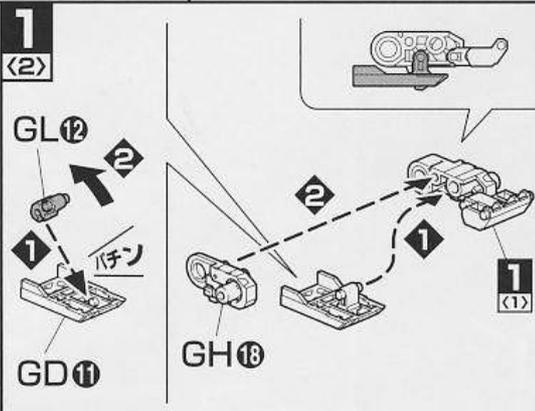
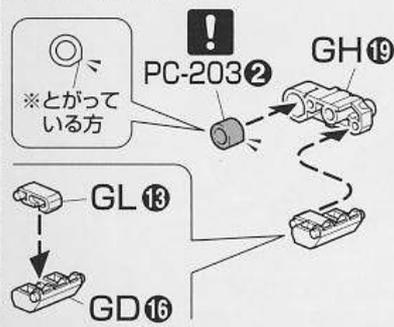
リアルタイプカラーGファイターの組み立て

1 2 3 4 A PARTS

・組立 1・2・3・4 で使用するパーツ

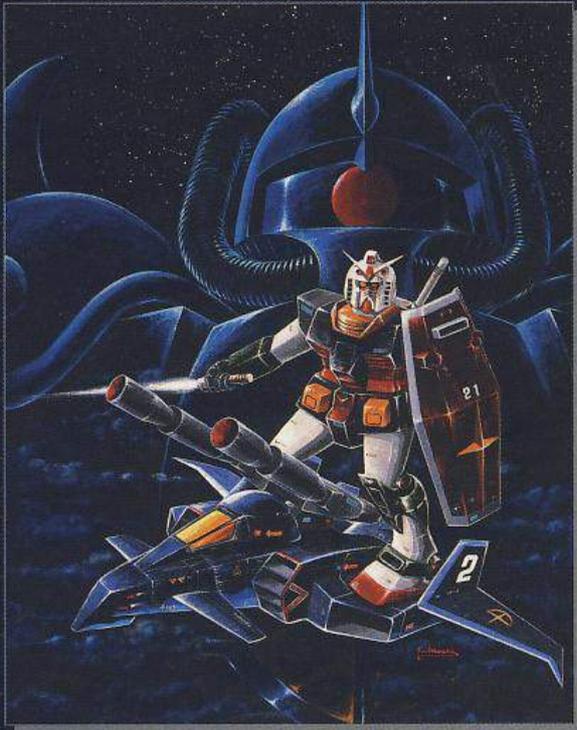


1 [Aパーツの組立]



# MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)

“RX-78-2 ガンダム”のカラーリングは、白を基調としたトリコロールカラーだが、ジャブローでの開発時は白と銀を基調としたカラーリングも試されており、他にも赤と白のカラーリングもあったようだ。サイド7遭遇戦時に、いくつかの機体は焼却処分されたもののうち一機は“ガンダム”の消耗パーツ供給用に回収されている。ジャブローの設計製造支援システムが、塗装パターンを検証にも援用された事は言うまでもない。加えて連邦軍には、“運用する機体と全く同じものを開発セクションが保有する”という伝統がある。これは、連邦軍の母体のひとつとなった軍事組織が、宇宙開発の極初期に得た教訓に基づいている。最前線で問題が起きた場合、例えばエアフィルターひとつがパイロットの生死を左右するかも知れない。ことに当該ミッションやテクノロジーのノウハウが構築途上であればなおさらの事で



ある。これらを考え併せれば、むしろGメカやコア・ブースターが2機ずつしか存在しないと考える方がおかしい。

連邦軍が開発した設計製造支援システムの本質は、生産工程のレスポンスにある。実際、工業製品の開発工程に必須のはずの“モックアップ”が不要であり、すなわち、設計からダイレクトに試作機の建造に移行できたのだ。このような生産環境にあって、モルモット部隊に配備される装備がワンオフと言う事は逆になり得ないはずだ。「ロービジビリティ塗装のGファイターに騎乗するダークグリーン塗装のガンダム」というビジュアルイメージは、オデッサ作戦に前後して流布された。連邦軍の戦略や生産能力を考えれば、このイメージ通りの実機が存在する可能性は高いのだが、“黒い三連星と対峙する同系塗装のガンダム”と並んで、あくまで“シミュレーター内における仮想イメージ”とする説もあり、その実在や戦闘記録などの詳細は不明である。

Illustration by Kunio Okawara

## PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

### Gアーマー リアルタイプカラー 指定色

#### <ガンダム 指定色>

顔、バナーカなどの塗装色  
ホワイト(100%) + ネービーブルー(少量)

胸部などの塗装色  
ミッドナイトブルー(100%)

襟などの塗装色  
イエロー(45%) + ホワイト(35%)  
+ オレンジ(20%)

#### <Gファイター 指定色>

ノーズなどの塗装色  
ホワイト(80%) + ニュートラルグレー(15%)  
+ パープル(5%) + ブルー(少量)

腹部、つま先などの塗装色  
モンザレッド(80%) + ホワイト(10%)  
+ イエロー(5%) + ニュートラルグレー(5%)

スネなどの塗装色  
ホワイト(75%) + ニュートラルグレー(25%)  
+ ネービーブルー(少量)

ふくらはぎなどの塗装色  
グリーン(35%) + ホワイト(30%)  
+ ブラック(25%) + オリーブドラブ(10%)

武器などの塗装色  
ニュートラルグレー(90%)  
+ ブラック(10%)

本体などの塗装色  
ホワイト(40%) + ブラック(35%)  
+ ブルー(15%) + レッド(10%)

内部メカなどの塗装色  
ニュートラルグレー(90%)  
+ ブラック(10%)

目の塗装色  
クリアイエロー(100%)

顔センサーなどの塗装色  
クリアレッド(100%)

ビーム・ジャベリン発光部  
蛍光ピンク(100%)

### ワンポイントステップ ~One point step~

#### スミいれしてみよう!

ガンダムマーカー/スミいれ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

Scanned by Dalong.net

バンダイ「模型情報」誌上でMSVのキット化が発表された1983年。  
当時のMSVブームとは何であったのか、そして満を持して放つMSV-Rとは!?

## MOBILE SUIT VARIATION MSV

### MSV (モビルスーツ・バリエーション) の歴史、 それは4点のザクバリエーションから始まった。

MSV(モビルスーツ・バリエーション)はキット化発表の約2年前の1981年、大河原氏がムック本用書き下ろし、4点のザクバリエーションを発端にスピンオフ的な企画として始動。その後もムック本、コミックボンボン、模型情報に数々のバリエーションとエースパイロットの機体が掲載され、ガンブラファンの圧倒的な支持を受けて多数のMSVがキット化された。

基本となった4点のザクバリエーションは、既成概念にとらわれず、プラモ作りを楽しむヒントになればと、物作りが好きな大河原氏ならではの思いがこめられたものだった。MSV登場以前に描かれたリアルタイプと総称される、機体全体に細かく注意書きなどコーションデータを描いた一連のイラストも同様の思いから描かれたものである。

大別される事の多い2つのシリーズだが、言わばリアルタイプはMSVの始祖、共通のコンセプトを持つ同じカテゴリーのものだといえるだろう。

そして、約25年振りの2009年、「月刊ガンダムエース」誌上で復活、再始動した新たなMSV、「MSV-R」の連載にあたり大河原氏は「MSV-Rでは重量感、ミリタリズム、そして、遊び。商品化が前提ではないので、枠から外れた遊びという要素を構築できたらいいですね。模型をお客様が自分なりに工夫出来る楽しみの余地を残した物になればと考えています。25年前は、多忙を極めた中ででの作業でした。今回は出来るだけ時間をとって、じっくりと描きたいと思っています。」と、MSV-Rへの思いを語られた。25年前同様のコンセプトで描かれる「MSV-R」に注目して頂きたい。

文:草刈健一

模型情報・別冊  
MSバリエーションハンドブック



当時、模型情報誌に掲載されていた設定画稿の数々。

# 25年

## 機動戦士ガンダム MOBILE SUIT VARIATION MSV-R

ガンダムブーム全盛期、大人気となった「MSV」。その流れを受け継いだ企画「MSV-R」が、ガンダム30周年を機に始動する事となった。

新たに描かれ発表されるモビルスーツや武器。今までは文章設定のみでしか存在しなかったメカニック群を中心に展開していく。それらの真実からは、復活だけではなく、新たな時代の胎動を感じることができるはずだ。

(協力:角川書店 ガンダムエース編集部)

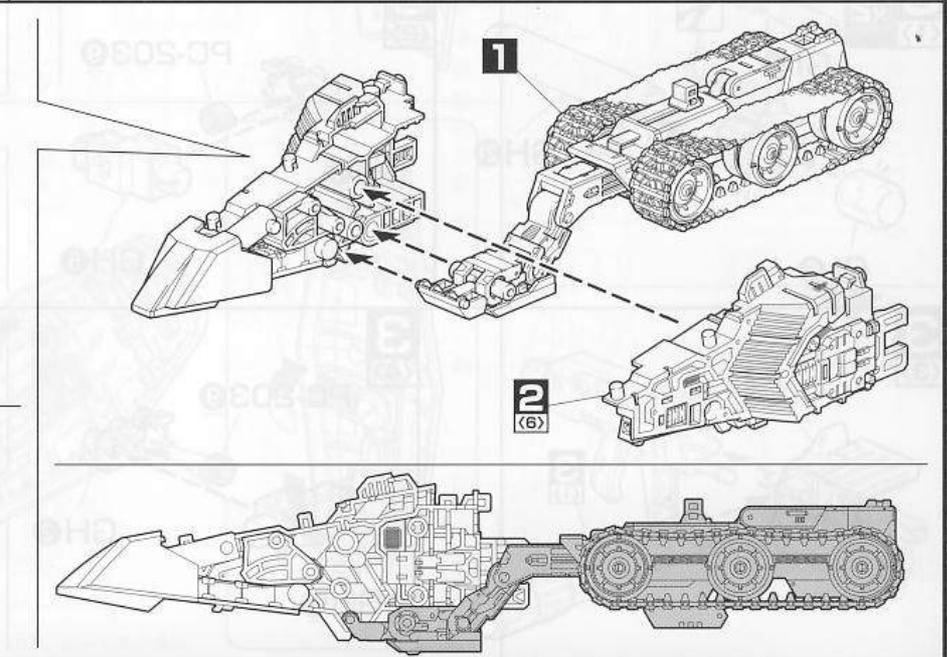
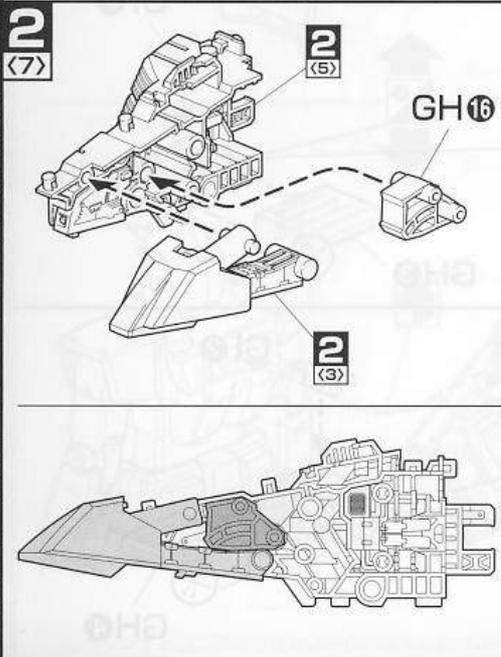
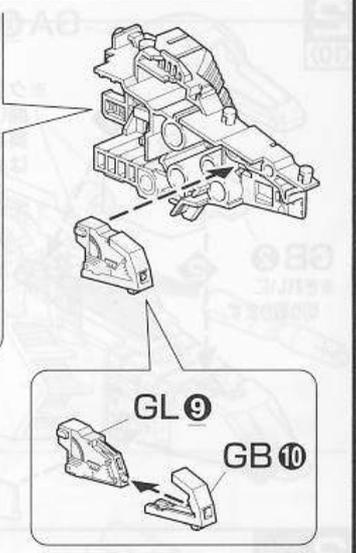
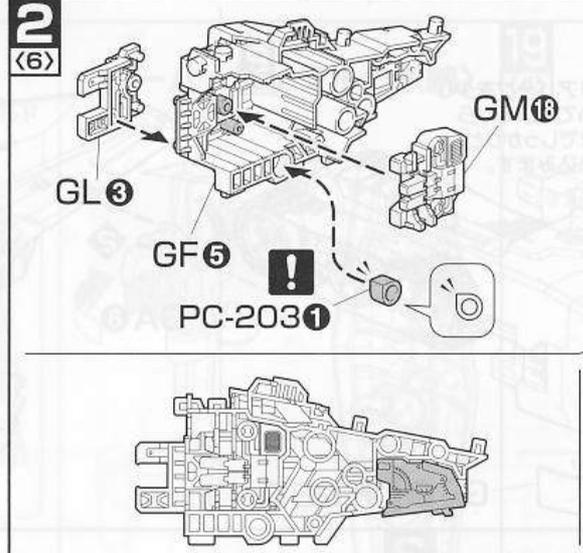
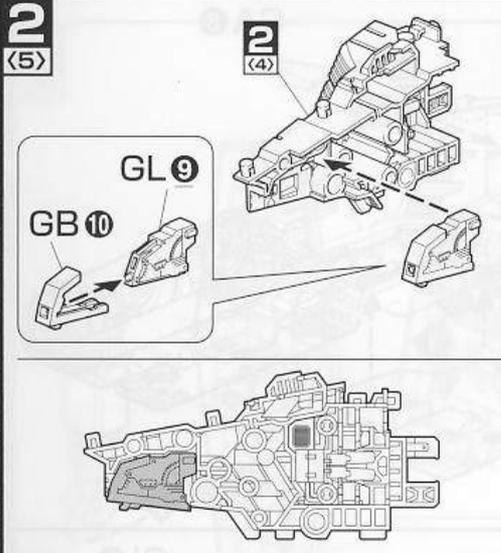
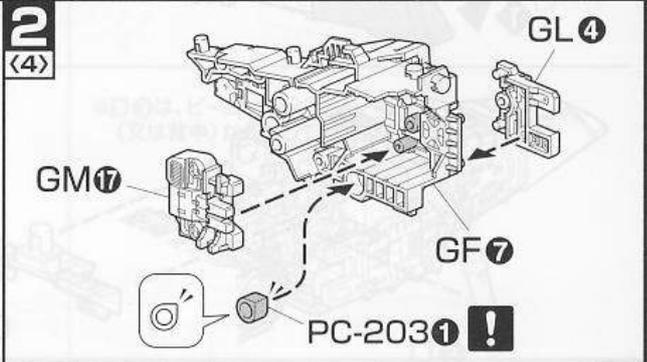
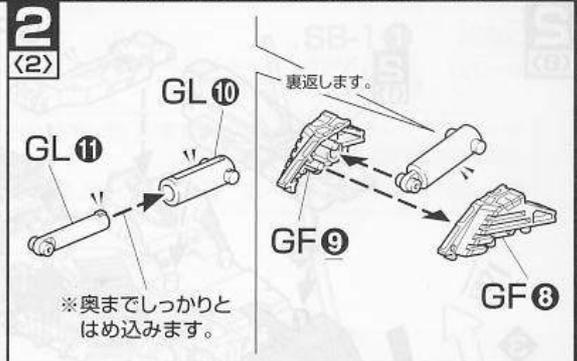
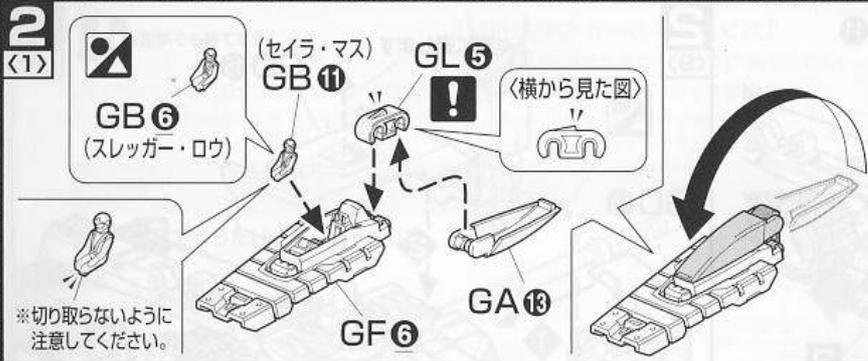
### Gファイターバリエーション



◀Gファイターのバリエーションも書き起こされている。

ガンダムリアルタイプカラー

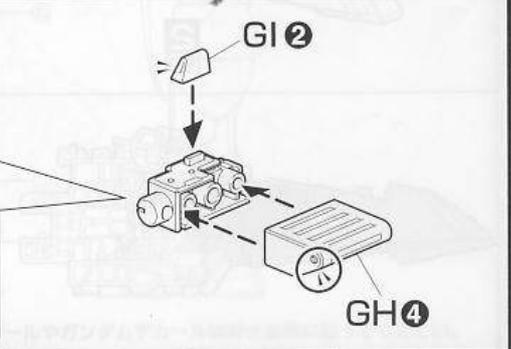
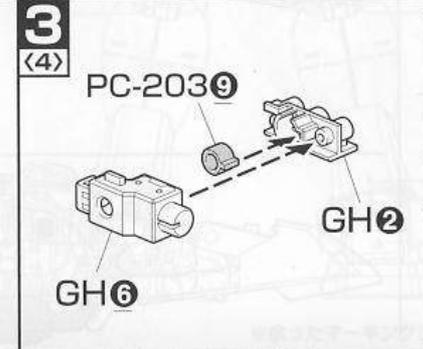
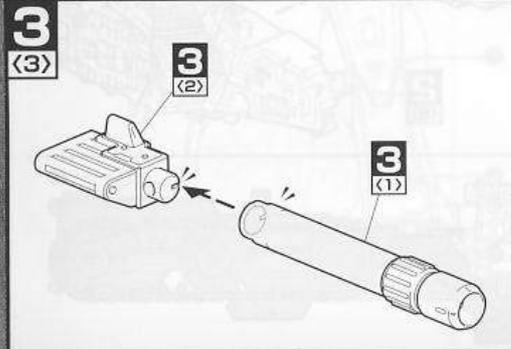
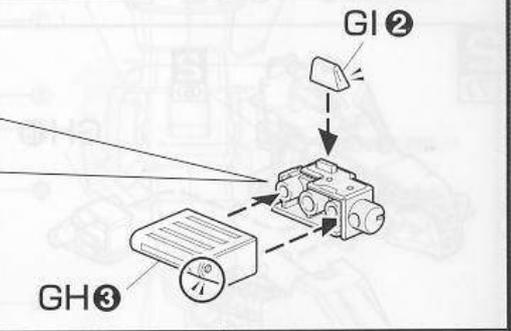
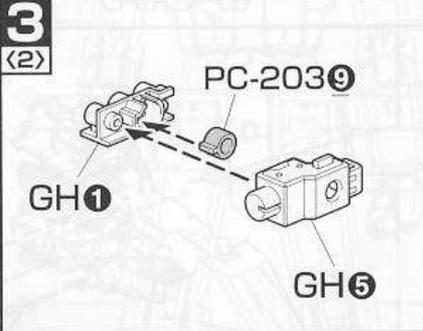
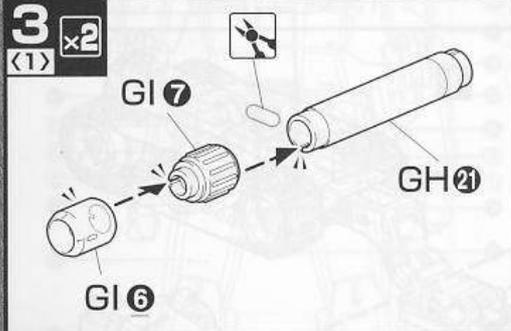
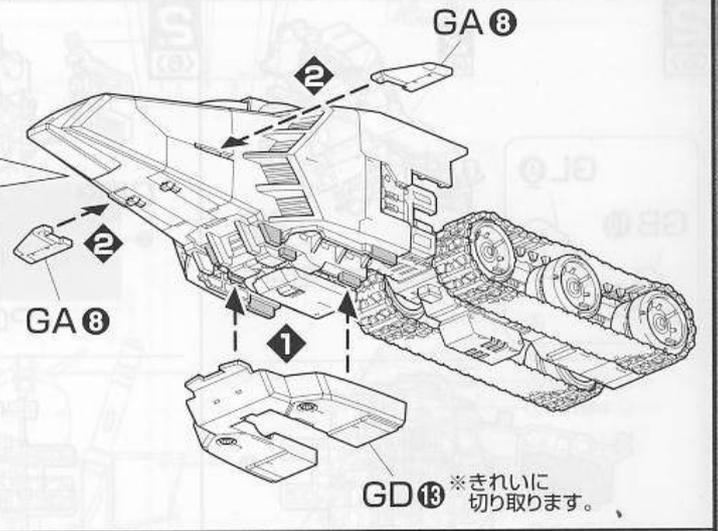
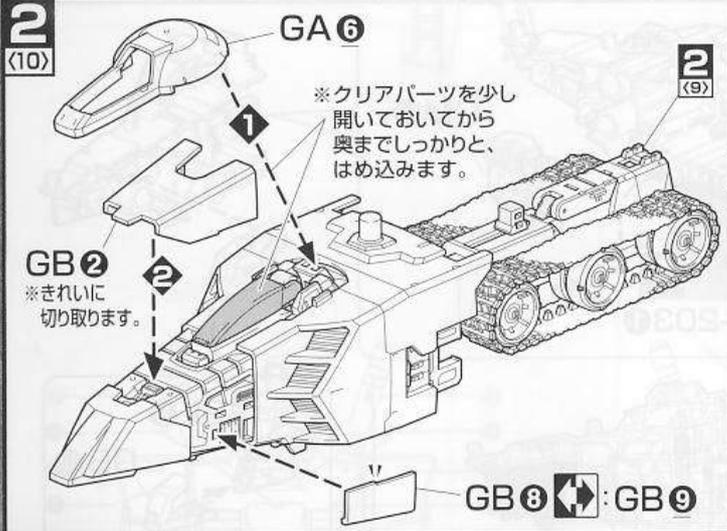
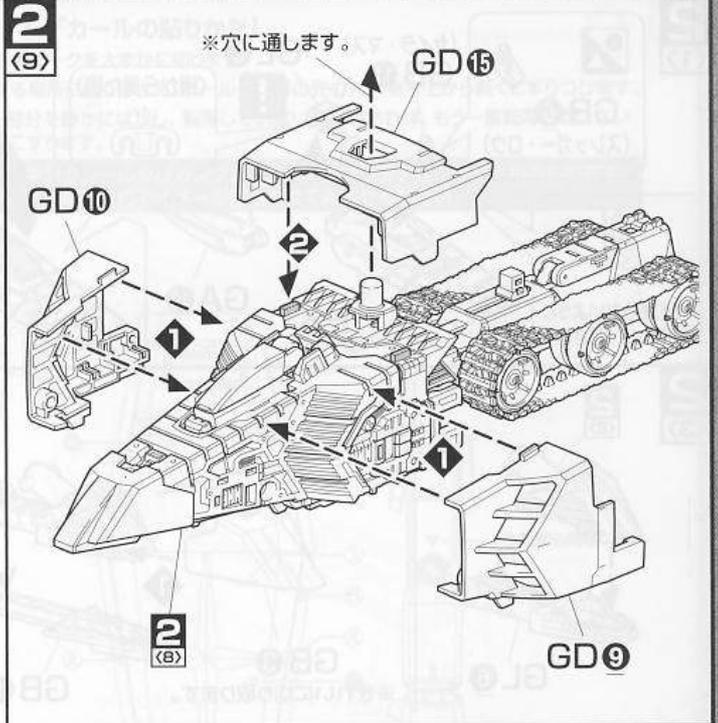
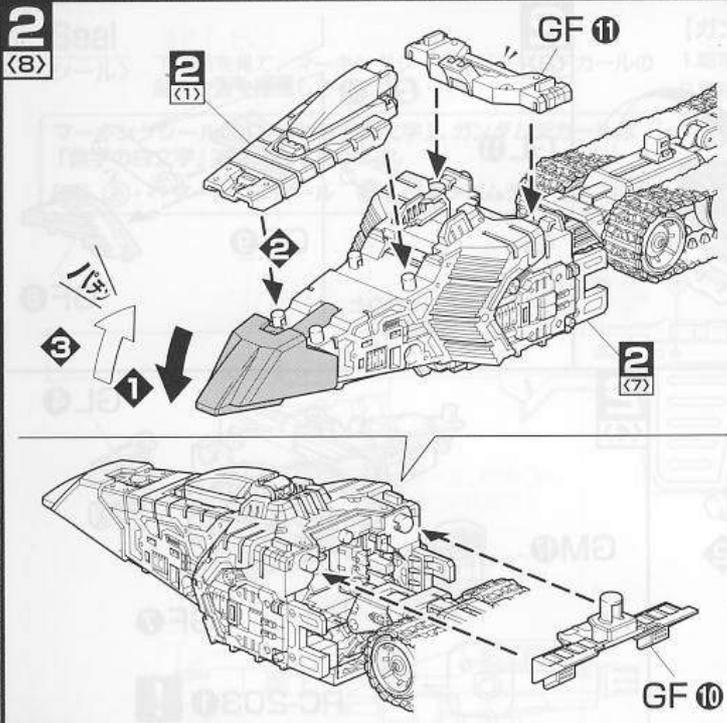




※組立図中の記号説明

どちらかを選んで取りつける

向きに注意して組み立てる

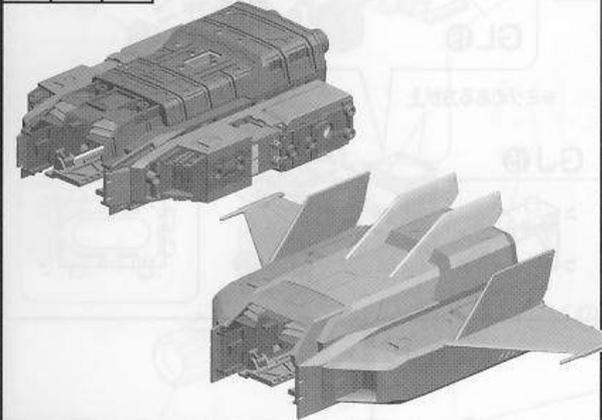


**3**  
**(5)**

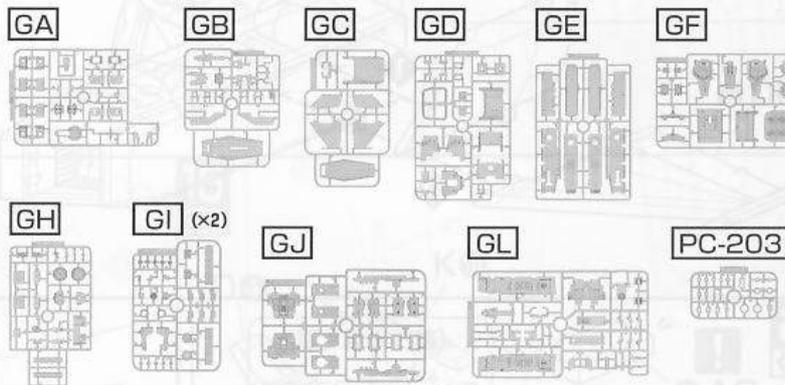
GH10  
PC-203  
※きれいに切り取ります。  
GH10

**4**

**5 6 7 B PARTS**



・組立 5・6・7 で使用するパーツ



**5** [Bパーツの組立]

**(1)** B PARTS

〈裏から見た図〉

PC-203 10 GL 19  
※ミソのある方が上  
GJ 14

〈前から見た図〉  
短い 長い

GA 6  
GA 2  
GA 4  
GI 18  
※きれいに切り取ります。

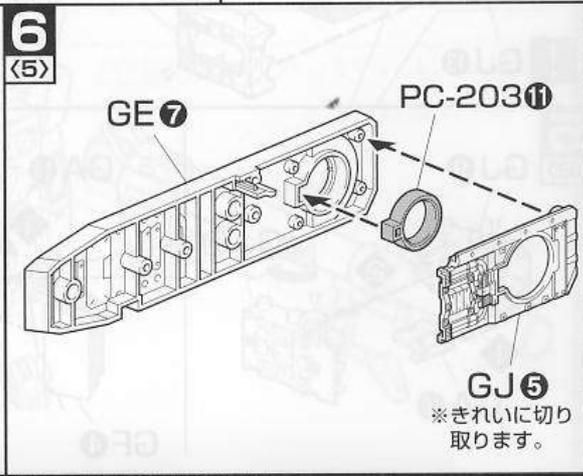
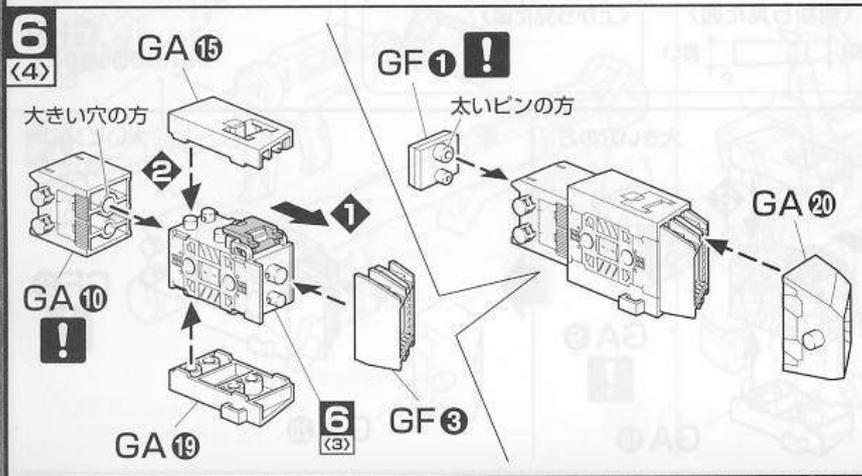
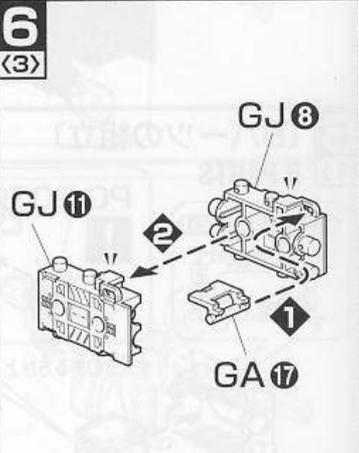
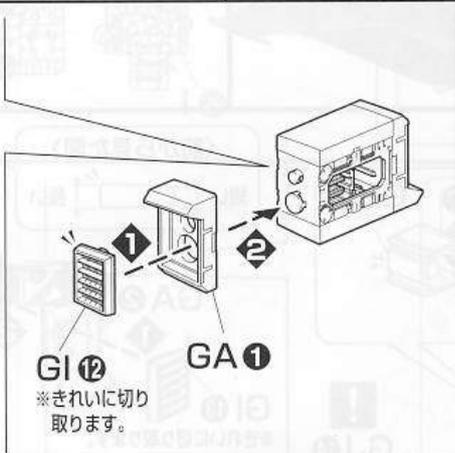
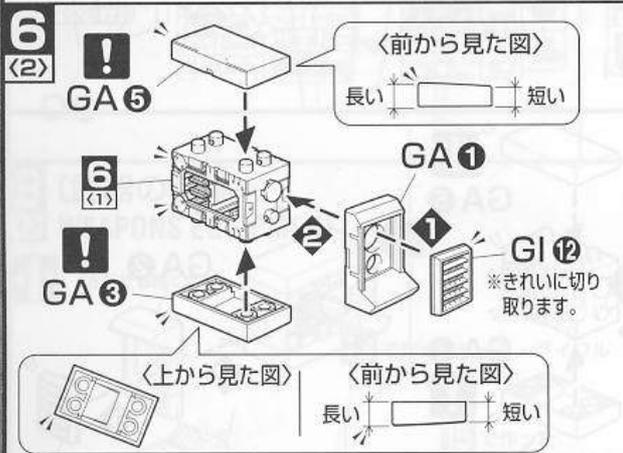
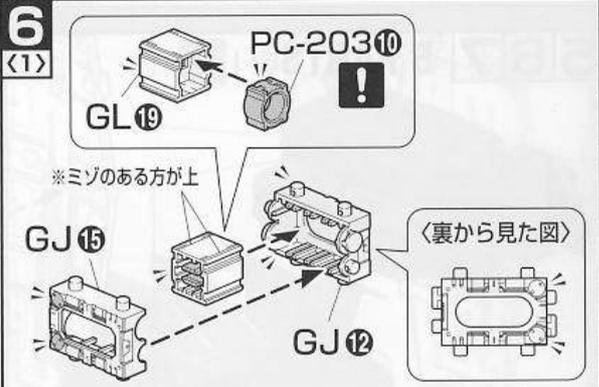
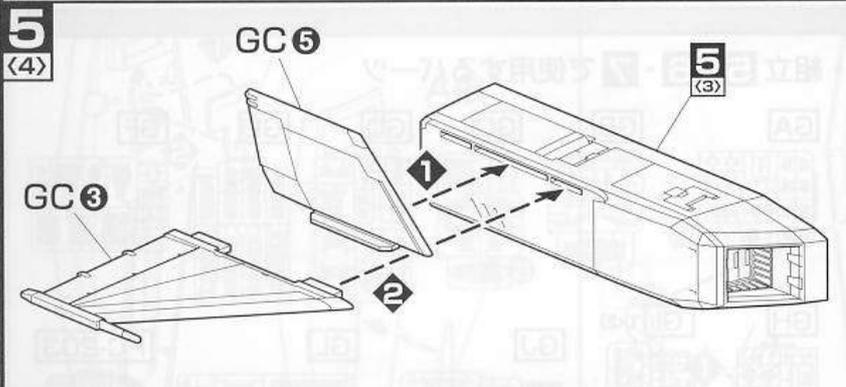
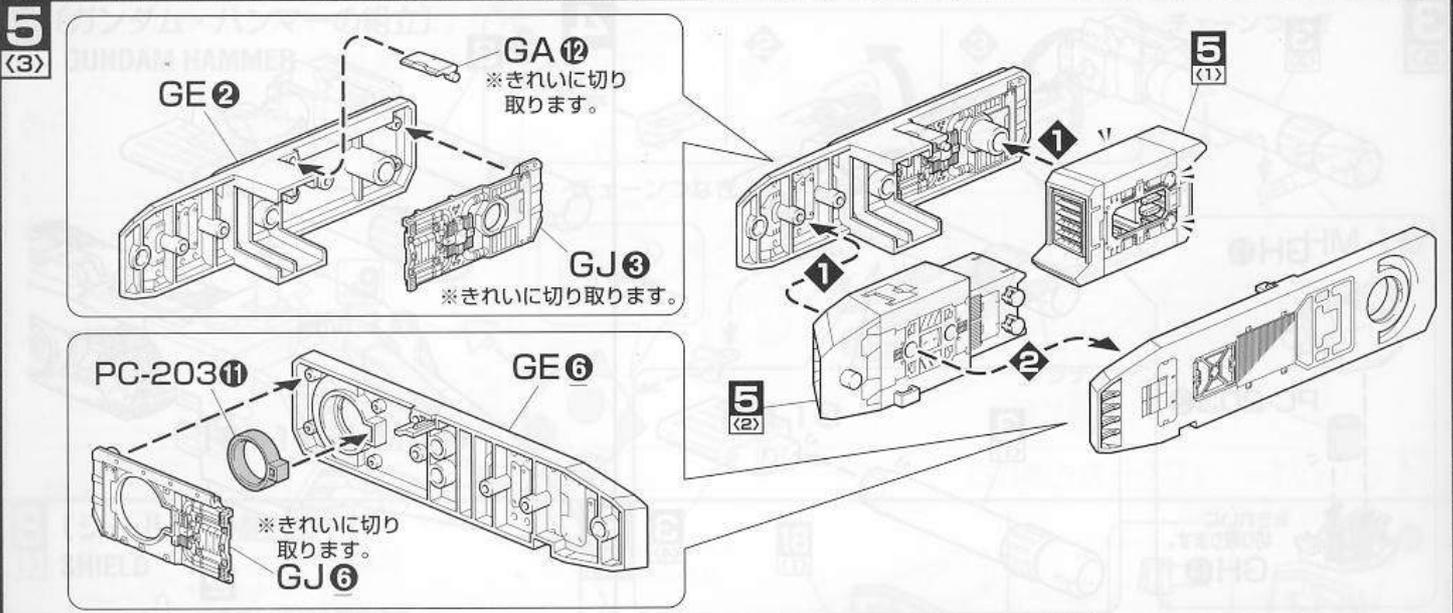
〈上から見た図〉

GA 2  
GI 18  
※きれいに切り取ります。

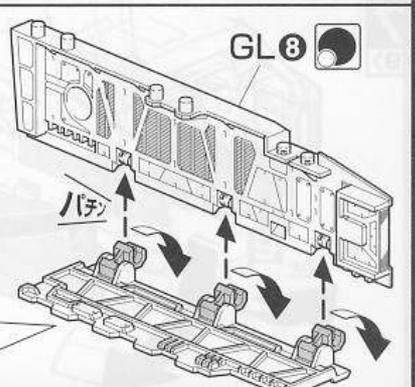
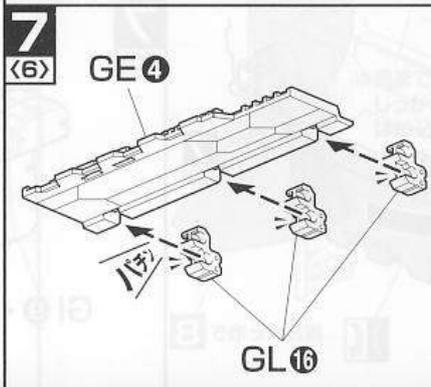
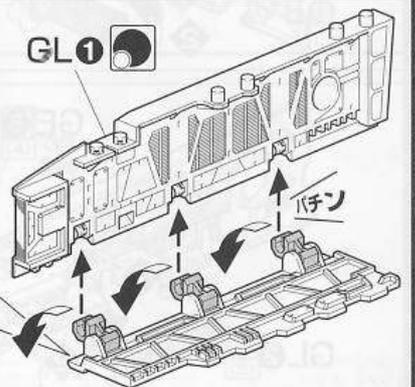
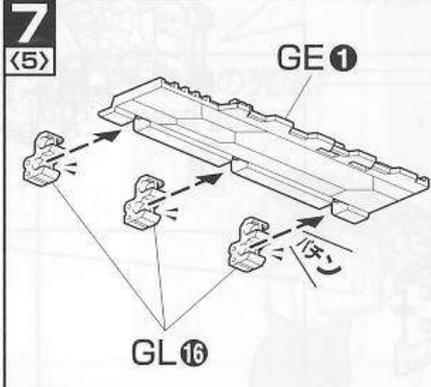
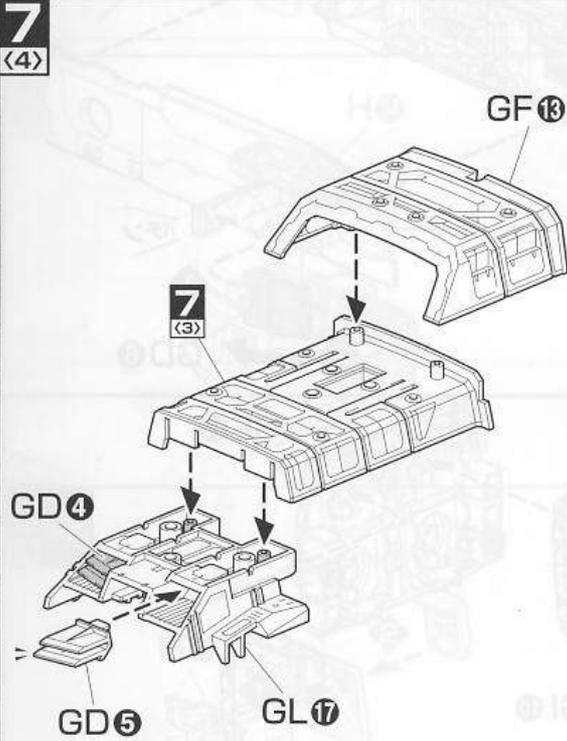
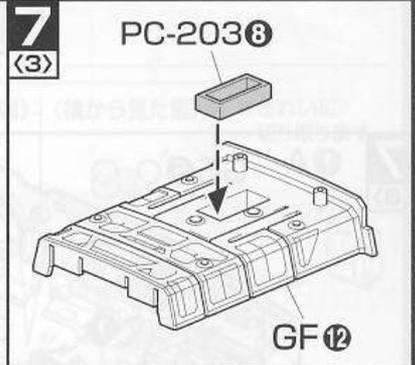
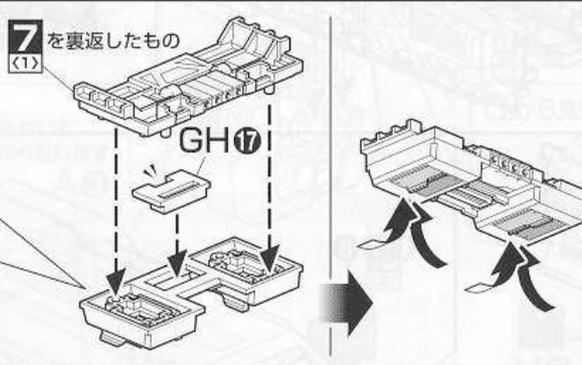
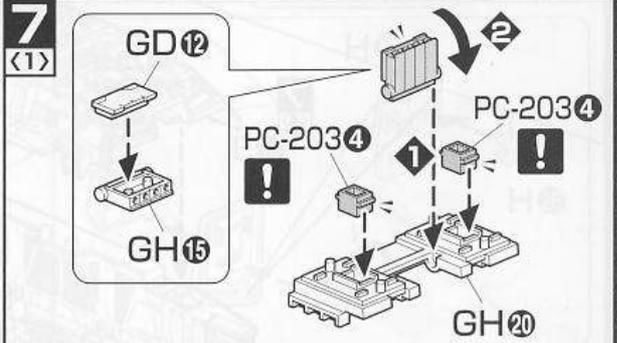
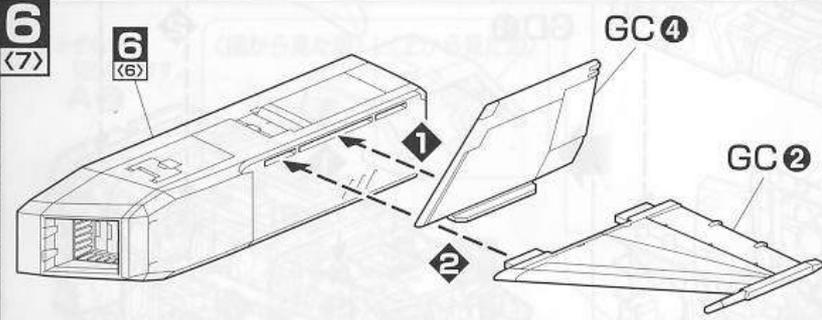
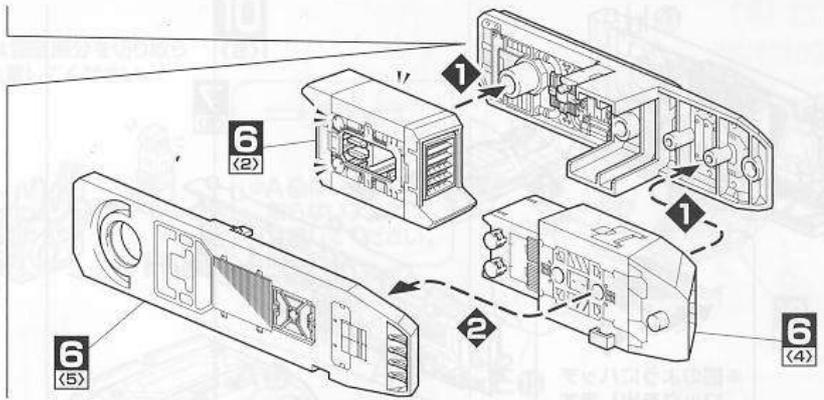
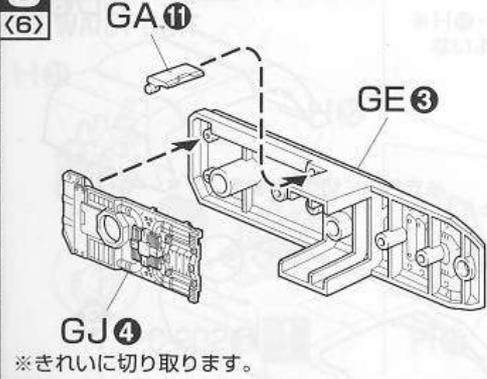
**5**  
**(2)** GJ 9

GA 16  
GA 14  
GA 9  
GA 18  
GF 4  
GA 20  
GF 2  
大きい穴の方  
太いピンの方

※組立途中の記号説明  
! 向きに注意して組み立てる



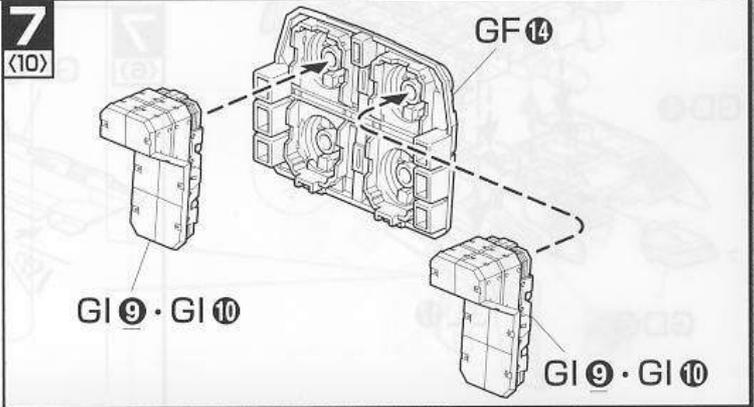
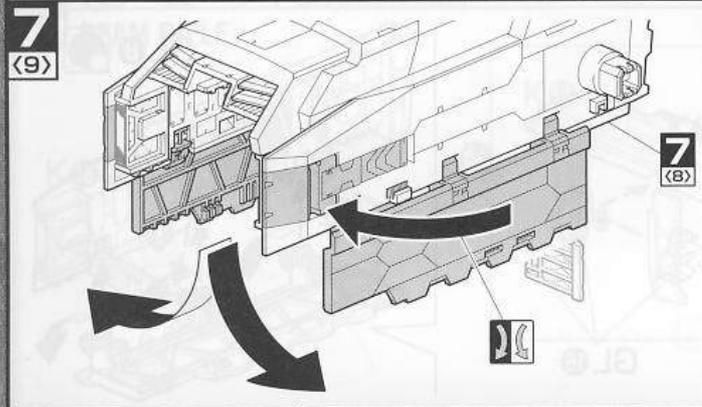
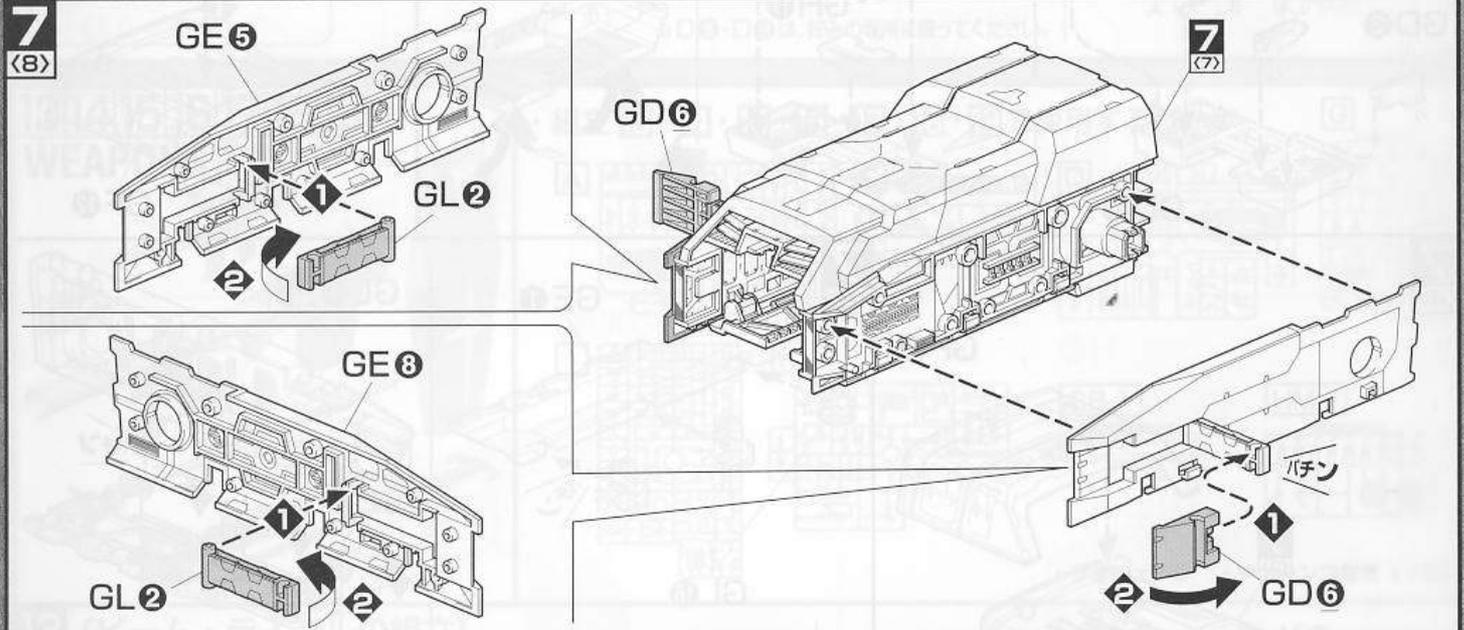
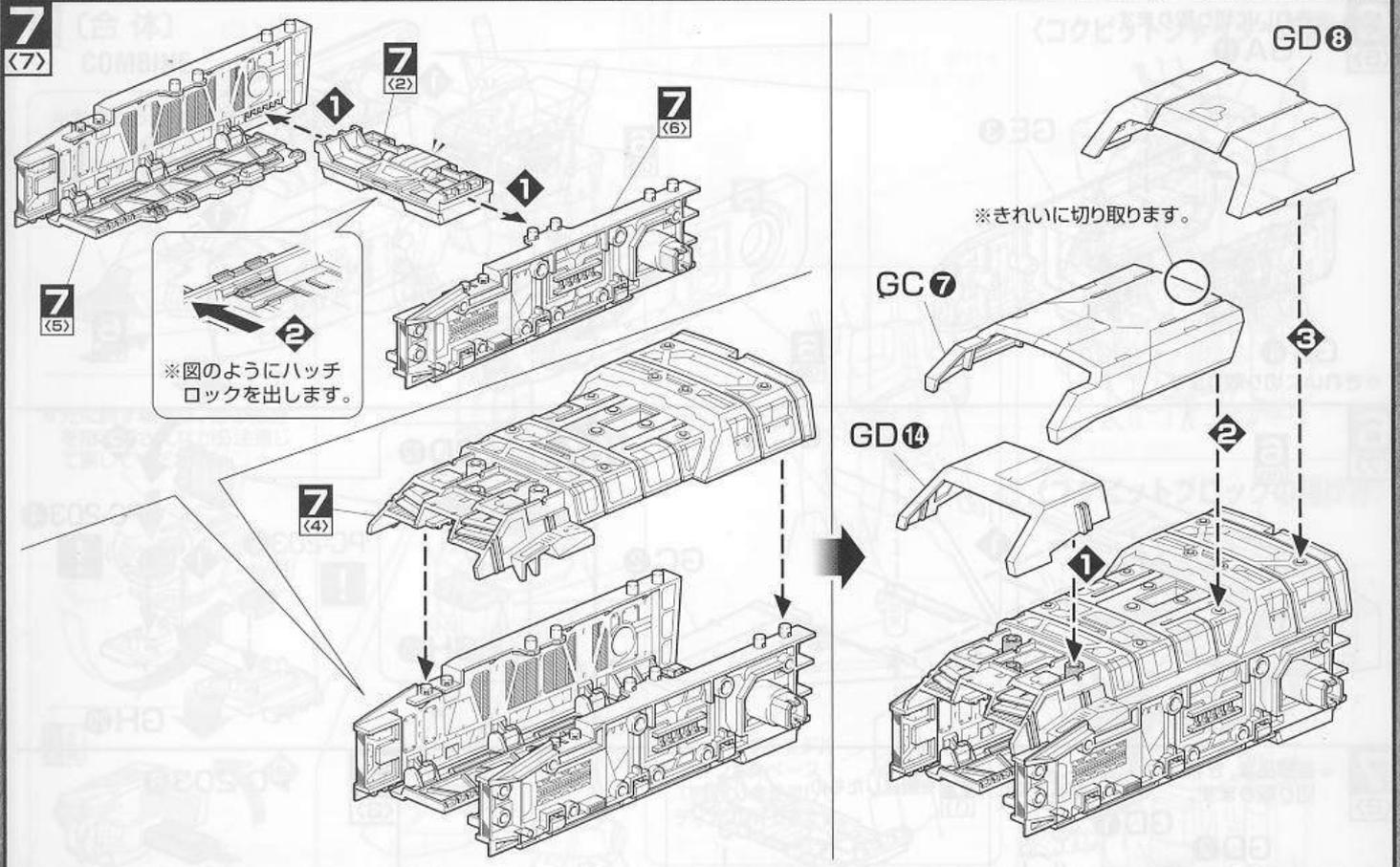
6 ※きれいに切り取ります。

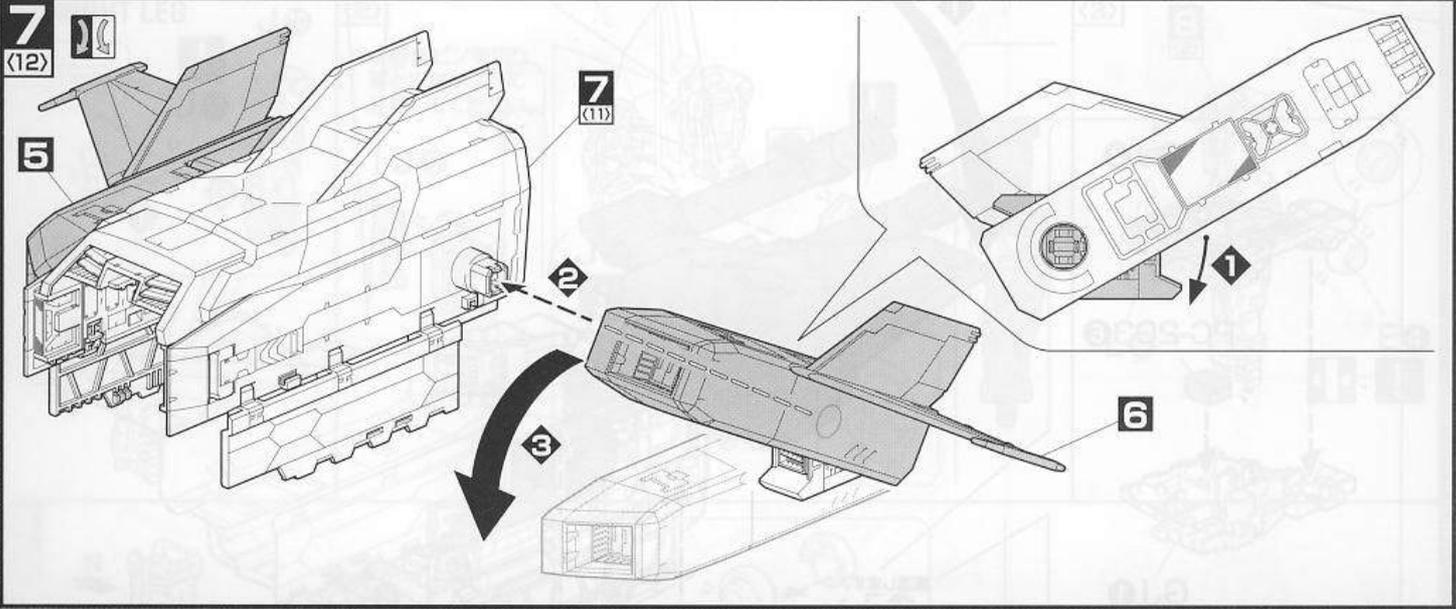
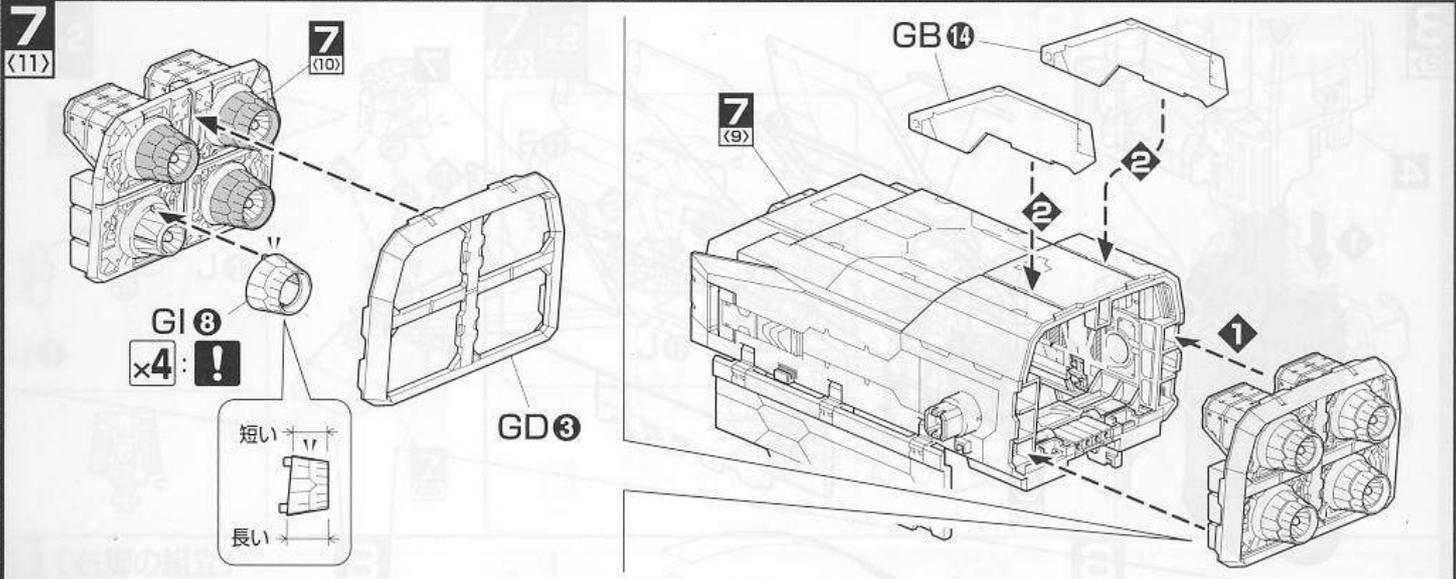


※組立図中の記号説明

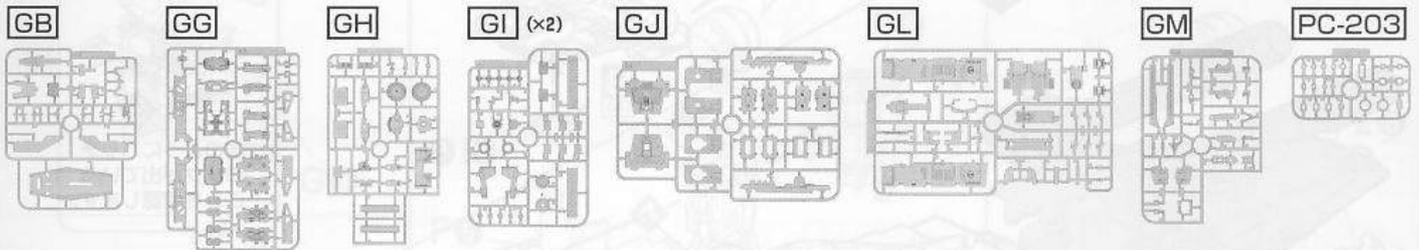
● 後から組み立てる

! 向きに注意して組み立てる

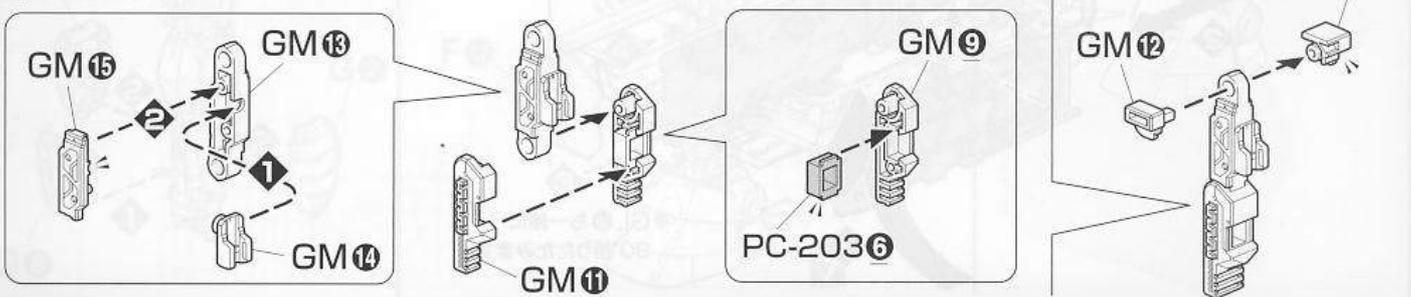




**8 9 10 11 12** ・組立 8・9・10・11・12 で使用するパーツ



**8** [Gファイターの組立]  
(1) G FIGHTER



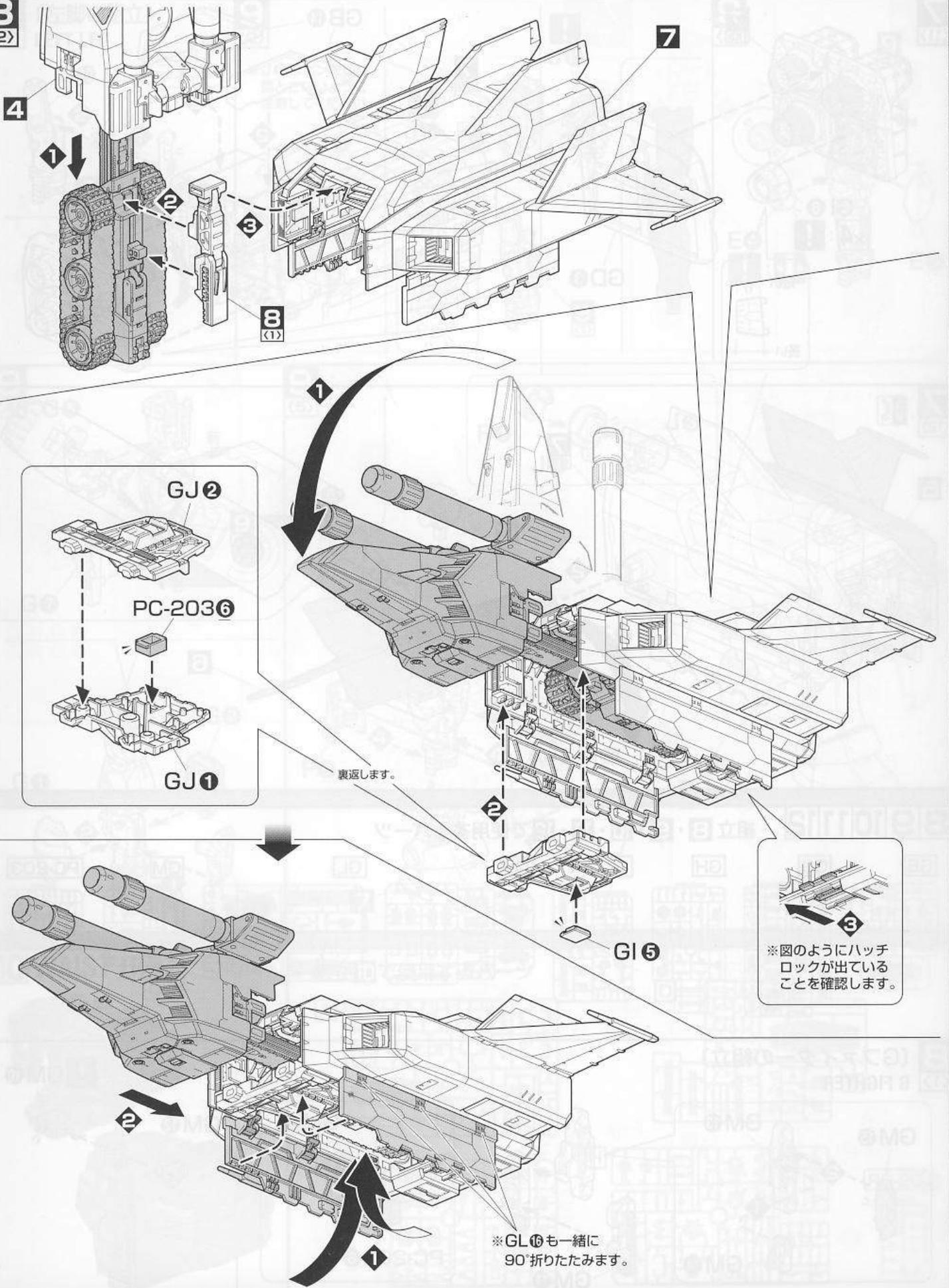
※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる

x4 部品を数値の個数作ります

! 両側を同じように動かす

8  
(2)

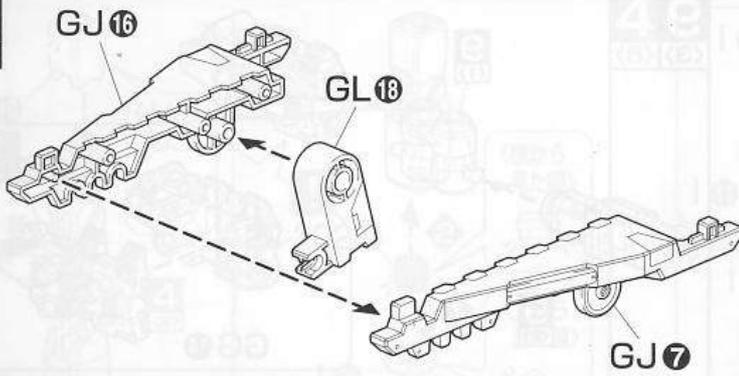


裏返します。

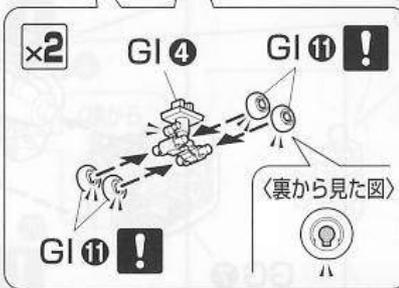
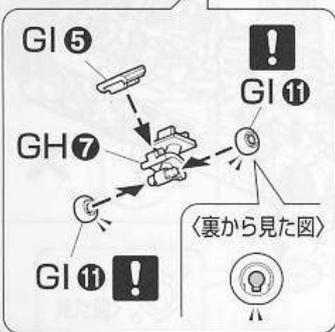
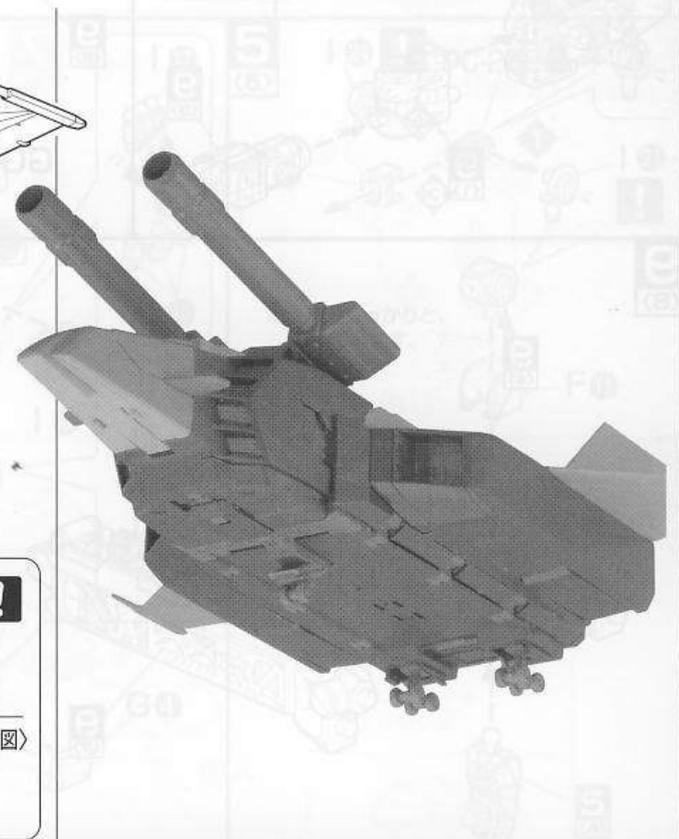
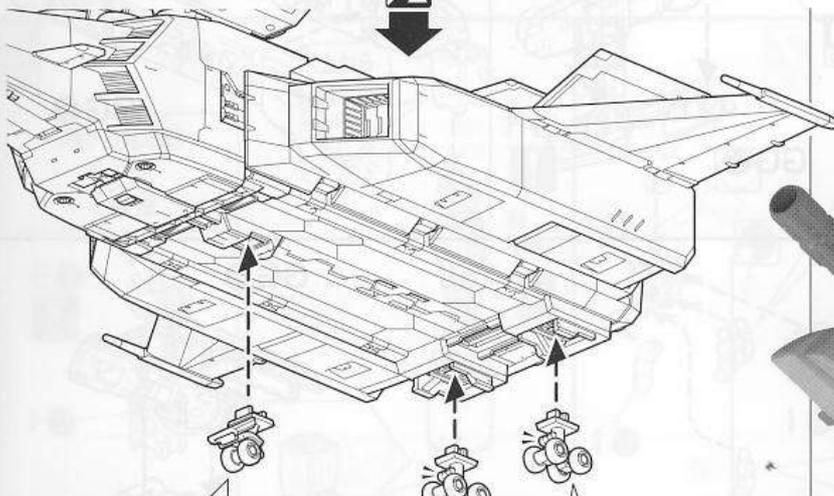
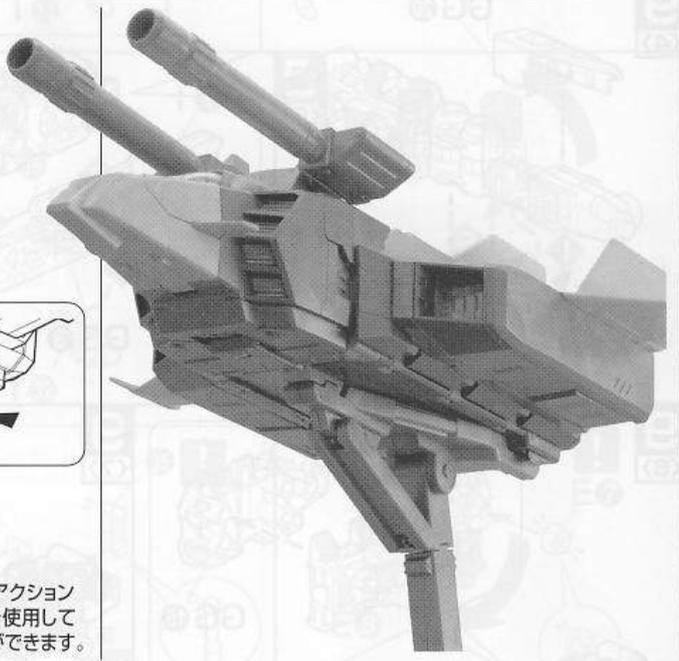
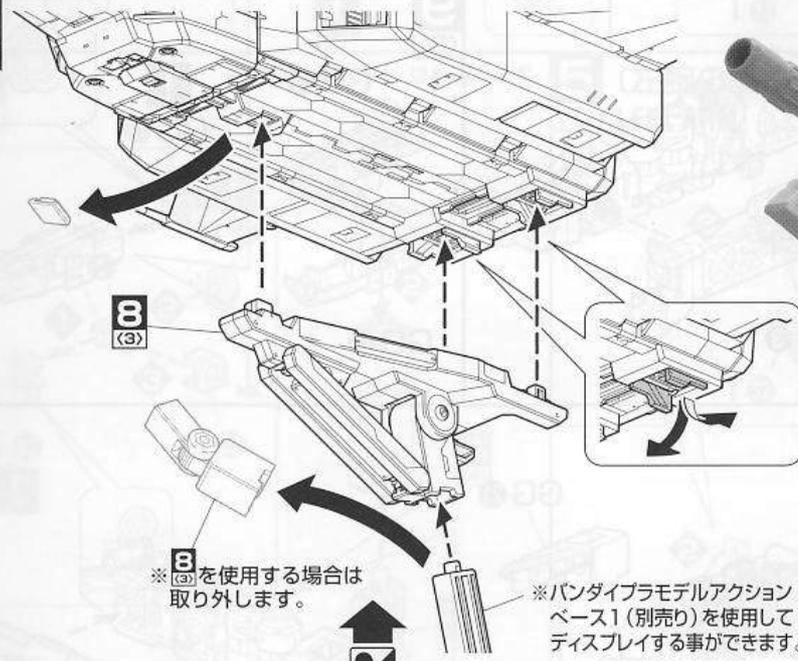
※図のようにハッチ  
ロックが出ている  
ことを確認します。

※GL6も一緒に  
90°折りたたみます。

8  
(3)



8  
(4)

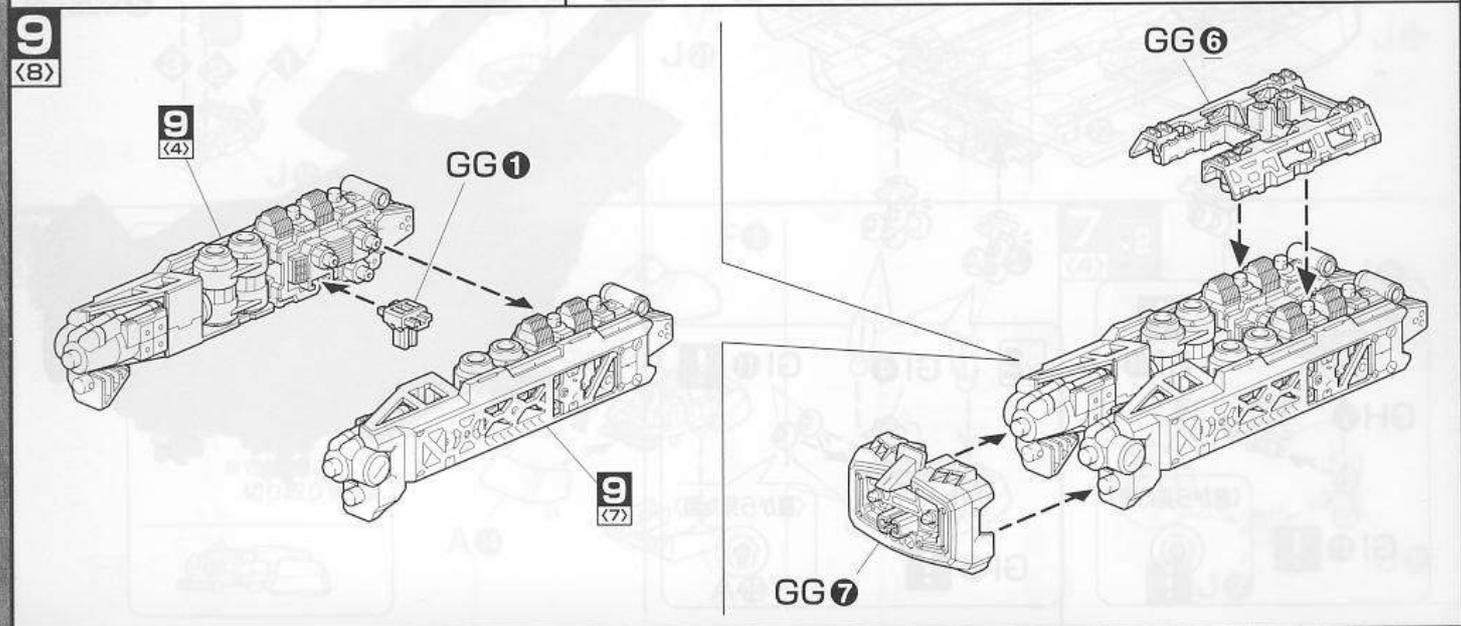
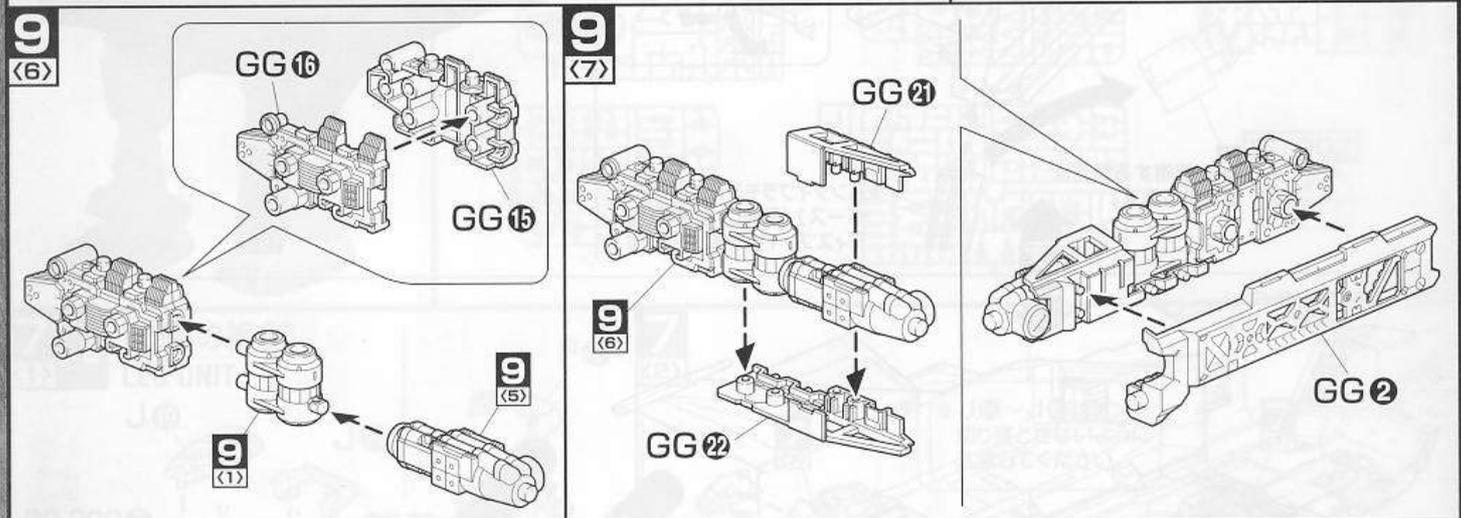
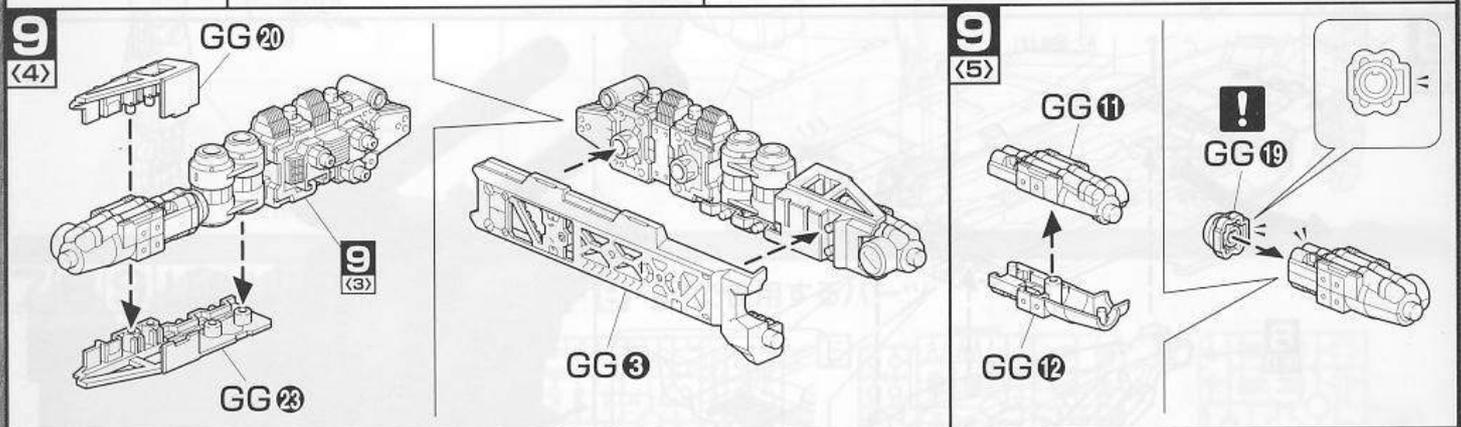
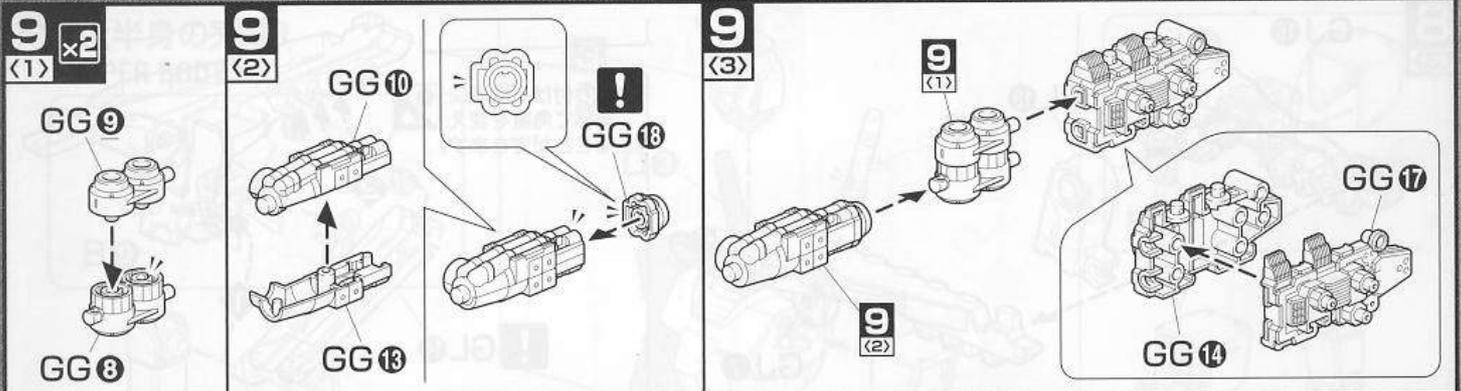


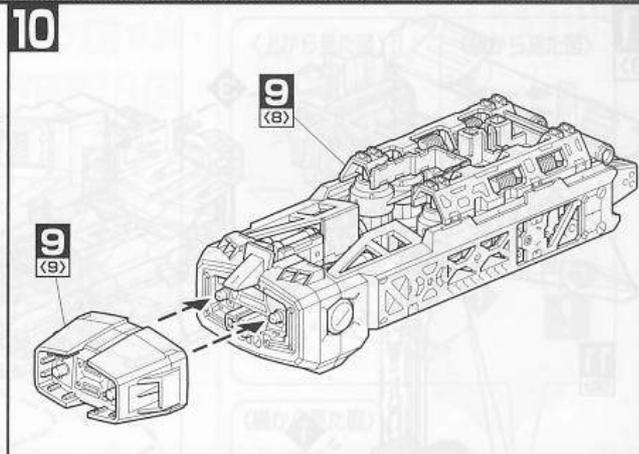
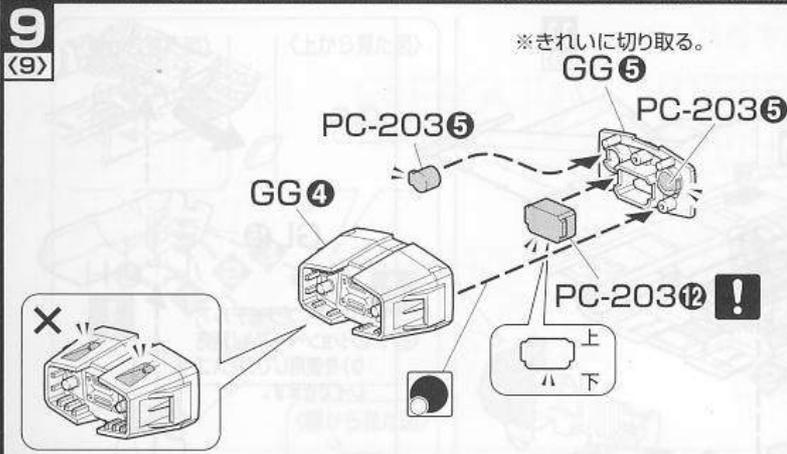
※組立図中の  
記号説明

! 向きに注意して  
組み立てる

△ どちらかを選ん  
で取りつける

x2 部品を数値の  
個数作ります

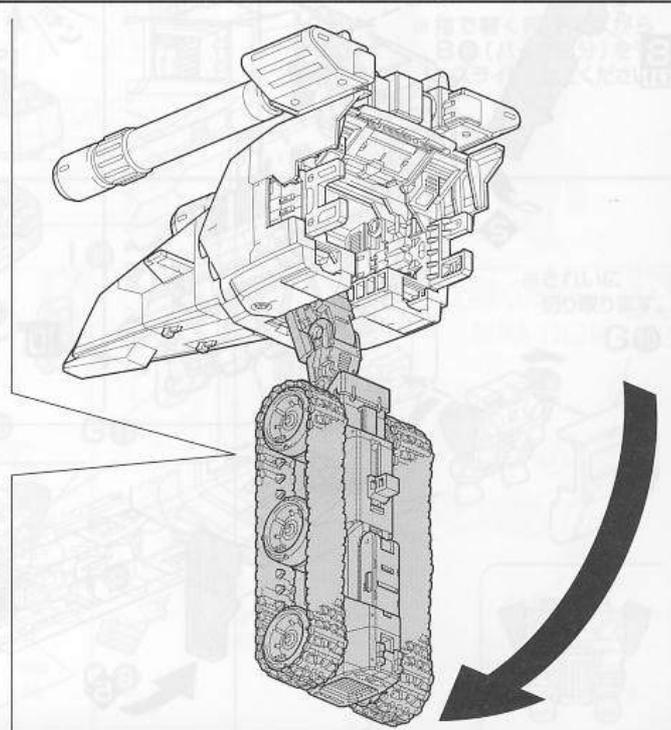
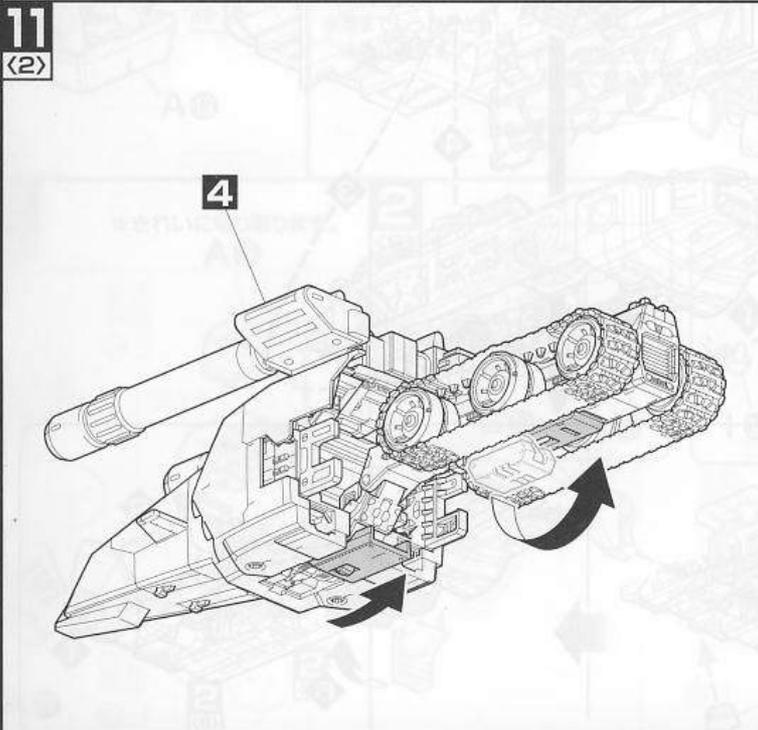
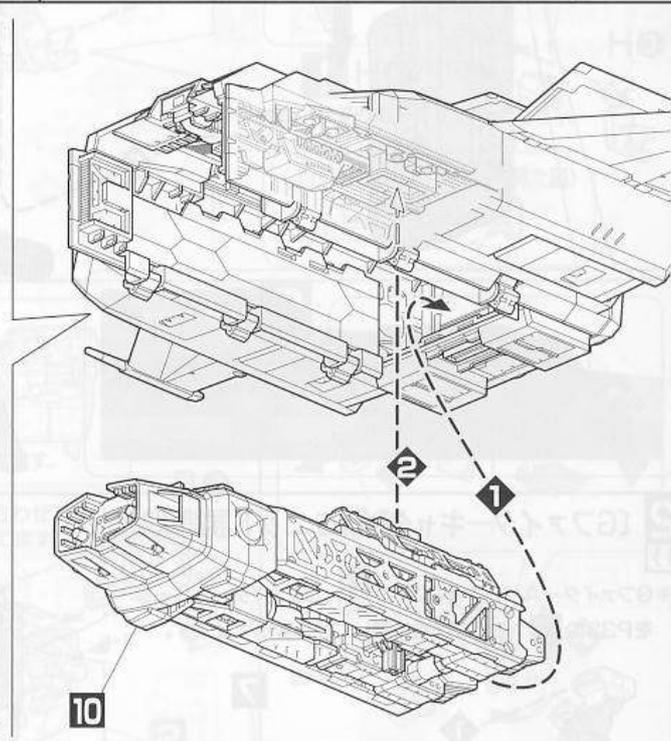
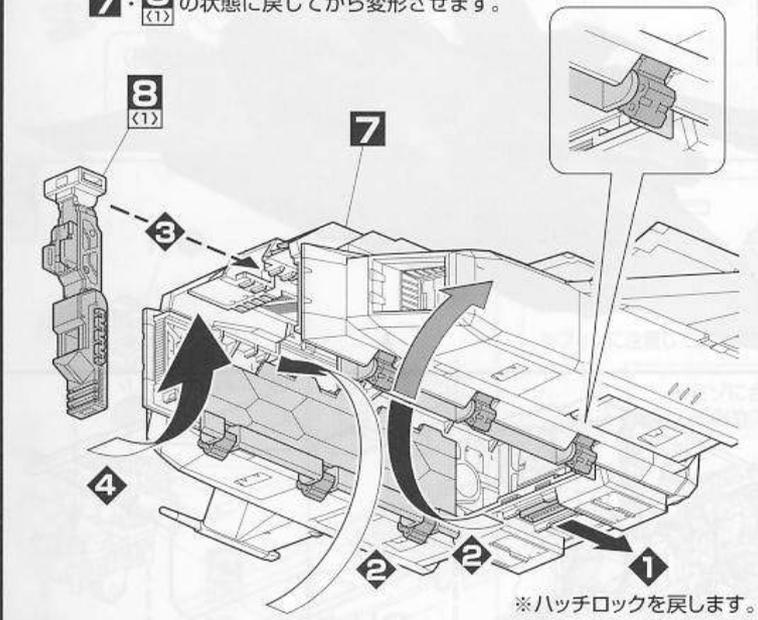




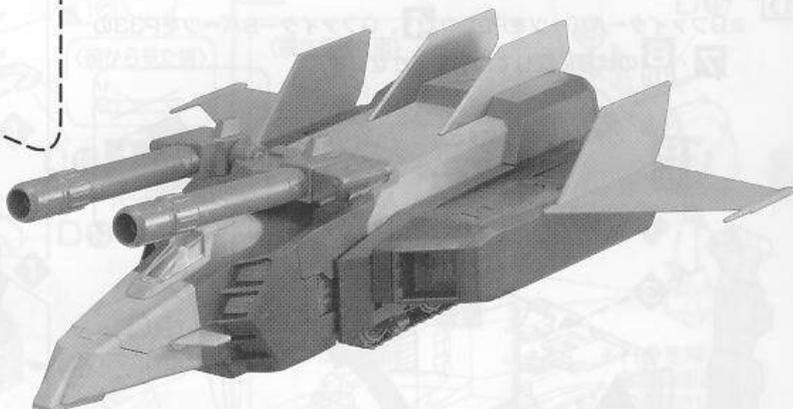
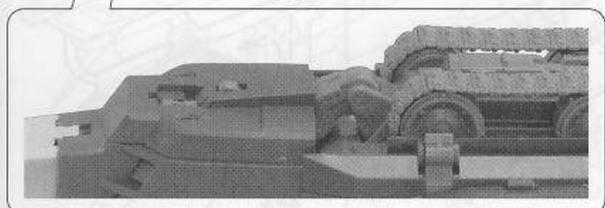
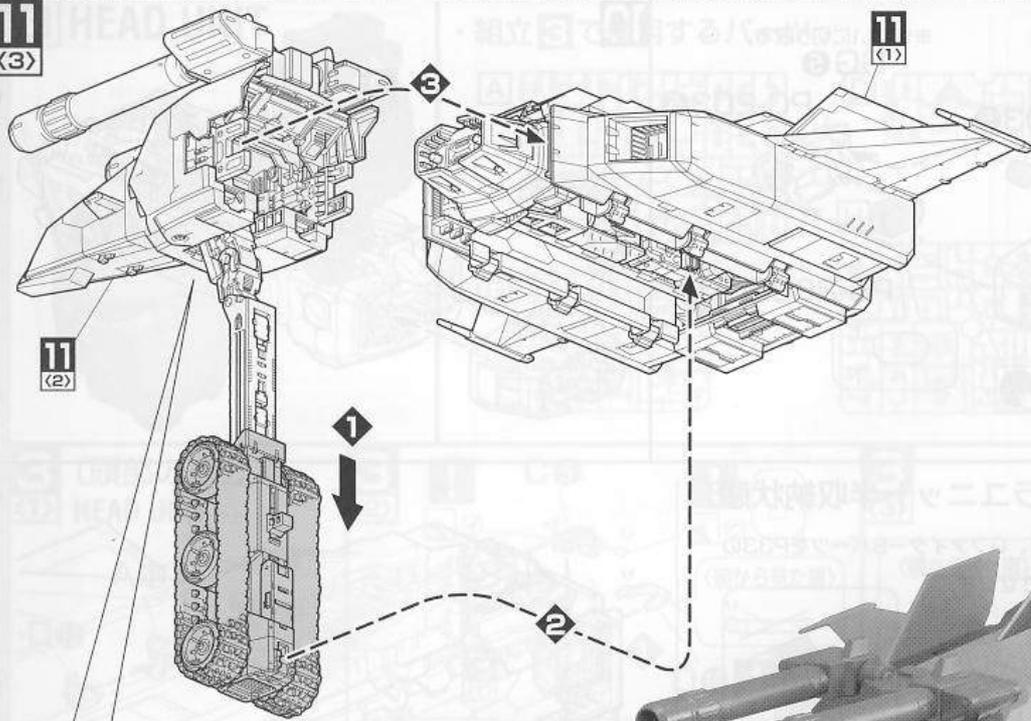
**11**  
(1)

〔Gファイターキャタピラユニット半収納状態〕

※Gファイター-AパーツをP29の**4**、Gファイター-BパーツをP33の**7**・**8**(1)の状態に戻してから変形させます。



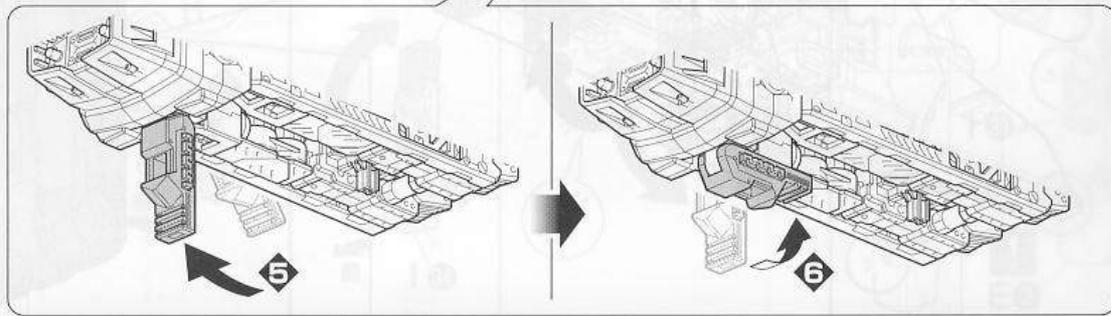
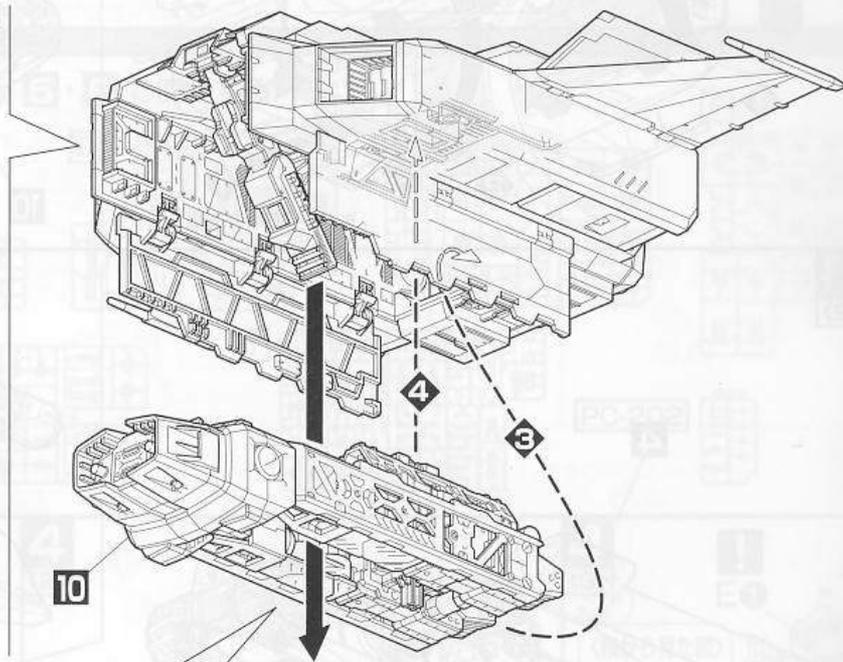
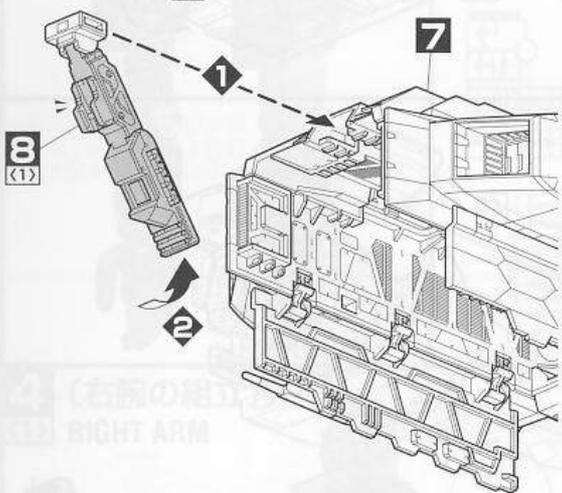
11  
(3)



12 [Gファイターキャタピラユニット展開状態]

(1)

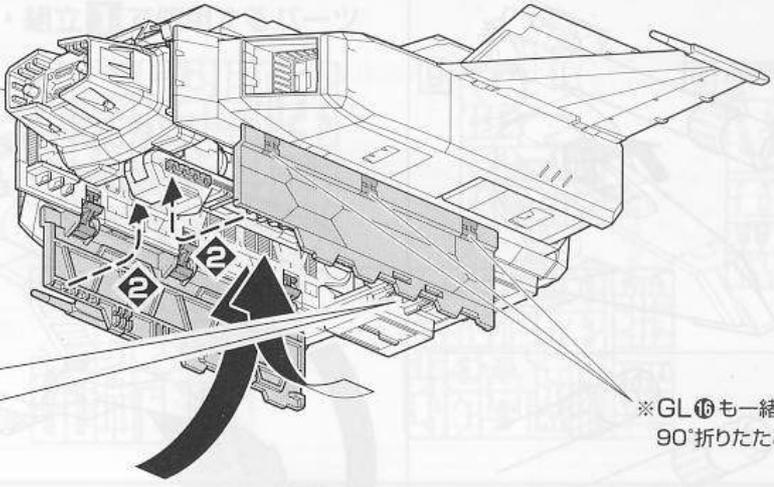
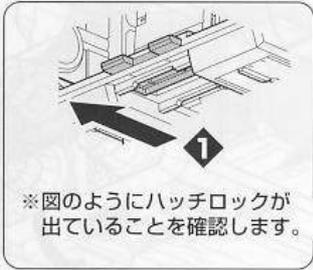
※GファイターAパーツをP37の11(2)、GファイターBパーツをP33の7・8(1)の状態に戻してから変形させます。



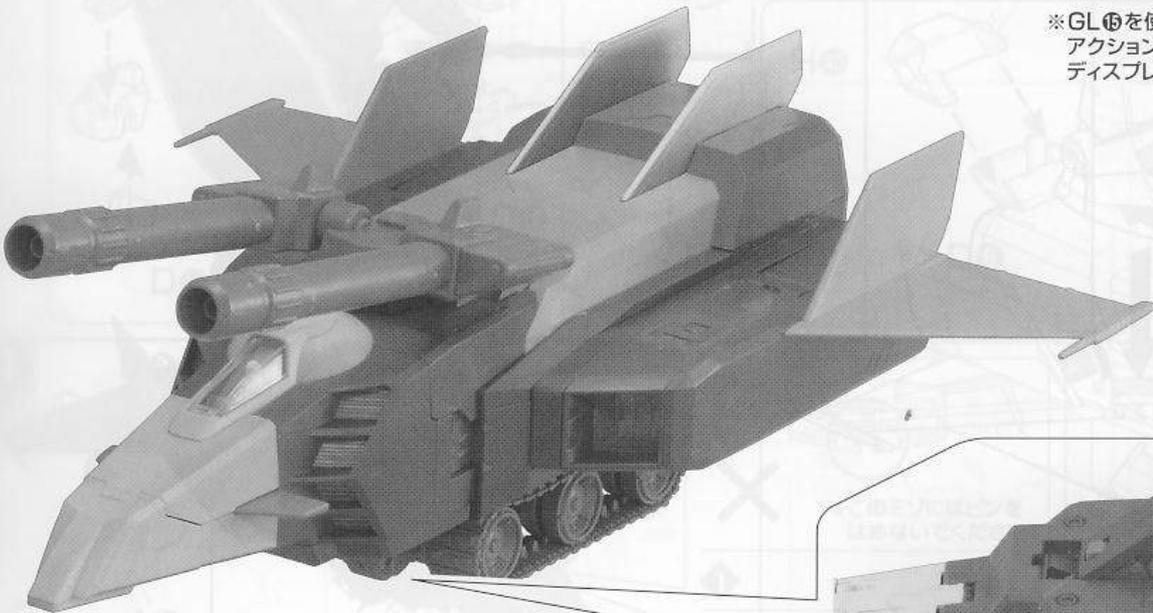
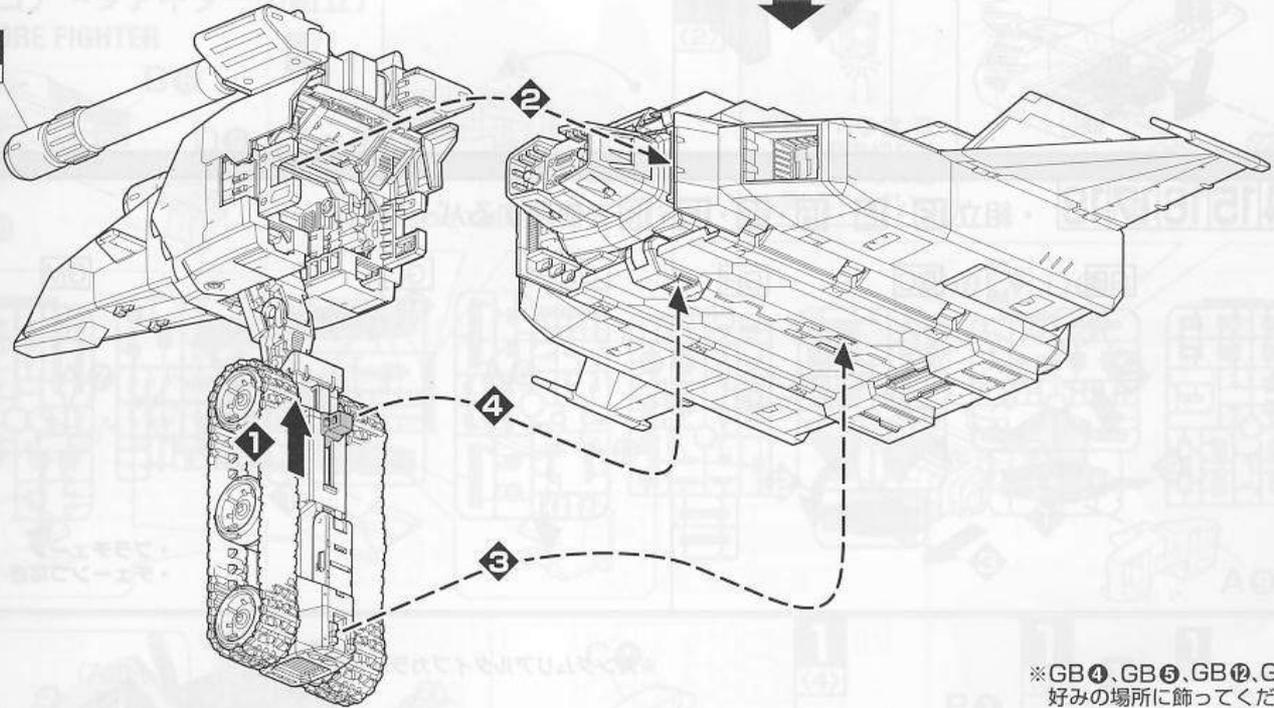
12  
(2)

タムリアルタイプカラーの組み立て  
CORE FIGHTER

12  
(1)



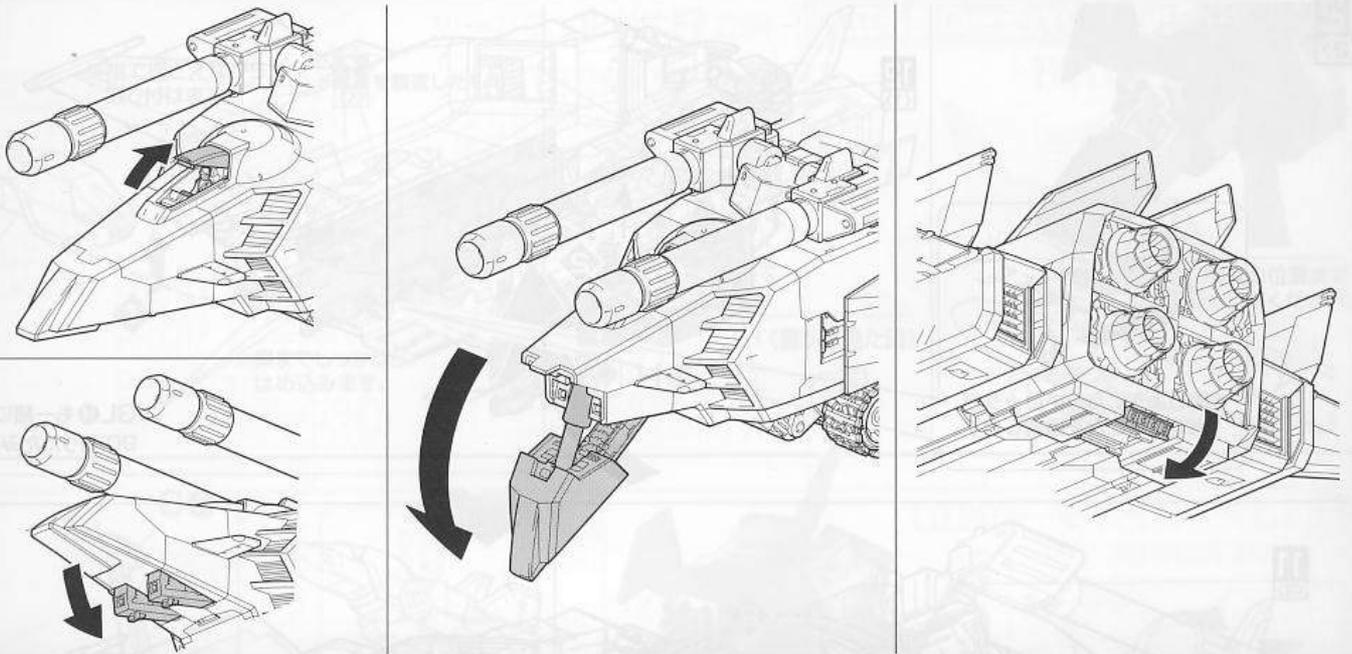
11  
(2)



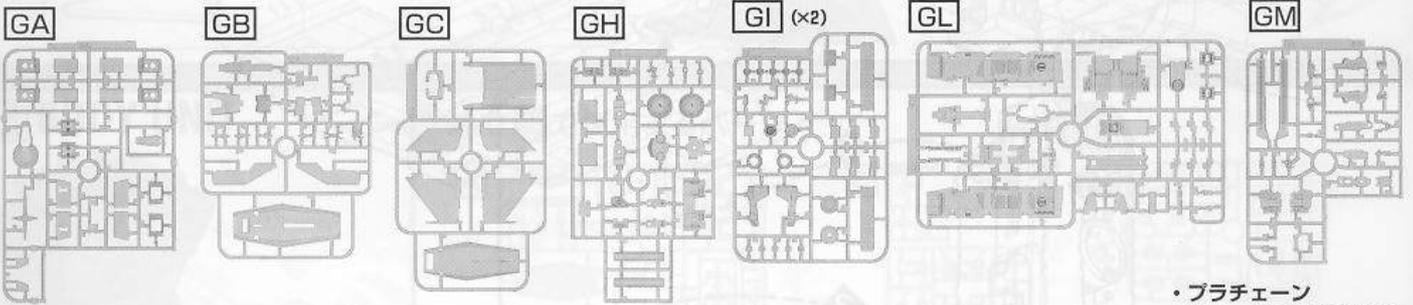
※GL⑩を使用してバンダイプラモデル  
アクションベース1(別売り)に  
ディスプレイできます。



12  
(3)



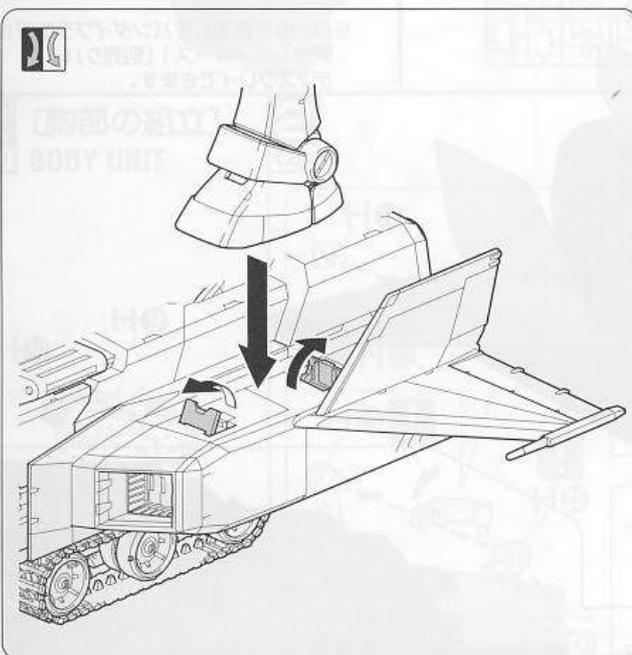
13 14 15 16 17 18 ・組立 13・14・15・16・17・18 で使用するパーツ



・プラチェーン  
・チェーンつなぎ (×2)

13

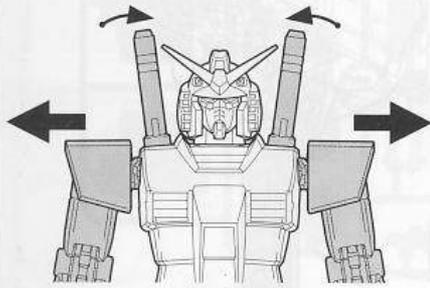
※ガンダムリアルタイプカラー



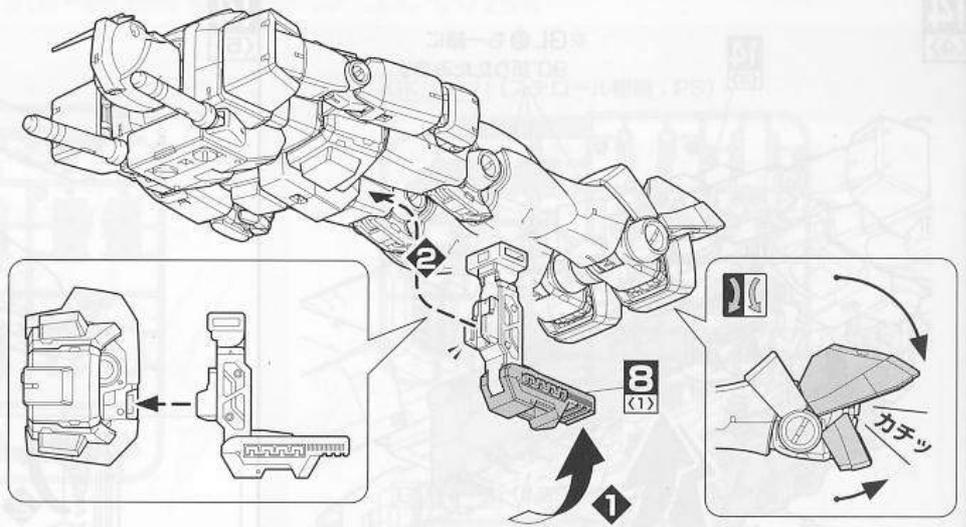
14 (Gアーマー)

(1)

※GファイターAパーツをP37の11、GファイターBパーツをP33の7・8の状態に戻してから変形させます。

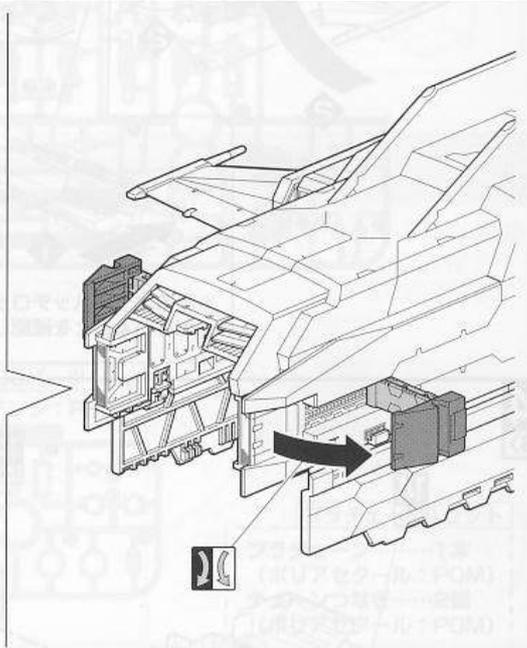
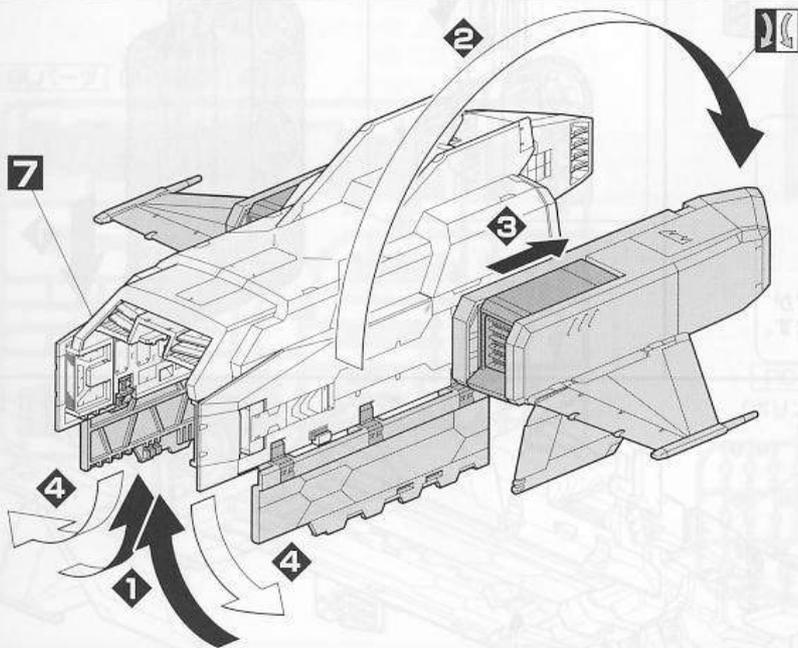


※ライフル・シールドは外しておきます。



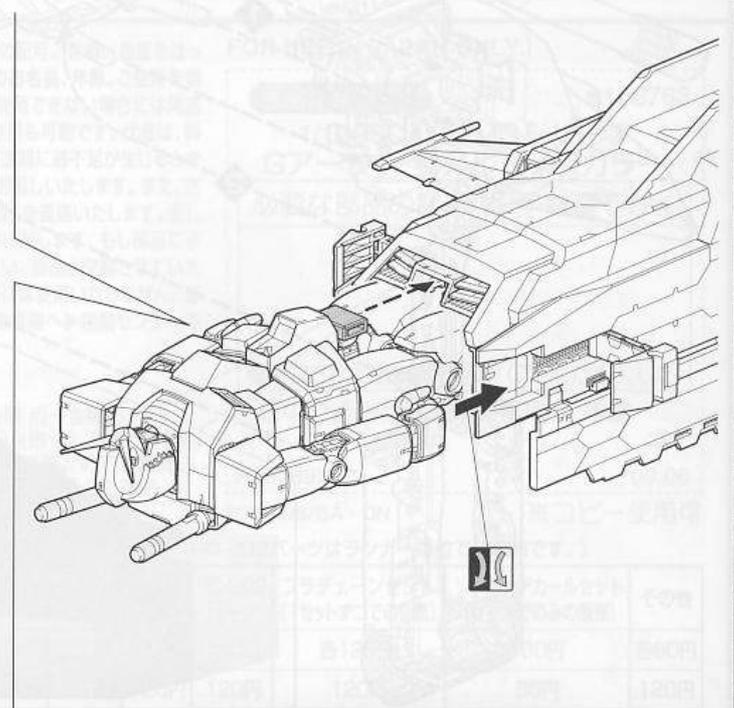
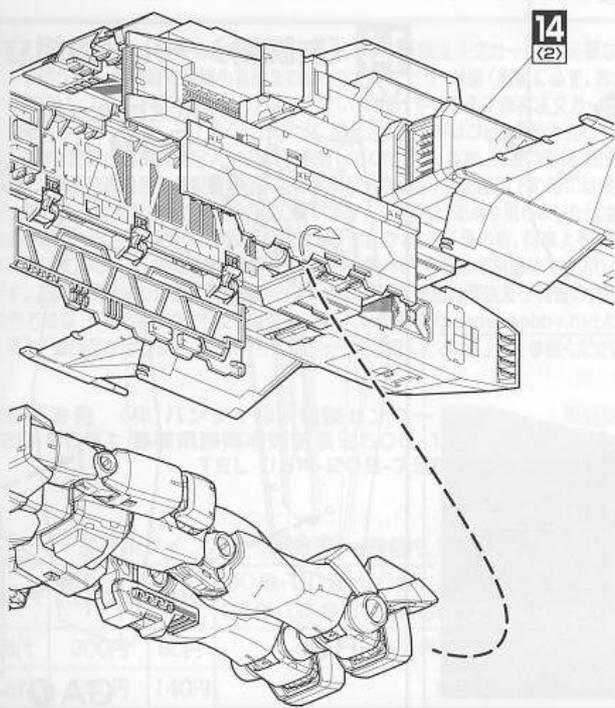
14 (2)

(2)



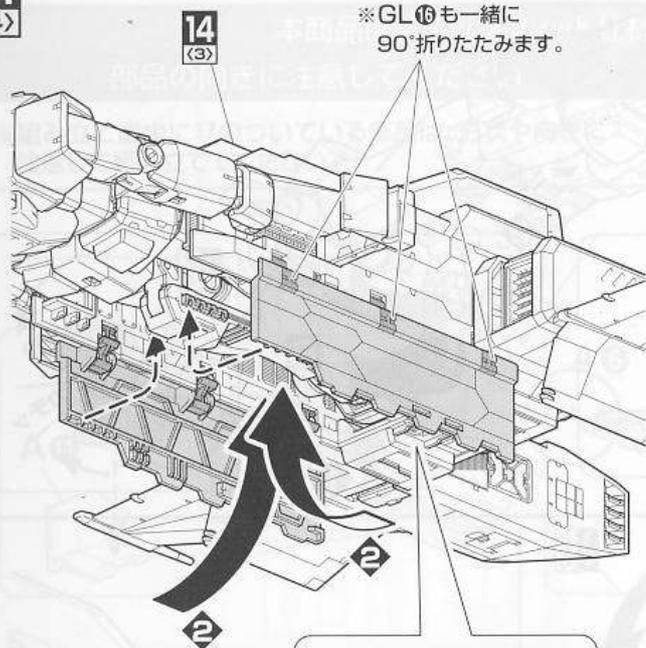
14 (3)

(3)



※組立途中の記号説明  両側を同じように動かす

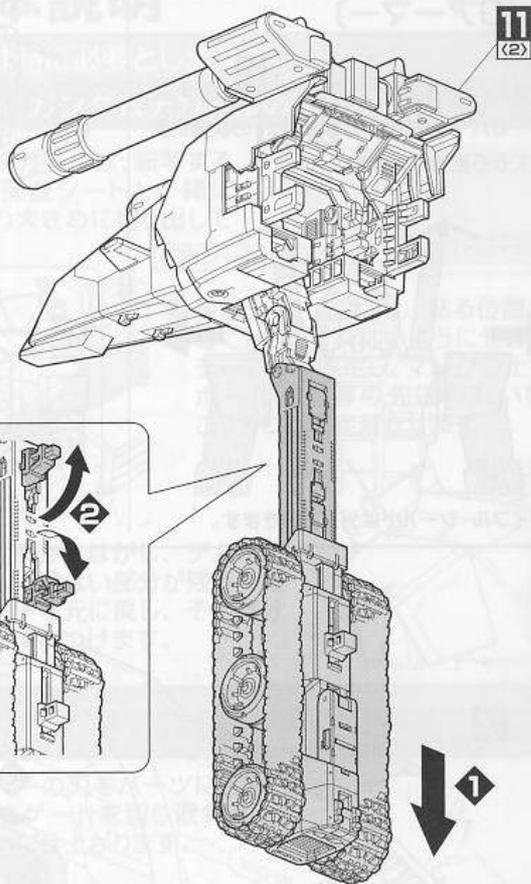
14  
(4)



※GL⑩も一緒に  
90°折りたたみます。

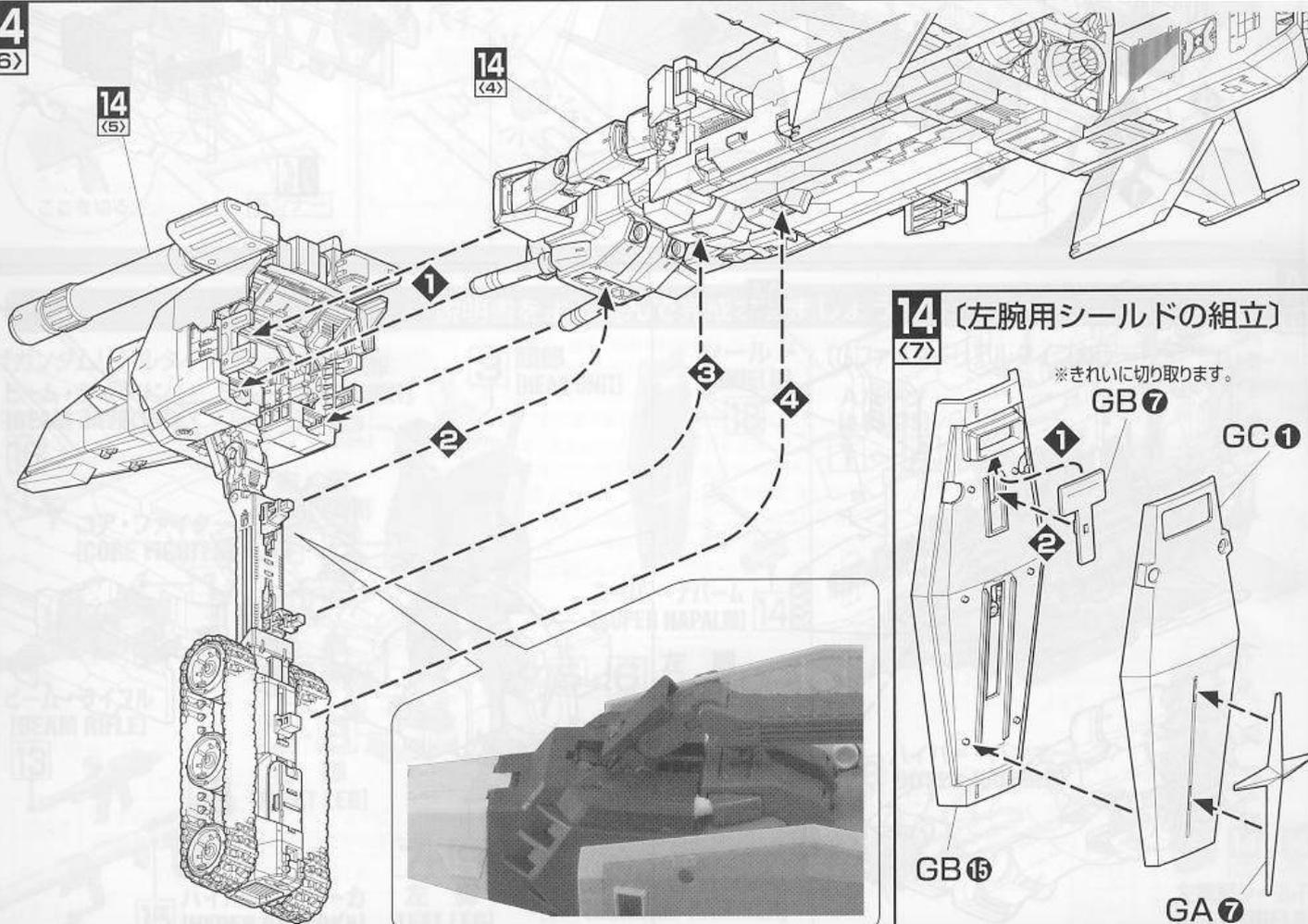
※図のようにハッチロックが  
出ていることを確認します。

14  
(5)



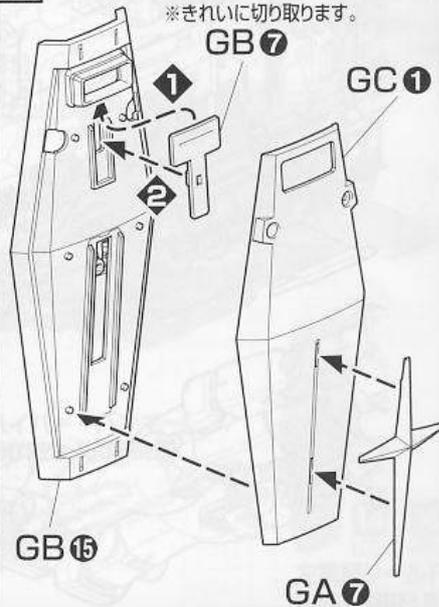
11  
(2)

14  
(6)

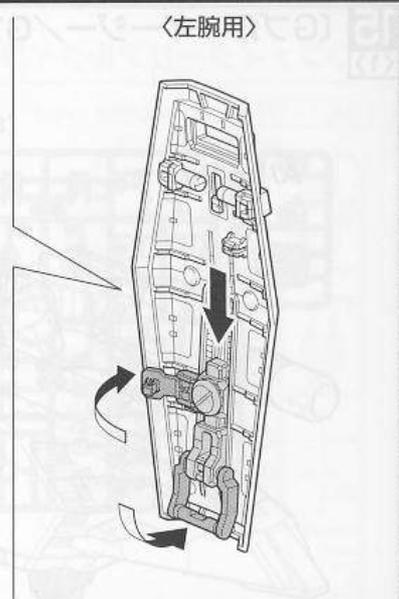
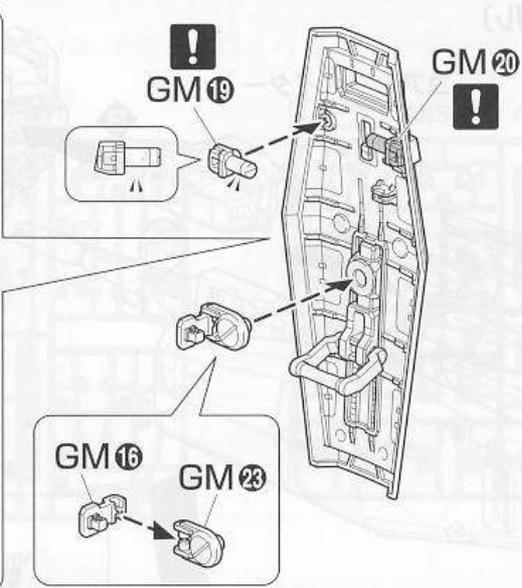
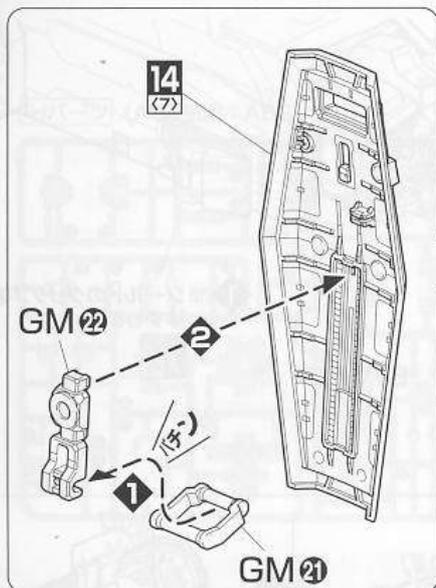


14 (左腕用シールドの組立)  
(7)

※きれいに切り取ります。



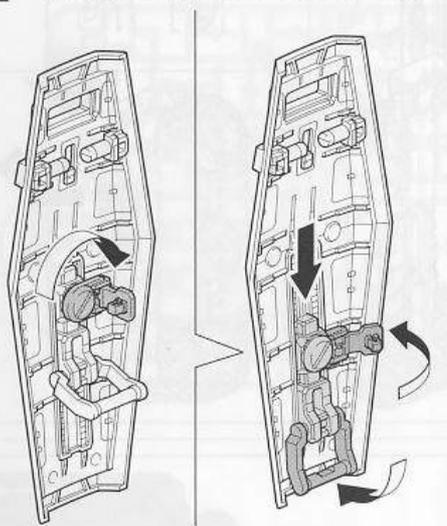
14  
(8)



14  
(9)

〈右腕用〉

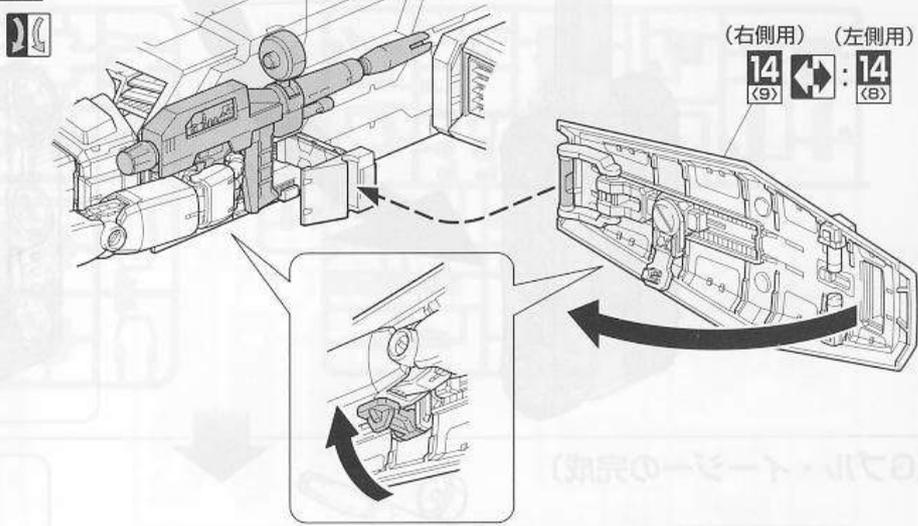
※ガンダムリアルタイプカラーで組み立てたもの。



14  
(10)

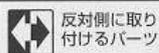
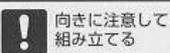
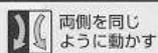
〔Gアーマーの完成〕

※ビーム・ライフルは図のように右手に持たせます。

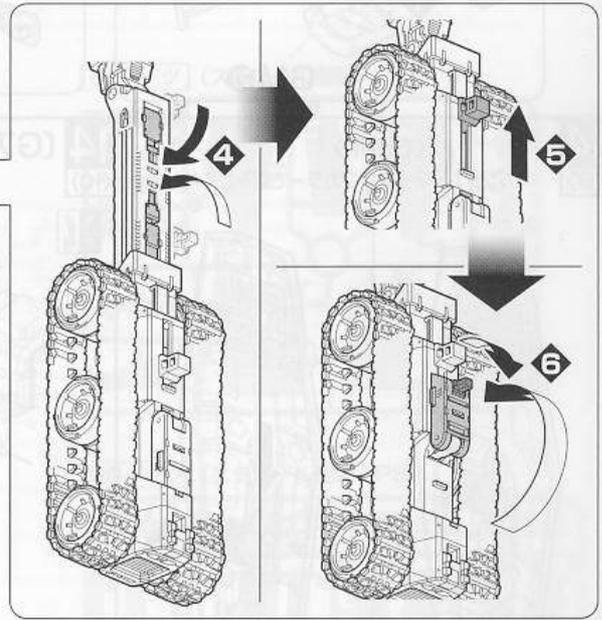
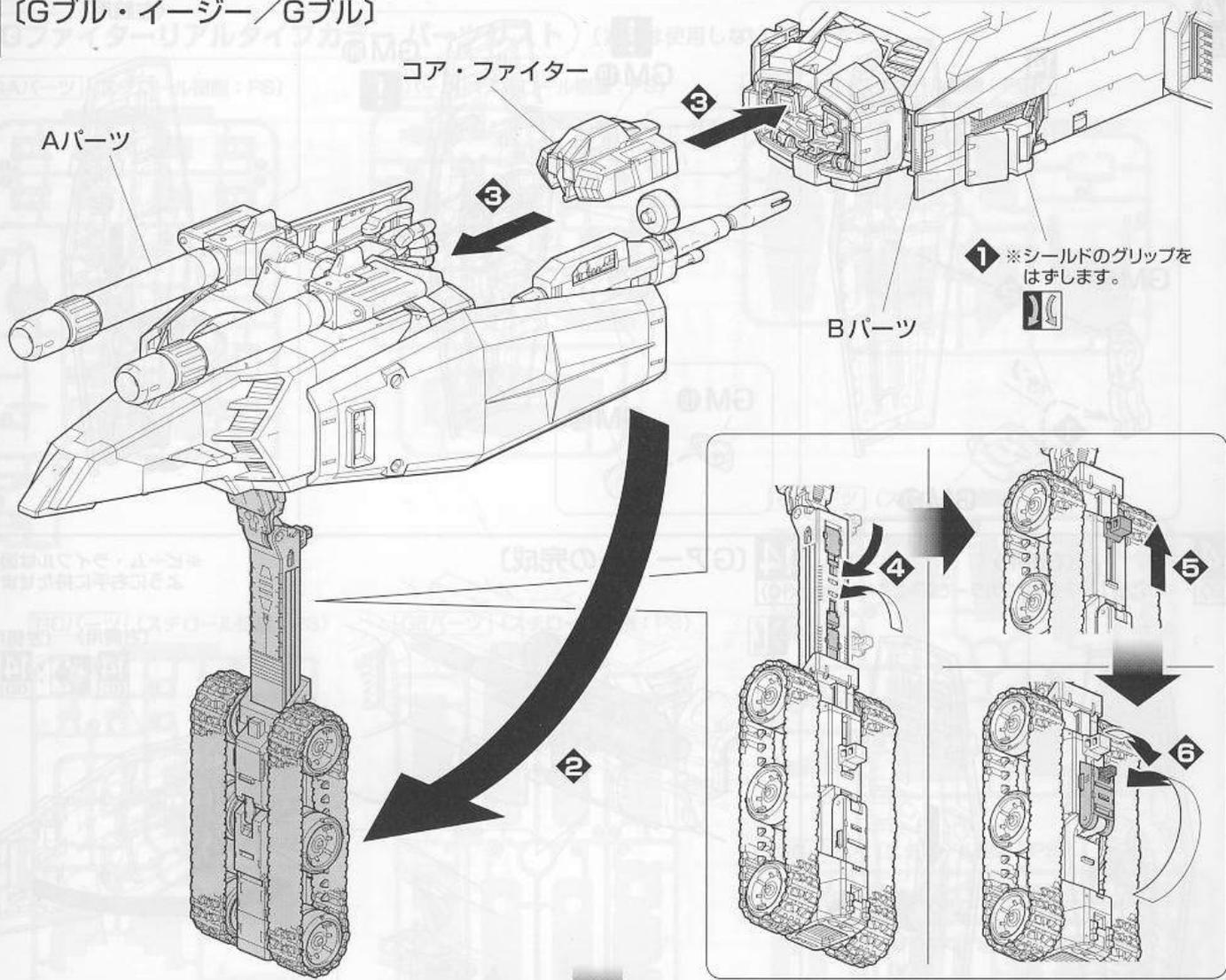


※GL16を使用してバンダイプラモデルアクションベース1(別売り)にディスプレイできます。

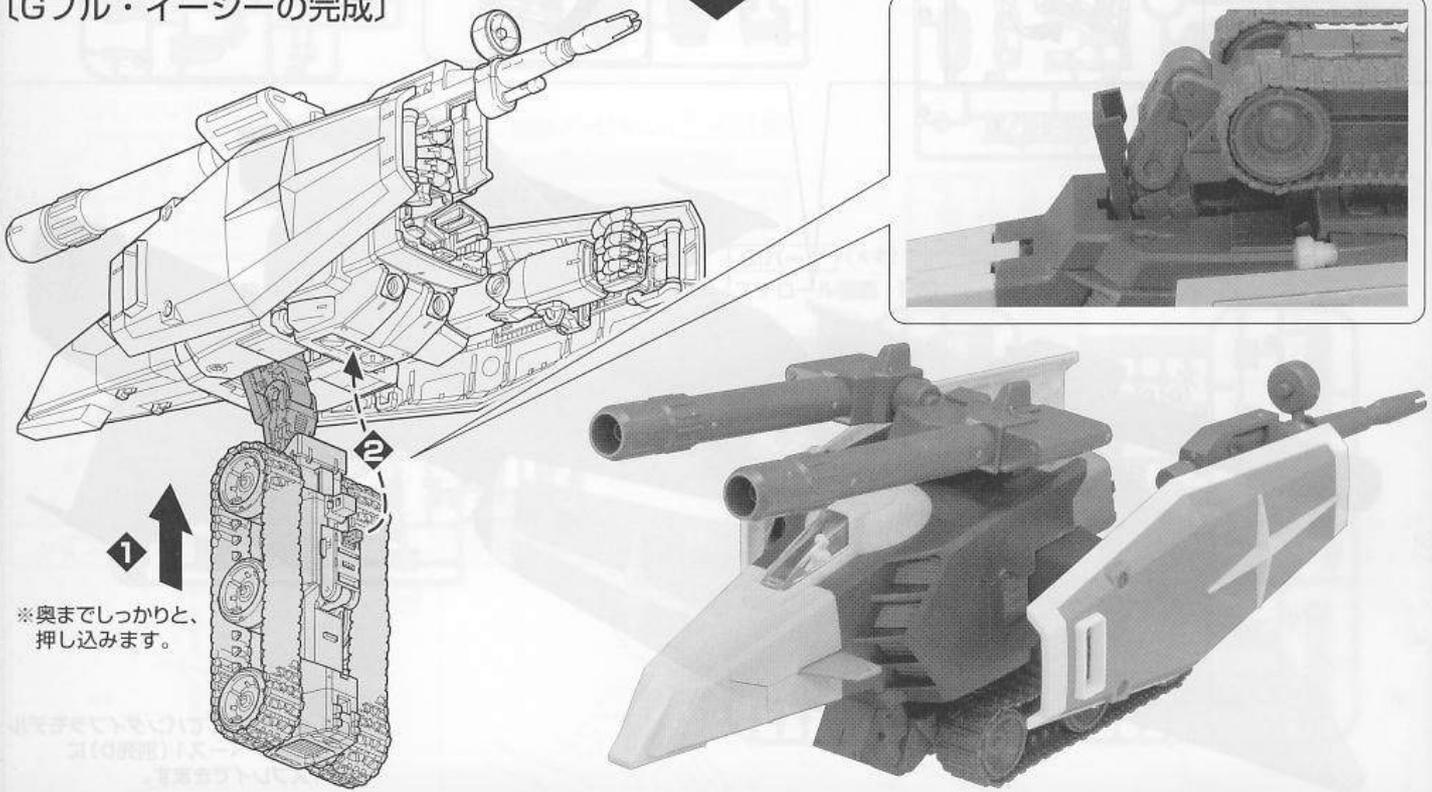
※組立図中の記号説明



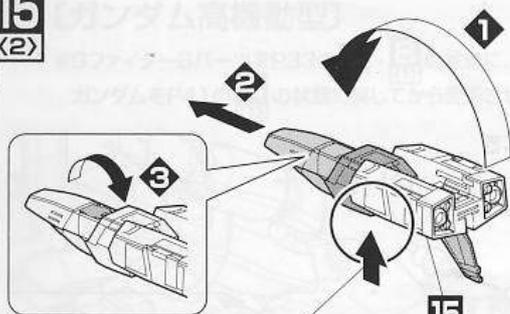
15 [Gブル・イーザー/Gブル]  
 (1)



[Gブル・イーザーの完成]



15  
(2)



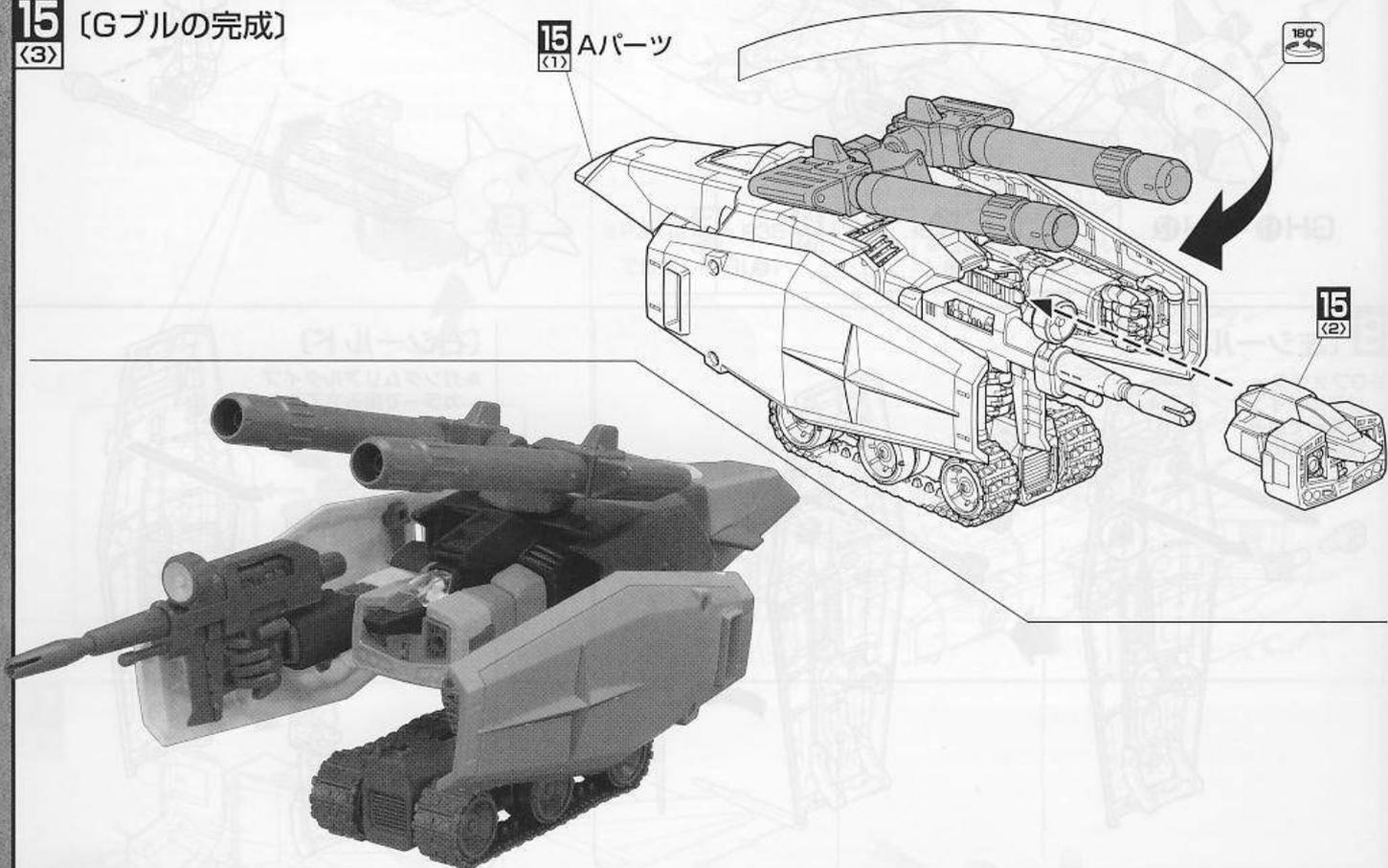
※元に戻す場合は、図の部分  
を指で押さえながら注意し  
て戻してください。

コア・ファイター

15  
(3)

〔Gブルの完成〕

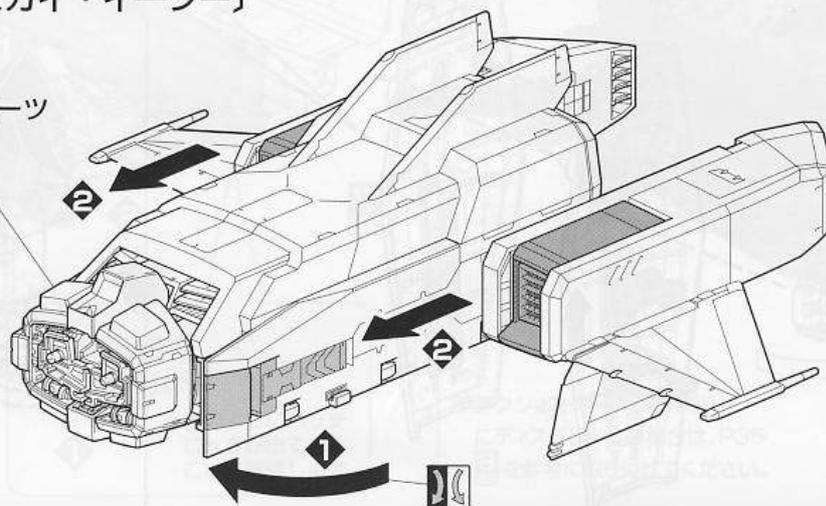
15  
(1) Aパーツ



16  
(1)

〔Gスカイ/Gスカイ・イーザー〕

15  
(1) Bパーツ



※組立図中の  
記号説明



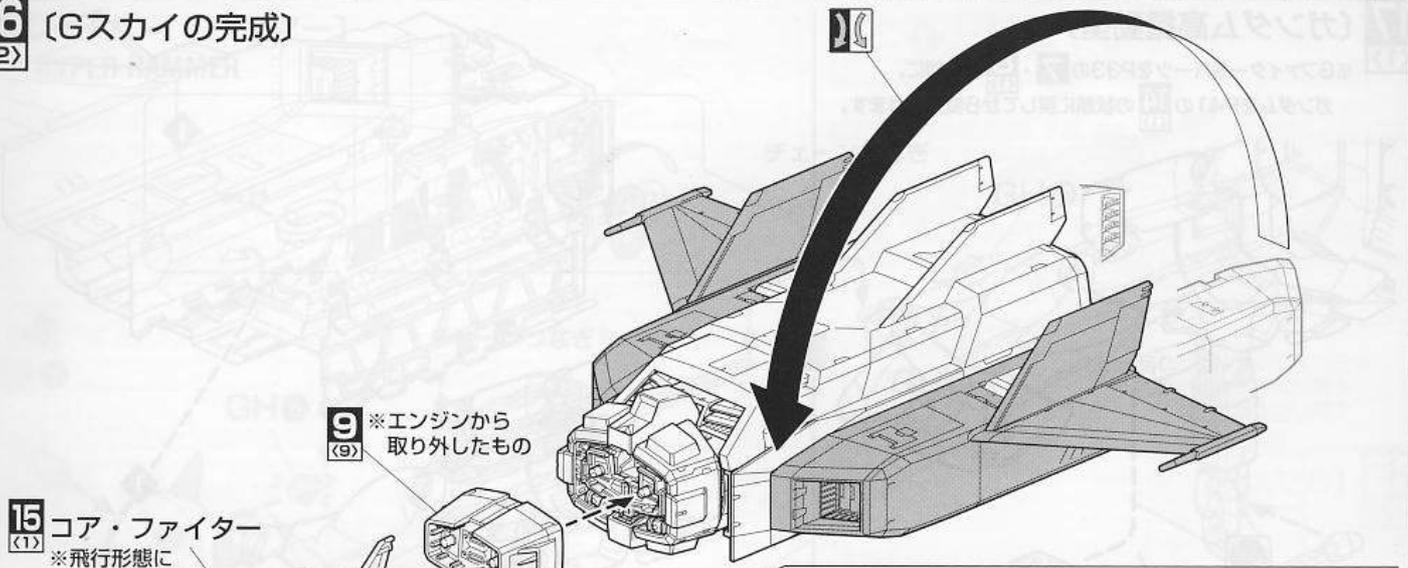
両側を同じ  
ように動かす



180° 数値に合わせて  
回転させます。

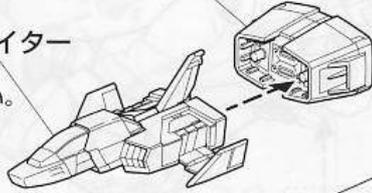
**16** [Gスカイの完成]

(2)

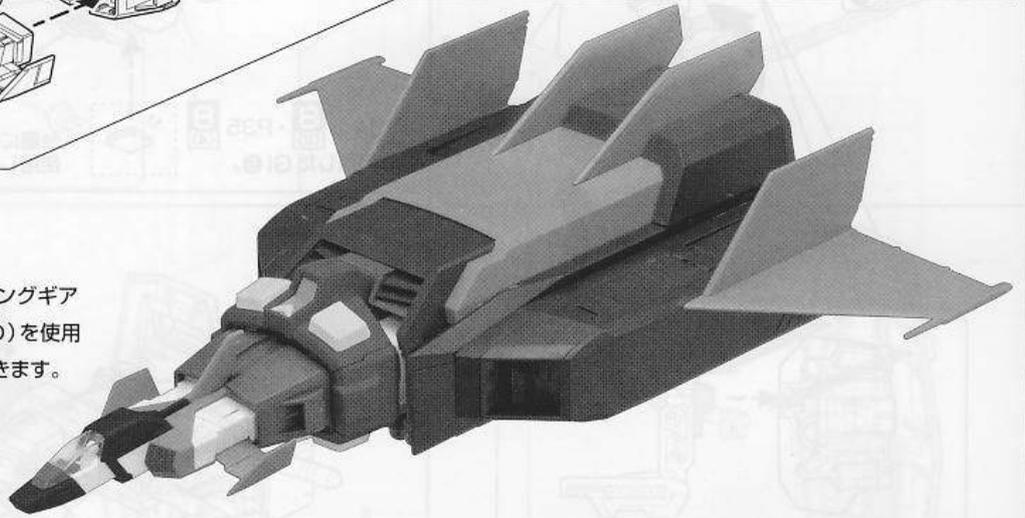


**15** コア・ファイター

(1) ※飛行形態にしてください。



※P35の **8** (4) を参考にランディングギア  
又はアクションベース1 (別売り) を使用  
してディスプレイすることができます。



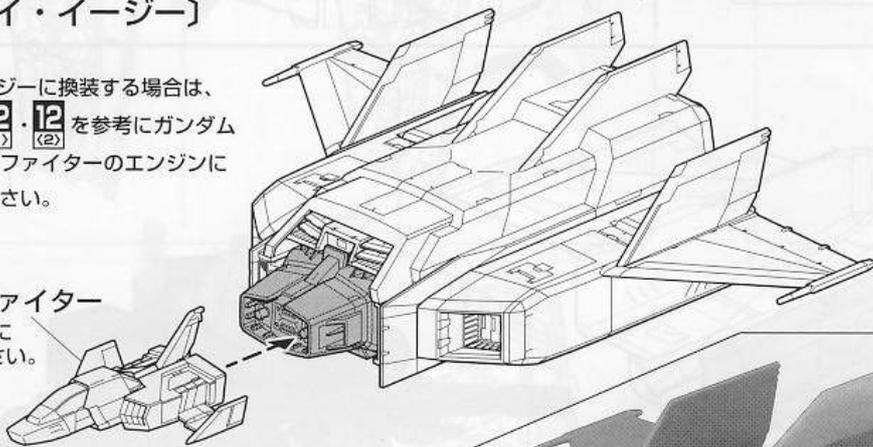
**16** [Gスカイ・イージー]

(3)

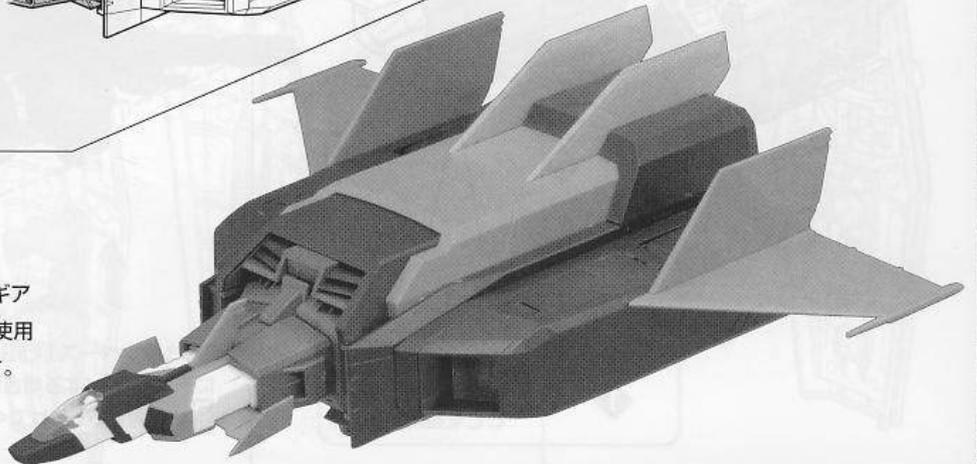
※Gスカイ・イージーに換装する場合は、  
P38~39の **12** (1)・**12** (2) を参考にガンダム  
のBパーツをGファイターのエンジンに  
載せ替えてください。

**15** コア・ファイター

(1) ※飛行形態にしてください。

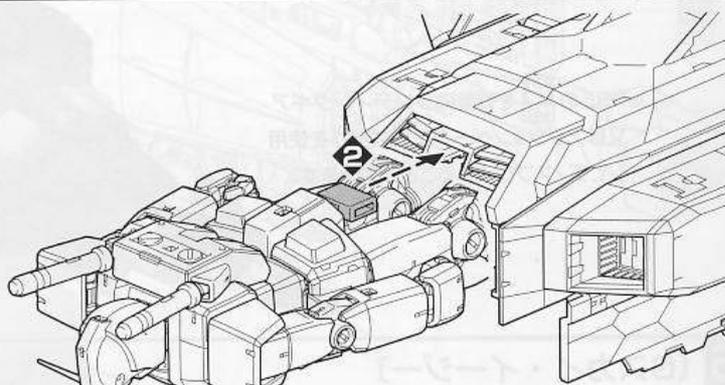
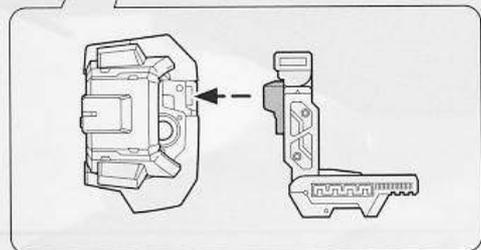
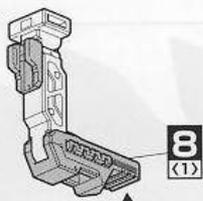
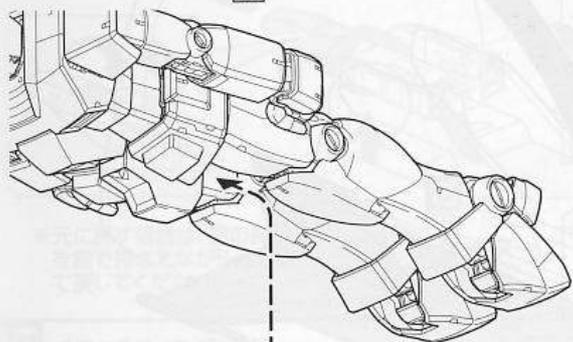


※P35の **8** (4) を参考にランディングギア  
又はアクションベース1 (別売り) を使用  
してディスプレイすることができます。

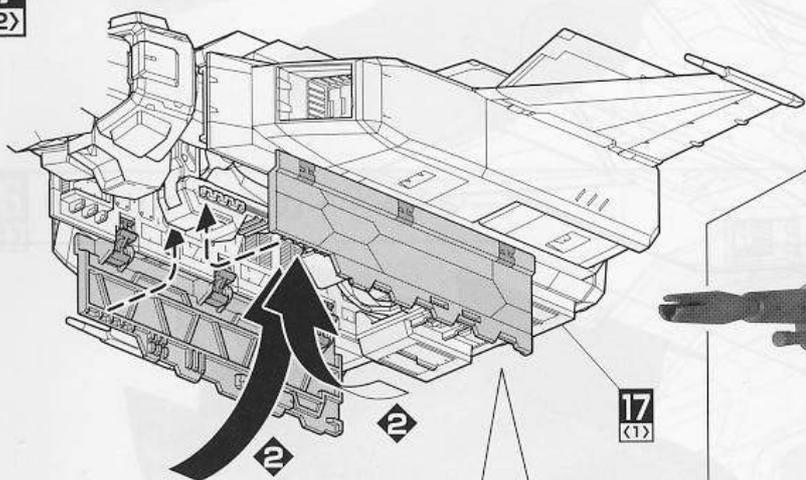


17 (ガンダム高機動型)

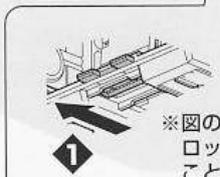
(1) ※GファイターBパーツをP33の7・8の状態に、ガンダムをP41の14の状態に戻してから変形させます。



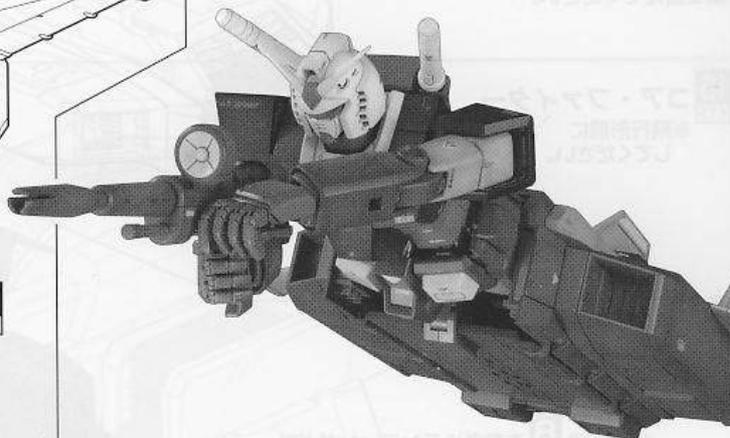
17 (2)



17 (1)

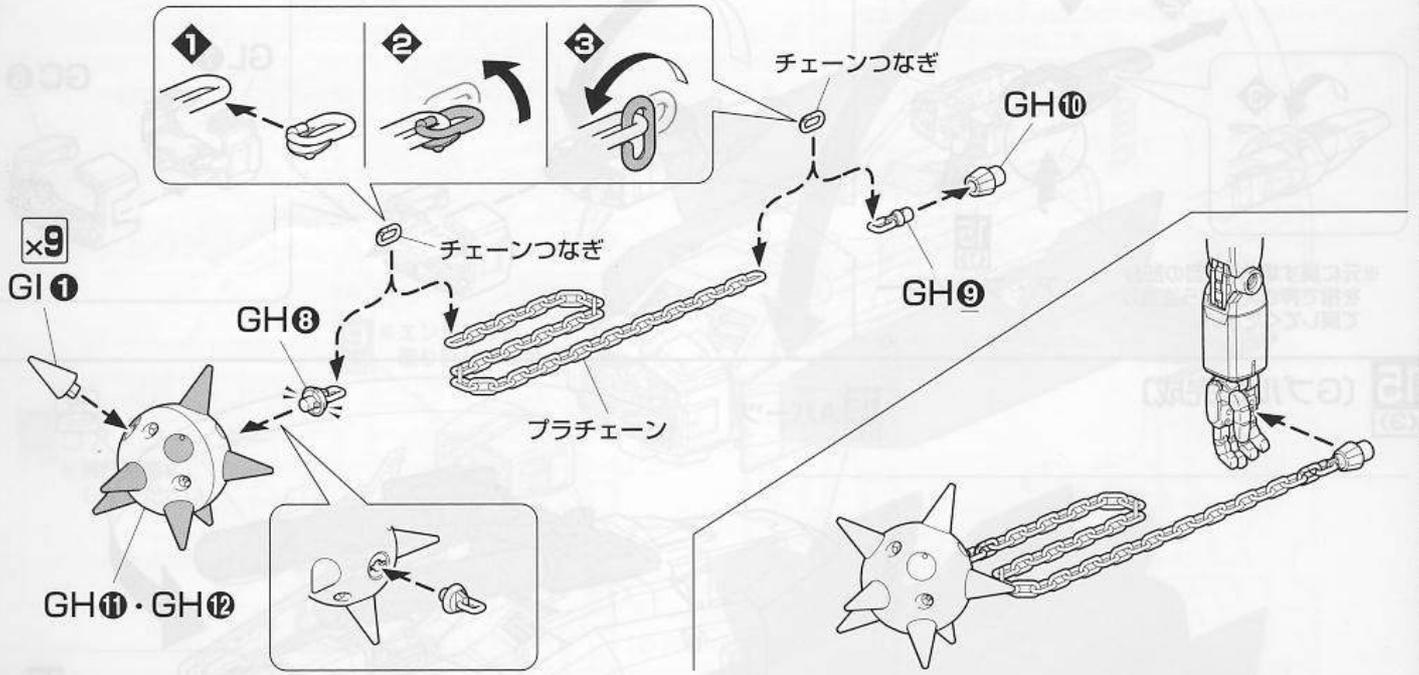


※図のようにハッチロックが出ていることを確認します。



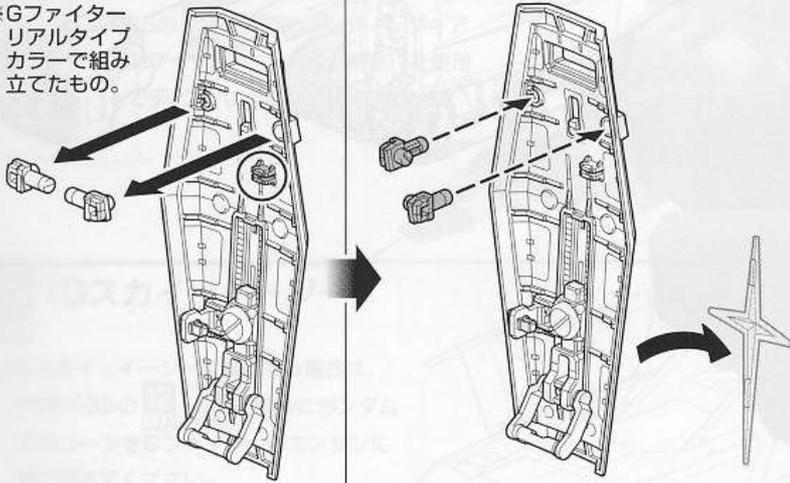
※アクションベース1 (別売り) にディスプレイする場合は、P35の8(4)を参考に取り付けてください。

18 (ハイパー・ハンマー)  
HYPER HAMMER



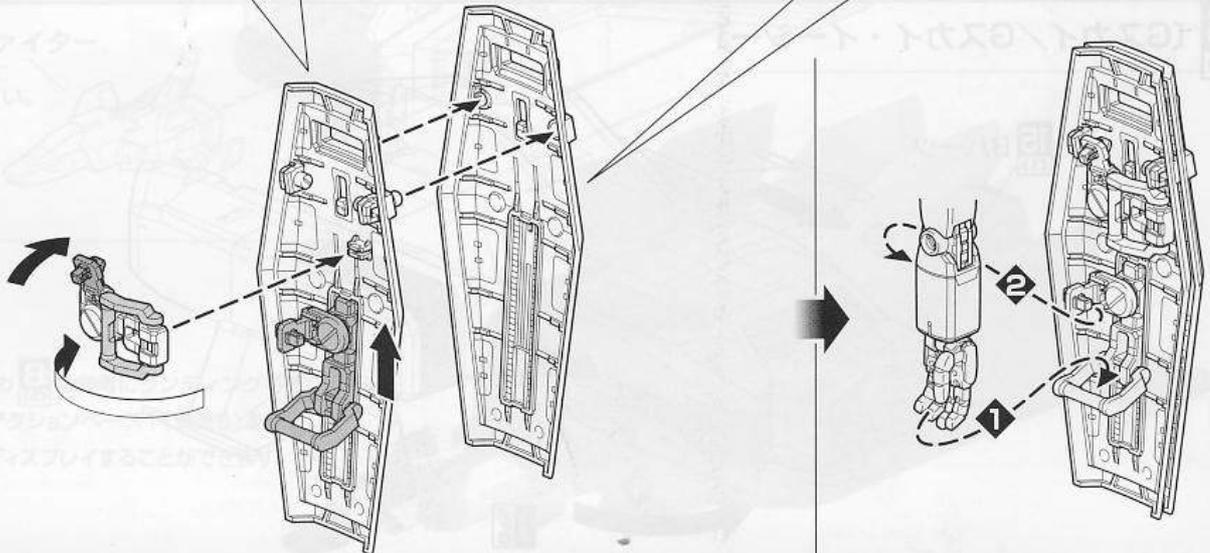
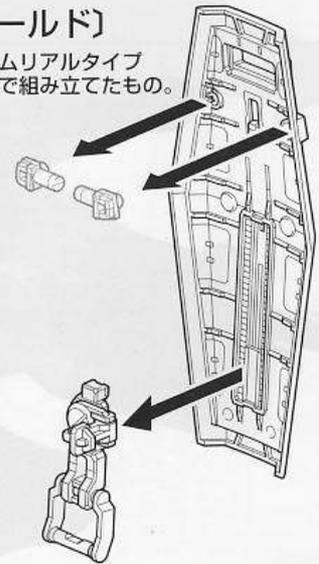
19 (左シールド)

※Gファイター  
リアルタイプ  
カラーで組み  
立てたもの。



(右シールド)

※ガンダムリアルタイプ  
カラーで組み立てたもの。





Scanned by Dalong.net

1/100 scale MASTER GRADE G-ARMOR REALTYPE COLOR



地球連邦軍  
試作型戦術支援メカ  
Gアーマー リアルタイプカラー  
1/100スケール マスターグレードモデル

G-ARMOR